

蒲郡市国保保健事業実施計画

(データヘルス計画)

第1期

(平成27年度～29年度)

蒲 郡 市

平成27年12月

目 次

はじめに（計画の概要）	5
1. ライフステージに沿った対策方針	5
2. 本市の現状と課題及び本計画における取り組みの概要	6
第1章 計画の趣旨	10
1. 計画の背景及び目的	10
2. 計画の性格と位置づけ	11
3. 計画期間と取り組み体制	12
第2章 蒲郡市の現状	13
1. 概要	13
(1) 人口構成と経年推移	13
(2) 寿命と死亡に関する状況	14
2. 国民健康保険、保険給付費及び医療費の推移と現状	15
(1) 国民健康保険加入者（被保険者）の動向	15
(2) 保険給付費及び医療費の推移	15
(3) 年齢階級別医療費	16
(3) 疾病の状況と生活習慣病保有率	17
(4) 疾病分類別医療費の割合	19
(5) 人工透析者数・新規透析導入件数と糖尿病からの移行	20
3. 特定健診の実施状況	21
(1) 受診率の推移	21
(2) 健診継続受診者・連続未受診者の状況	22
(3) 健診受診状況と生活習慣病治療状況との関係	22
(4) メタボリックシンドローム該当及び予備群の状況	23
(5) メタボ以外の健診検査結果	24
(6) 生活習慣病リスク発生状況及び問診からみた生活習慣の状況	26
4. 特定保健指導の実施状況	28
(1) 特定保健指導終了率	28
(2) 特定保健指導実施による効果（保健指導対象者数の翌年度の減少）	29
(3) 特定保健指導実施による効果（検査数値の変化）	29
5. 介護保険の状況	31
(1) 要介護認定率及び介護給付費	31
(2) 要介護者の有病率	31
(3) 65歳未満の要介護認定者の原因疾患	31
6. がん検診・ヤングエイジ健診の実施状況及び小学生の肥満の状況	32
(1) がん検診実施状況	32

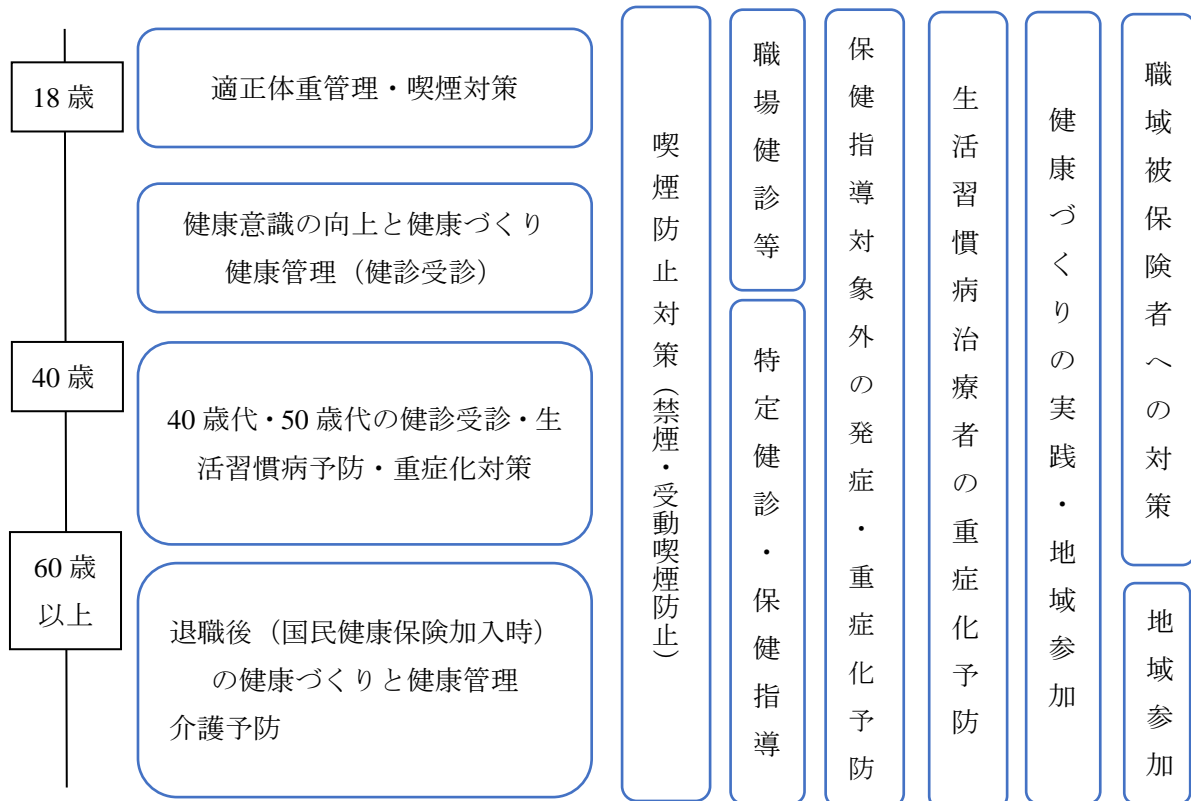
(2) 国保険加入者のがん検診受診状況	32
(3) ヤングエイジ健診実施状況	32
(4) 国保加入者のヤングエイジ健診受診状況	33
(5) 小中学生肥満度割合	33
第3章 既存の保健事業の取り組み	34
第4章 課題の抽出と推進施策	35
1. 本計画で優先強化する対策への戦略及び期待する効果	35
2. 課題解決のための保健事業と評価指標	37
第5章 計画の推進・評価及び見直し	38
第6章 データ管理・個人情報の保護	39
1 データ管理	39
2 個人情報保護の取扱い	39
※資料編	40
図表 1 計画期間	42
図表 2 蒲郡市の年齢区分別人口	43
図表 3 年齢階級別の人口及び国民健康保険被保険者数	43
図表 4 高齢化率	43
図表 5 65歳以上人口割合・75歳以上人口割合の伸び	44
図表 6 平均寿命と健康寿命	44
図表 7 死因	44
図表 8 年齢別死亡者数	45
図表 9 国民健康保険加入者（被保険者）の動向	45
図表 10 年齢階級別の国民健康保険被保険者構成割合	45
図表 11 被保険者数と保険給付費の推移	46
図表 12 一人当たりの保険給付費	46
図表 13 保険給付費と医療費の年次推移	46
図表 14-1 年齢階級別外来医療費	47
図表 14-2 年齢階級別入院医療費	47
図表 14-3 男女別年齢階級別一人当たり外来医療費	48
図表 14-4 男女別年齢階級別一人当たり入院医療費	48
図表 15 男女別年齢階級別一般疾病・生活習慣病保有者率	49
図表 16 男女別年齢階級別・生活習慣病ごとの保有者率	50
図表 17 医療受診状況による男女別生活習慣病保有率	51
図表 18 医療費の割合	52
図表 19 大分類別1人当たり医療費	52
図表 20 人口1万人あたり透析者数	53

図表 21	新規導入件数と糖尿病からの移行	53
図表 22	特定健康診査受診者数及び受診率	54
図表 23	性・年齢別特定健診受診者数及び受診率	54
図表 24	継続受診者の状況	54
図表 25	連続未受診者の状況	55
図表 26	平成 26 年度健康診査受診・未受診者と生活習慣病治療の状況	55
図表 27	特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム該当率	55
図表 28	特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム予備群該当率	56
図表 29	腹囲・非肥満高血糖の状況	56
図表 30	性・年代別の高血糖の状況	56
図表 31	年代別健診結果	57
図表 32	健診時の問診回答結果	58
図表 34	蒲郡市の男女別メタボリックシンドローム該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況	59
図表 35	市町村別特定保健指導終了率	59
図表 36	年代別特定保健指導対象者及び終了率	59
図表 37	特定保健指導利用者と未利用者の翌年度の保健指導判定	60
図表 38	特定保健指導による検査数値の変化	60
図表 39	要介護認定率及び一人当たり介護給付費	61
図表 40	要介護者の有病状況	61
図表 40	65 歳未満の要介護認定者の原因疾患	62
図表 41	平成 26 年度がん検診受診率	63
図表 42	平成 26 年度 国保加入者のがん検診受診者割合	64
図表 43	平成 26 年度 がん検診受診者の年代別国保加入状況	64
図表 44	平成 26 年度 がん検診 要精密検査数	65
図表 45	平成 26 年度 がん検診 要精密検査受診者数	65
図表 46	平成 26 年度 がん発見者数	65
図表 47	ヤングエイジ健診受診率（全体）	図表 48 ヤングエイジ健診判定結果（全体） 66
図表 49・50	ヤングエイジ健診受診者の国保加入状況及び 判定結果の状況	
図表 51	要指導と要医療判定者の性別主要所見内訳のうち国保加入者の状況（延）	66
図表 52	男女別小中学生の肥満度割合	67
図表 53	中学 1 年生血液検査結果	67
	既存の保健事業の取り組み・評価・課題	68
	課題の整理とその他の評価指標	73

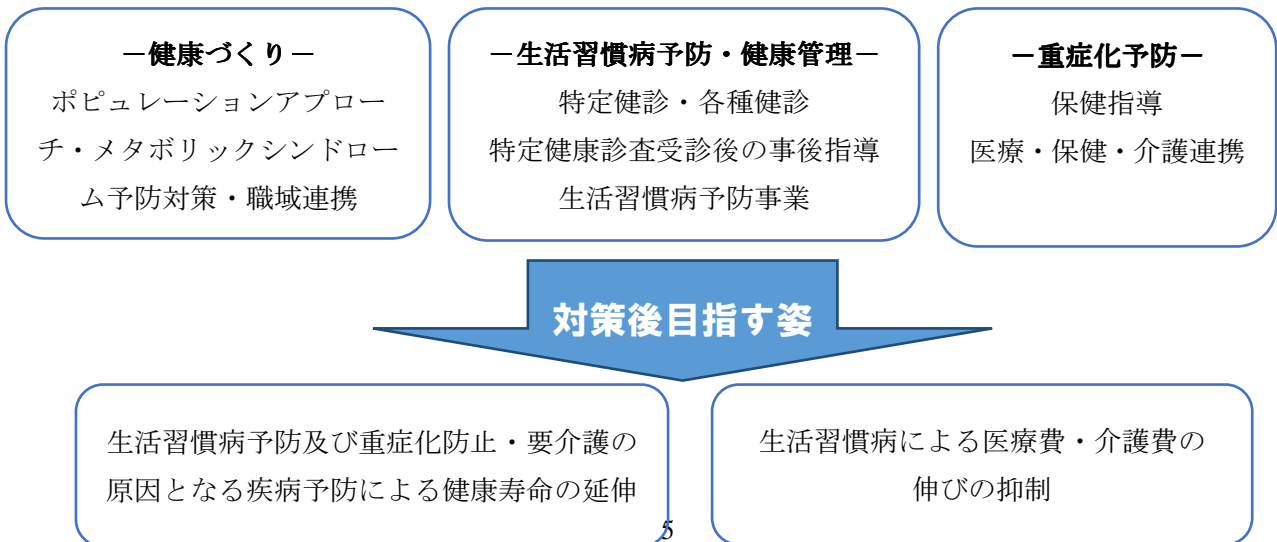
はじめに（計画の概要）

本計画では、ライフステージに沿った対策方針のもと、本市の特徴的な健康に関する現状から課題を抽出し、計画策定期間である3ヵ年（平成27～29年度）に特に強化して取り組む方を以下のようにまとめました

1. ライフステージに沿った対策方針



対策の柱



2. 本市の現状と課題及び本計画における取り組みの概要

本市の健康現状からみた課題

- ◆国保被保険者数は減少しているにもかかわらず、一人当たりの医療給付費は年々増加（平成24年度から25年度は4.4%、25年度から26年度は2.3%増）している。
医療費の伸びを増加させない保健事業が必要である。
- ◆高齢化率は年々上昇し、一人当たりの介護給付費は介護度が高い人ほど多くなっている。また2号被保険者の要介護認定原因疾患は、男性は脳血管疾患、女性は筋骨格系疾患を原因とする人が多いことから**性・年齢別の介護予防事業**が必要である。
- ◆人工透析者数(人口1万人対比)28.5人と愛知県内3位であり、糖尿病の服薬が愛知県と比較して多いことに加え、非肥満高血糖者の割合も高い状況であることから、**糖尿病予防を重点とした生活習慣病予防対策**が必要である。
- ◆メタボ及びメタボ予備群の生活習慣病リスク発生状況をみると、高血糖・高血圧・脂質異常の3つを重ねた割合が愛知県と比較して男女とも高いことから、**多重リスク者への対策**が必要である。
- ◆高血圧の保有者及び医療費が高いことから、**高血圧者への重症化対策**が重要である
- ◆特定健診、がん検診、ヤングエイジ健診の受診率が低いことから、若いころからの**健康管理と健康づくりの意識啓発**をし、意識を向上することが必要である。
- ◆特定健診結果では、50歳代男性の有所見率が多くの疾患で高く、また若い男性の肥満、メタボ、喫煙率が高いことから、**若い男性をターゲットとした健康づくり対策**が必要である
- ◆特定保健指導終了率が低く、特に40～50歳代の働き盛りの割合が低い。特定健診受診から継続して保健指導に**つながる体制づくり**と、受診者への意識啓発が必要である。
- ◆がんによる死亡、生活習慣病の医療費割合が多いことから、**がん・生活習慣病予防の対策**に力をいれる必要がある。
- ◆20歳からの体重増加者、運動習慣の少ない人が愛知県と比較して多いことから、**体重コントロールと運動の実践**に力を入れた保健事業が必要である
- ◆ヤングエイジ健診の受診率が低く男性のメタボ・脂質異常、女性の脂質異常・やせが多いことから、**ライフステージに応じた生活習慣病予防**の取り組みが必要である。

本計画で強化すべき取り組み

- 1 糖尿病予防事業の実施
- 2 多重リスク保有者への重症化防止対策
- 3 高血圧者への生活改善指導
- 4 地域・多機関と連携した生活習慣病予防の取り組み
- 5 ライフステージに応じたメタボ予防対策
- 6 体重管理と運動不足の改善
- 7 介護予防として男性の脳血管対策、女性の運動機能向上対策
- 8 若い世代の健康の意識の向上と保健指導の充実

強化すべき取り組みに対する推進施策

- 1 糖尿病予防事業の実施
 - (1) 一般市民を対象とした知識普及啓発事業
 - (2) 高血糖が疑われる方を対象とした糖尿病予防健康教育
 - (3) 重症化防止のための個別指導・訪問指導
 - (4) 非肥満高血糖者への保健指導
- 2 多重リスク保有者への重症化防止対策
 - (1) 生活習慣病発症リスクを複数もつ方を対象とした保健指導
 - (2) 訪問指導
- 3 高血圧者への生活改善指導
 - (1) 高血圧者を対象とした高血圧予防健康教育
 - (2) 重症化防止のための個別指導・訪問指導
- 4 地域・多機関と連携した生活習慣病予防の取り組み
 - (1) 宿泊型保健指導
 - (2) 医療機関と連携した人工透析予防
- 5 ライフステージに応じたメタボ予防対策
 - (1) 40～50歳の働き盛りの健診の受診勧奨
 - (2) 健康づくりの実践のための情報提供
- 6 体重管理と運動不足の改善
 - (1) 体重測定の実施啓発
 - (2) 運動の推進と実践のための情報提供
- 7 介護予防として男性の脳血管対策、女性の運動機能向上対策
- 8 若い世代の健康の意識を向上と保健指導の充実

現 状	課 題	取り組みの目標と方策
<p>健診を連続して受診しない人が多い <H20-24 年度> 5 年連続未受診者 41.9% (4,590 人)</p>	<p>新規健診受診勧奨と継続受診の取り組みが必要である。</p>	<p>協会けんぽ、職域と連携し若いころからの健診受診の意識づけをする 健診結果表に健診結果を継続的に見たくなるような工夫や健診受診によるポイントをつける（健康マイレージ）</p>
<p>糖尿病が心配な人が多い 保有率・服薬者・医療費割合・治療者・特定健診 HbA1c 値、非肥満高血糖者割合・人工透析者の割合が高い <H26 年度> <u>HbA1c7.0%以上</u> 蒲郡市 310 人 (5.04%) 県平均 22934 人 (4.35%) (KDB システム)</p>	<p>糖尿病の重症化予防を重点においた取り組みが必要である。</p>	<p>HbA1c7.0 以上の割合を現状から 3 割減らす 5.04%→3.53% ・特定健診の結果、HbA1c7.0%以上には、健診結果を直接手渡しし、検査結果の説明と今後の生活について考え改善に向けて取り組む ・蒲郡市民病院と連携した糖尿病患者への生活改善指導を実施する</p>
<p>生活習慣病リスクを複数もつ人が多い 特定健診結果において、メタボ該当及び予備群の生活習慣病発症リスクで、高血糖・高血圧・脂質異常の 3 つを重ねた割合が高い <H26 年度> <u>血糖＋血圧＋脂質</u> 蒲郡市 9.2% 県平均 5.6% (KDB システム)</p>	<p>多重リスク・ハイリスク者への対策が必要である</p>	<p>ハイリスク者への重症化防止を重点的に実施する ・特定健診の結果、生活習慣病リスクを複数持つものを優先して保健指導を実施する。面談のほか、保健師・管理栄養士による家庭訪問での指導を強化する ・血糖、血圧等の服薬者に対して、保健師・管理栄養士による生活改善指導を行う</p>

<p>高血圧の保有者及び医療費が高い。服薬者が多い</p> <p><H26 年度></p> <p><u>高血圧服薬者</u></p> <p>蒲郡市 40.8%</p> <p>県平均 34.1%</p> <p>(特定健診問診)</p>	<p>高血圧者への重症化対策</p>	<p>高血圧服薬者の割合を減らす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧服薬者を対象に保健指導を実施する ・主治医と連携した指導体制をつくる ・メタボ該当で高血圧内服者に個別に連絡をとり、直接健診結果を手渡しして指導する
<p>20 歳からの体重増加者・運動習慣の少ない人が多い</p> <p><H26 年度></p> <p><u>運動習慣なし</u></p> <p>蒲郡市 52.2%</p> <p>県平均 49.0%</p> <p>(特定健診問診)</p>	<p>体重コントロールと運動の実践に力を入れた保健事業が必要である</p>	<p>毎日体重を量る人を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重測定 100 日チャレンジの新規参加者を 100 人にする <p>運動習慣のなしの割合を減少させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングイベントや運動教室の参加者を増やす

第1章 計画の趣旨

1. 計画の背景及び目的

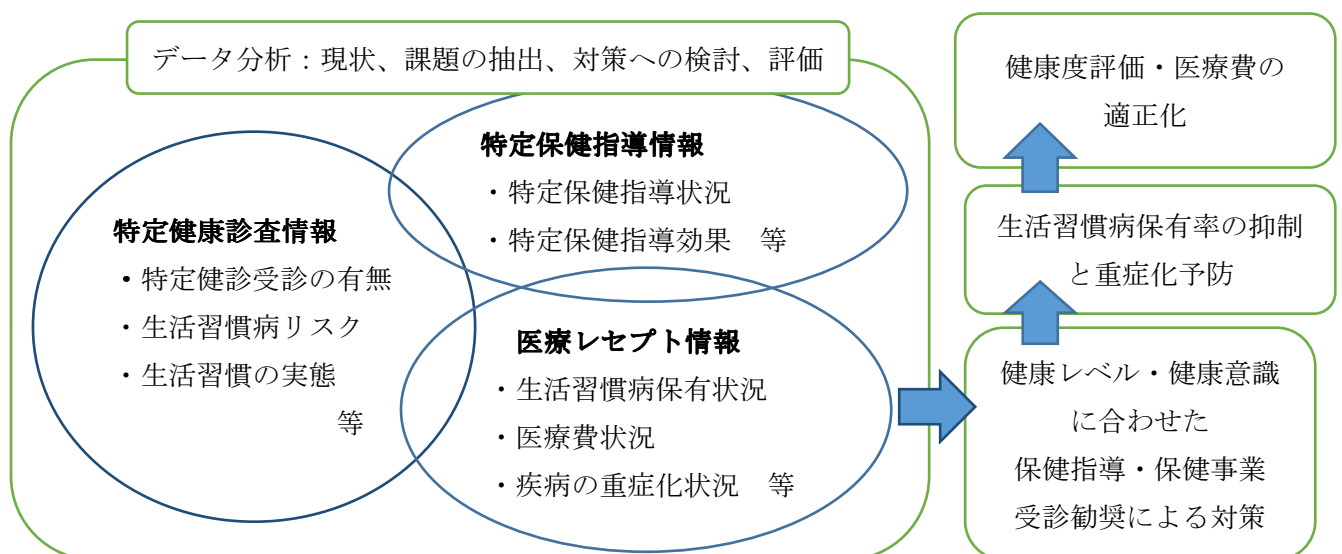
日本は超高齢社会に成長し続け、本市においても少子高齢化が進展し、高齢化率は県平均を大きく上回るとともに、医療費は増大傾向にあります。

こうした背景を踏まえ、本市では平成25年度に「第二期蒲郡市特定健康診査等実施計画」、平成26年度に「健康がまごおり21第2次計画」を策定し、市民の健康づくり及び疾病の重症化予防等に取り組んでおります。高齢者においては、平成27年1月に「蒲郡市第6期介護保険事業計画・高齢者福祉計画」を策定し、介護保険及び高齢者の介護予防についても取り組みを進めおります。

平成25年6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」では、「国民の健康寿命の延伸」を重要施策と位置づけ、この実現のため「国民健康保険団体連合会に集約されている健診、医療、介護のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表・事業実施・評価等の取り組みを行うことを推進する」としています。また、「健やかに生活し老いることのできる社会の現実には、医療管理、健康管理、病気とのかかわりのある生活への支援サービス等の基盤となる」や「健康に係る個々人の様々なニーズを充足することが不可欠である」とされ、対象者の個々の健康状況や健康意識、生活習慣に合わせた保健事業が重要な位置づけを占めています。

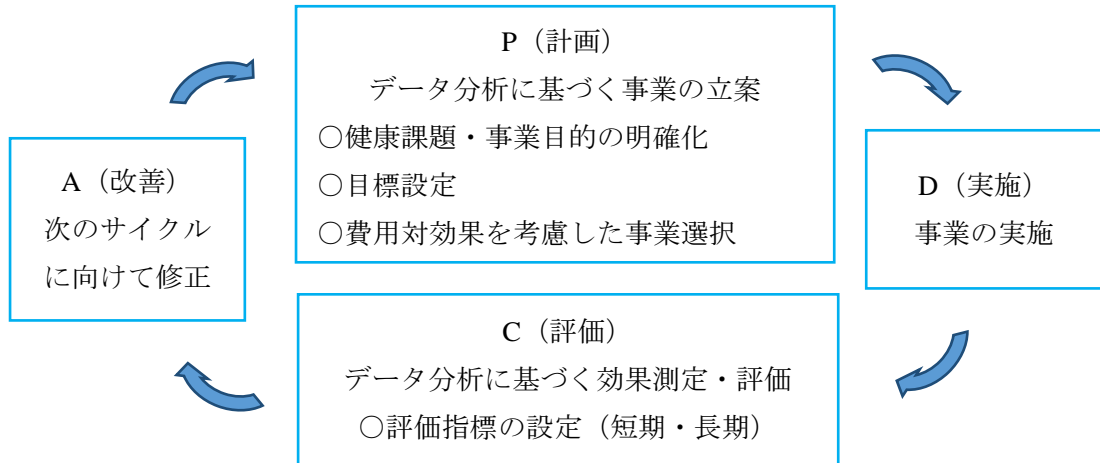
本市においても、これまで特定健診、がん検診、健康づくり事業など、さまざまな保健事業を実施してきましたが、今後は国民健康保険における医療レセプト及び特定健康診査・介護の状況等を保有しているKDBシステム等のデータを活用し、対象者の健康レベルに合わせた個別性のある事業展開が大切です。

そこで、本市では、特定健診・医療レセプト情報等を活用してPDCAサイクルに沿った保健事業の実施を図るため、保健事業実施計画（データヘルス計画）を策定し、健康管理や疾病予防、重症化予防の視点から市民の健康寿命の延伸と医療費適正化を目指します。



2. 計画の性格と位置づけ

本計画は、科学的なアプローチにより保健事業の実効性を高めていくことをねらいとし、その特徴として、KDB システムやレセプトデータ等の活用により、現状把握から課題を明確にし、対象者に合わせた効率かつ効果的な保健事業を実施するため PDCA サイクルに沿って活動展開をします。



計画の位置づけとして、本市の第四次蒲郡市総合計画を上位計画とし「三河湾に輝く人と自然が共生するまち 蒲郡」を実現するための基本目標の一つである「笑顔で安心して暮らせるまちづくり」に位置付けています。また、高齢者医療確保法第 19 条第 1 項に規定する特定健康診査及び特定保健指導（以下「特定健康診査等」という。）について定めた「第二期蒲郡市特定健診等実施計画」との整合性をとり、さらに健康増進法に基づき平成 26 年度に策定した「健康がまごおり 2 1 第 2 次計画」との関連性をもち実施するものとします。

蒲郡市第四次総合計画 三河湾に輝く人と自然が共生するまち蒲郡

**蒲郡市国保
保健事業実施計画
(データヘルス計画)
KDB システム等を活用
した健康データ分析によ
る保健事業等への展開**

健康がまごおり 2 1 第 2 次計画

地域で共に支え合い生涯を通じて健康で幸せに暮らせるまち

- 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- 生活習慣病の発症予防と重症化防止
- 各分野別の健康づくり
- 生涯を通じたすべてのライフステージにおける健康づくり
- 地域社会で健康を支えあう環境の整備と健康資源の活用

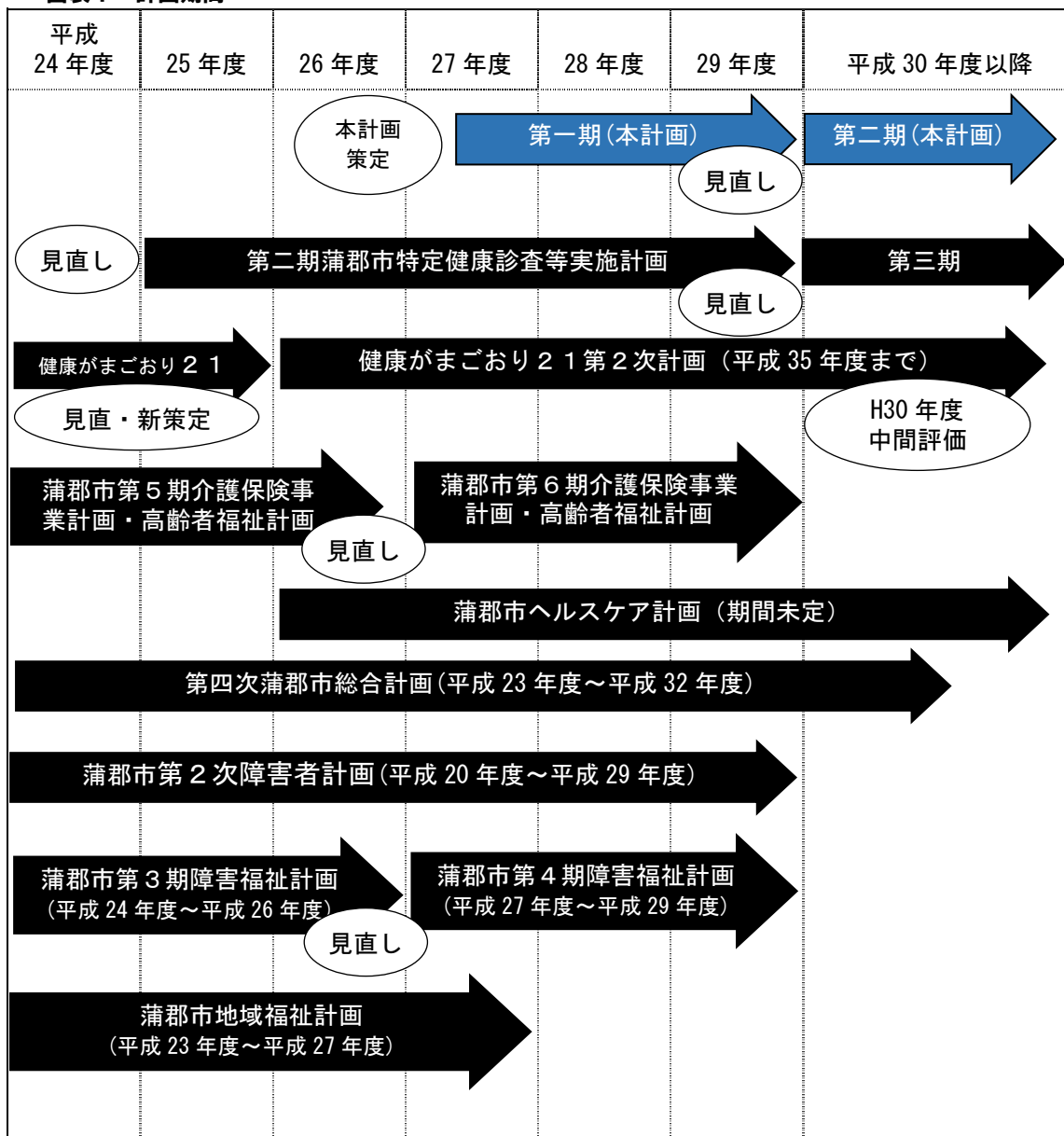
第二期蒲郡市特定健康診査等実施計画

- 特定健康診査受診率の向上
- 特定保健指導実施率の向上と充実

3. 計画期間と取り組み体制

計画期間は、国民健康法（昭和33年法律第192号）第82条に基づき、平成27年度から平成29年度までを第一期とし実施します。

図表1 計画期間



第2章 蒲郡市の現状

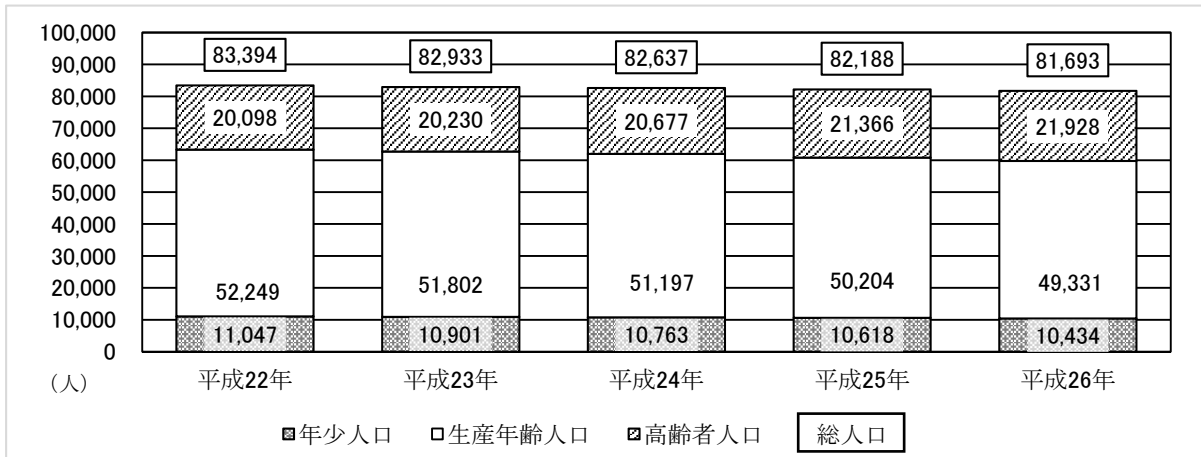
1. 概要

(1) 人口構成と経年推移

蒲郡市の人口は平成26年4月1日現在で81,693人、世帯数は30,829世帯であり、人口減少及び核家族及び単独世帯による世帯数の増加がみられます。年齢別に見ると、年少人口と生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加しています。平成27年4月1日現在の高齢化率は27.7%で、県内の市では第3位となっています。

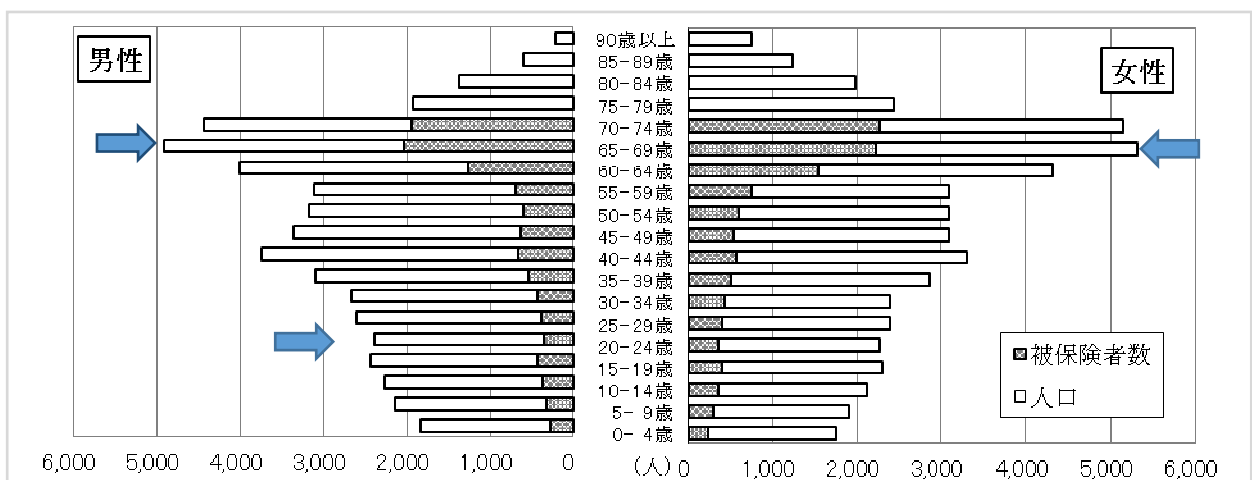
年齢階級別の人口推移(図表3)を見ると、本市では65～69歳の人口が最も多く、10年後にはこの年齢層が後期高齢者となり、さらなる高齢化が予測されます。男性では20～24歳の人口減少がみられ、これは高校卒業後の他市への人口流出が考えられ、生産人口の減少、支える人口の減少につながることから、働く場の確保や若者の定住化促進にも努める必要があります。

図表2 蒲郡市の年齢区分別人口



各年4月1日現在「住民基本台帳」より

図表3 年齢階級別の人口及び国民健康保険被保険者数

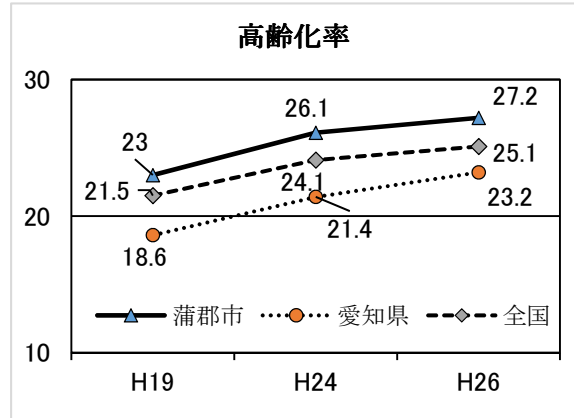


蒲郡市人口統計及びAICube(平成26年4月)「帳票1-01」より

図表 4 高齢化率

高齢化率は国、県平均より高く、年々高齢者の数は増加しています。

特に本市では、75歳以上の後期高齢者人口の増加が予測されます（資料編図表5）。



各年 10 月 1 日現在 がまごおりの保健より

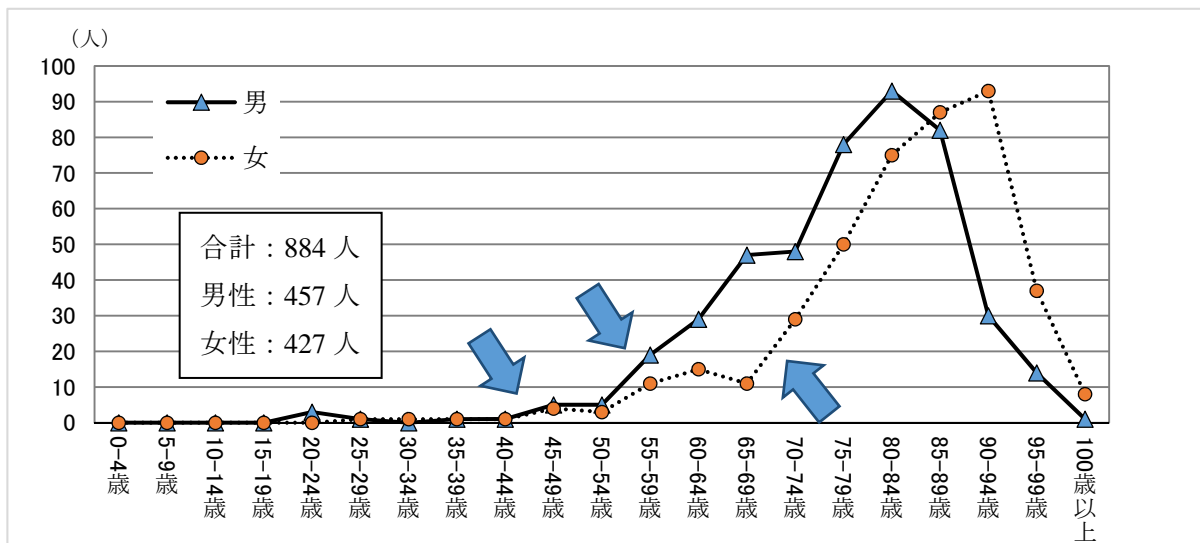
(2) 寿命と死亡に関する状況

平均寿命は、男性では県とほぼ同等ですが、女性は県を下回る状況にあります。健康寿命を国・県・蒲郡市で比較すると、県の健康寿命が最も高く、この県の健康寿命の年齢を基準としてその年齢差をみると、本市の男性は愛知県よりも-0.1歳、女性は-0.5歳、健康寿命が短い状況です（資料編図表6）。

死因は、腎不全、脳疾患、がん、糖尿病による死亡率が国、県と比較し高い状況にあります（資料編図表7）。

年齢別の死亡者数の推移をみると、男女とも40歳から立ち上がり、男性では50歳代から増加しています。女性は男性と比較して死亡者数の状況に10歳の差がみられ、男性が若く死亡する方が多い状況です（図表8）。

図表 8 年齢別死亡者数



「平成 25 年度政府統計人口動態調査市区町村別」より

2. 国民健康保険、保険給付費及び医療費の推移と現状

(1) 国民健康保険加入者（被保険者）の動向

平成27年4月1日現在の国民健康保険被保険者数は22,145人であり、国保加入者率は約27.2%です。人口に比例し、被保険者数も年々減少し、世帯数も減少しています。年齢階級別の国保被保険者の状況とみると、県や東三河南部医療圏と比較して65歳以上の高齢者が占める割合が高くなっています（資料編図表10）。

図表9 国民健康保険加入者（被保険者）の動向

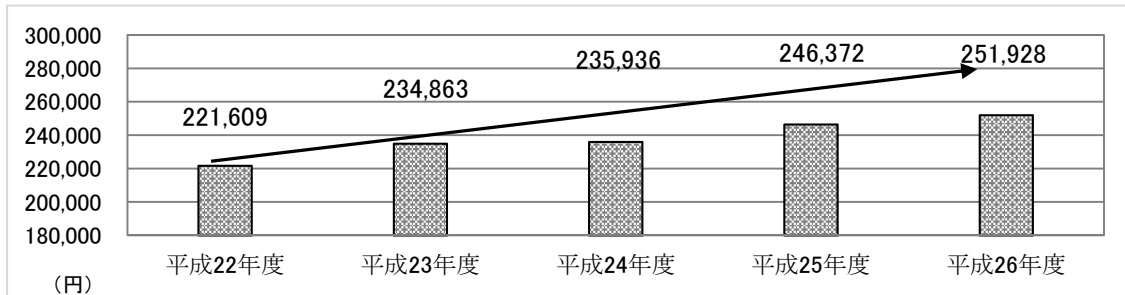
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
蒲郡市総人口		80,898	80,498	82,188	81,693	81,547
国民健康 保険	被保険者数	23,289	23,068	22,613	22,178	22,145
	世帯数	12,580	12,626	12,523	12,370	12,352

※ 平成25年度より外国人を含む
各年度当初現在「市民課統計及び国民健康保険増減整理表」より

(2) 保険給付費及び医療費の推移

被保険者数は年々減少傾向にありますが、保険給付費は増加傾向にあり、一人当たりの保険給付費は年々増加しています（資料編図表11・13）。

図表12 一人当たりの保険給付費



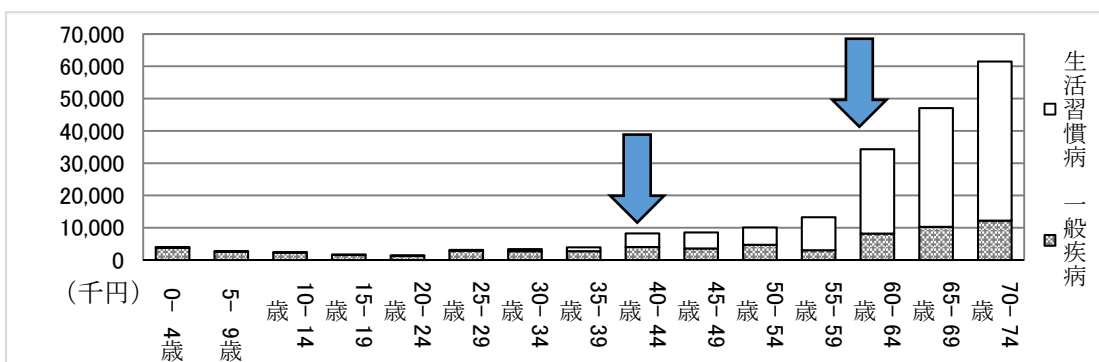
「国民健康保険事業年報告」より

(3) 年齢階級別医療費

年齢別階級別の医療費は、外来では40歳から増加し、60歳以降に急激に増え、入院は30歳以降増加しています。外来医療費の40歳以上と、入院医療費の35歳以上は、生活習慣病を原因とするものが半数以上を占め、年齢が高くなるほど生活習慣病にかかる医療費が増大しています。

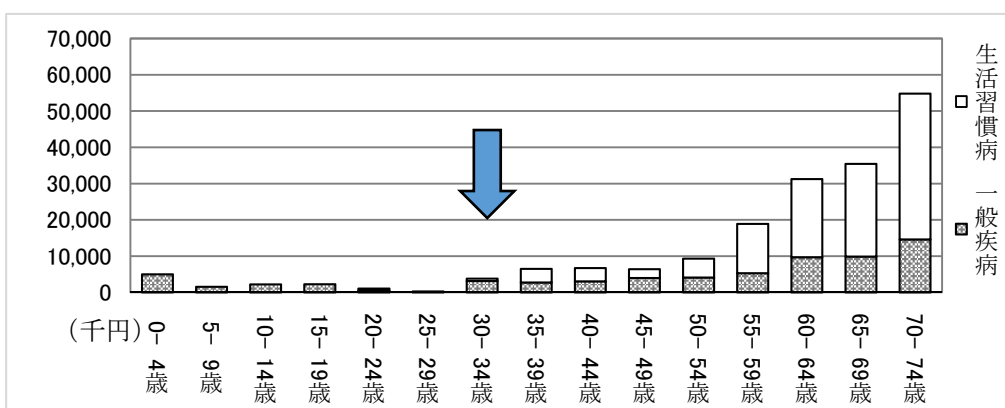
一人当たりの年齢階級別医療費をみると（資料編図表14-3,4）、40～44歳女性の生活習慣病外来医療費と30～34歳男性の生活習慣病入院医療費が高くなっており、レセプトでは女性の乳がんの受診が多い現状がみられます。乳がん検診の受診率向上とともに、乳がんは肥満と関連があるがんであるため、女性のメタボ予防とあわせた乳がんの発症予防対策の必要があります。

図表 14-1 年齢階級別外来医療費



AICube (平成26年3月分)「帳票3-02」より

図表 14-2 年齢階級別入院医療費



AICube (平成26年3月分)「帳票3-01」より

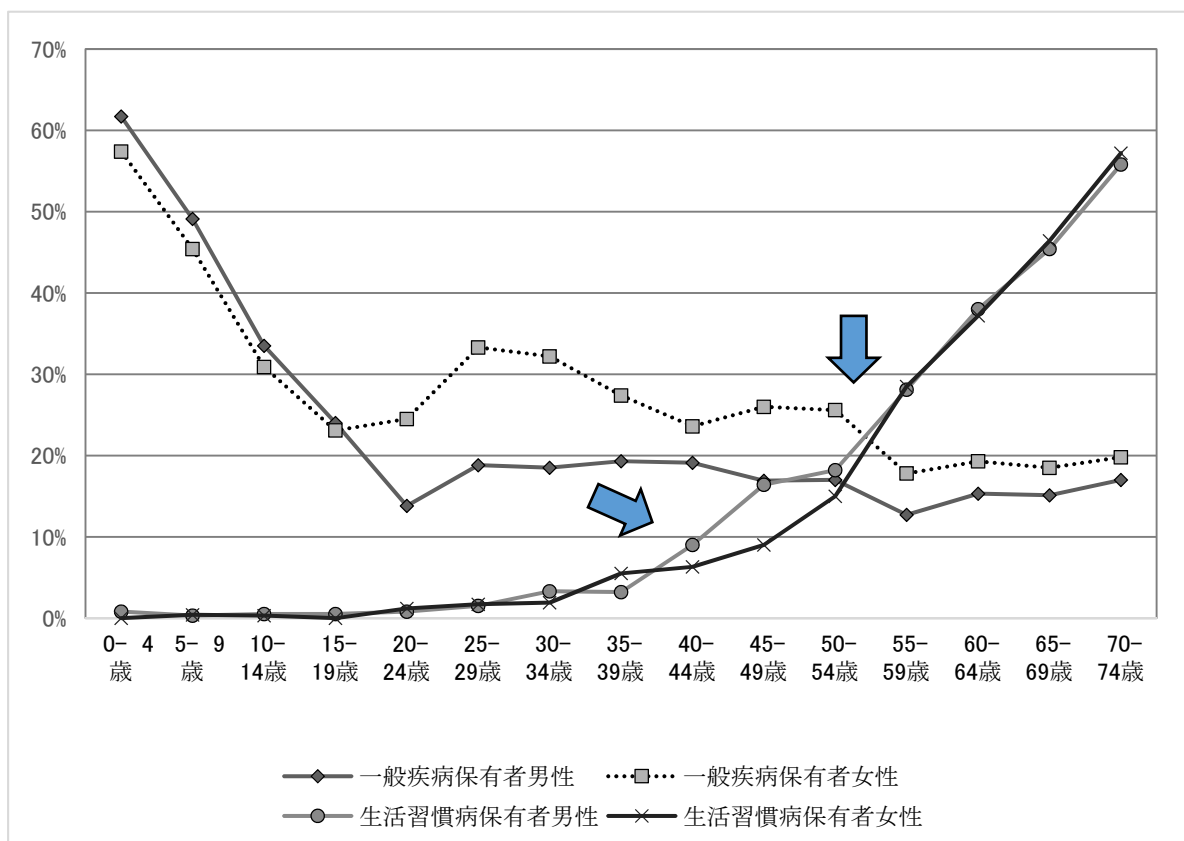
(3) 疾病の状況と生活習慣病保有率

平成 26 年 3 月の医療受診者の状況を見ると、生活習慣病保有率は男女とも 40 歳代から増え始め、50 歳代で一般疾病と生活習慣病の保有率が逆転し、70 歳代では 6 割近くの方が何らかの生活習慣病の治療をしています。早期からの生活習慣病の予防対策が重要です（図表 15）。

男女別・年齢別の生活習慣病の保有状況をみると、男性は女性と比較して保有率が高く、疾患別にみると、男性では糖尿病、高血圧症、脳血管疾患、虚血性心疾患が多く、女性は脂質異常症が多くなっています（資料編図表 16）。男性では 45 歳からの疾患も保有率が多くなり、年齢とともに増加しています。脳血管疾患は要介護認定の原因疾患、虚血性心疾患は死亡原因ともなるため、若い年齢からの健診受診や生活改善、また健診後の保健指導の利用や重症化防止が重要です。

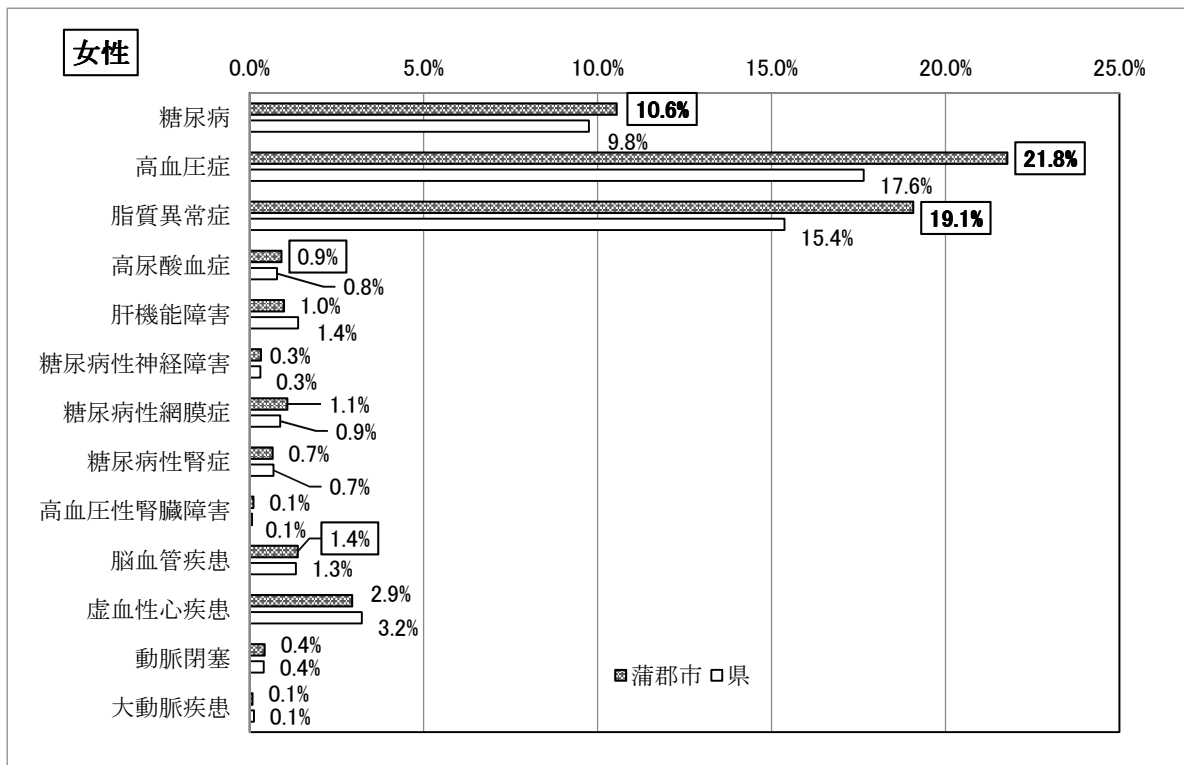
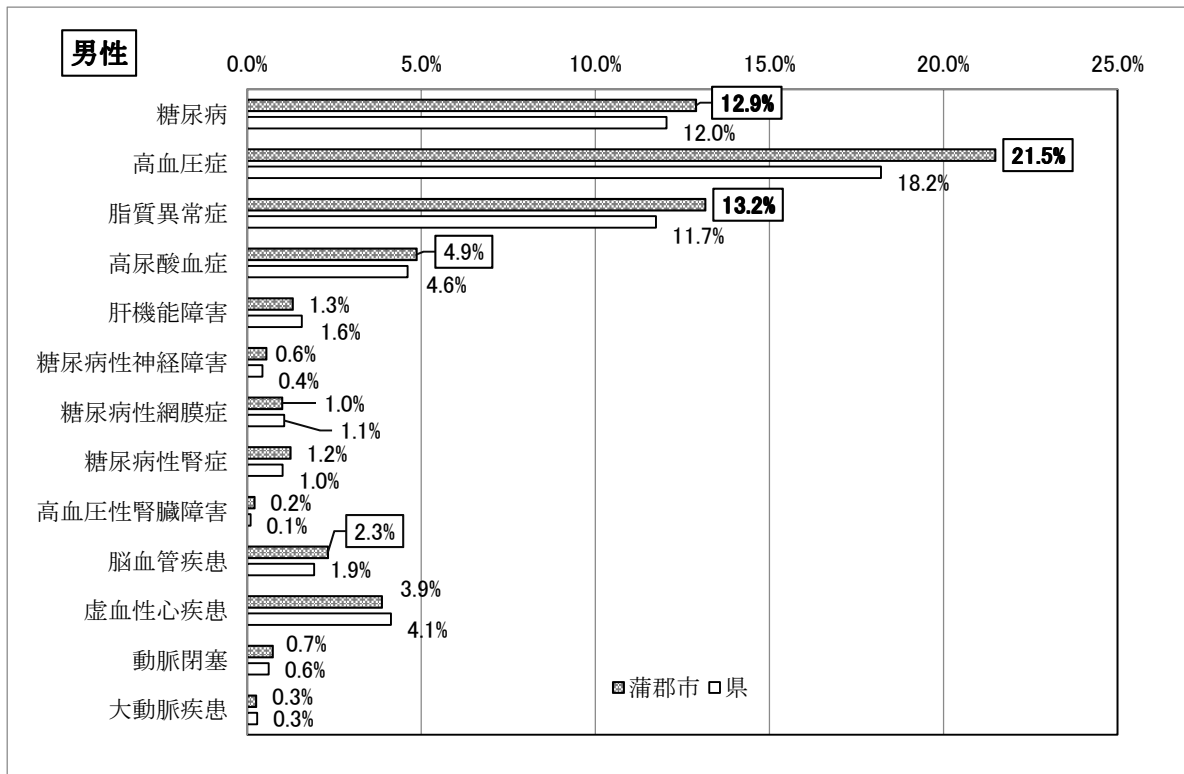
また、愛知県内の国民健康保険被保険者と保有率を比較してみると、本市は男女とも糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、脳血管疾患の数値が県平均より高くなっています（図表 17）。

図表 15 男女別年齢階級別一般疾病・生活習慣病保有者率



AICube（平成 26 年 3 月分）「帳票 2-04」より

図表 17 医療受診状況による男女別生活習慣病保有率

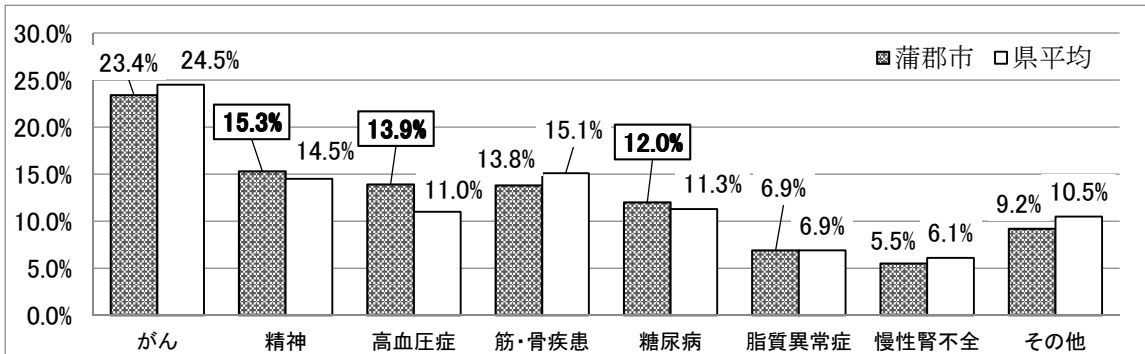


AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 1-01、2-07 改」より

(4) 疾病分類別医療費の割合

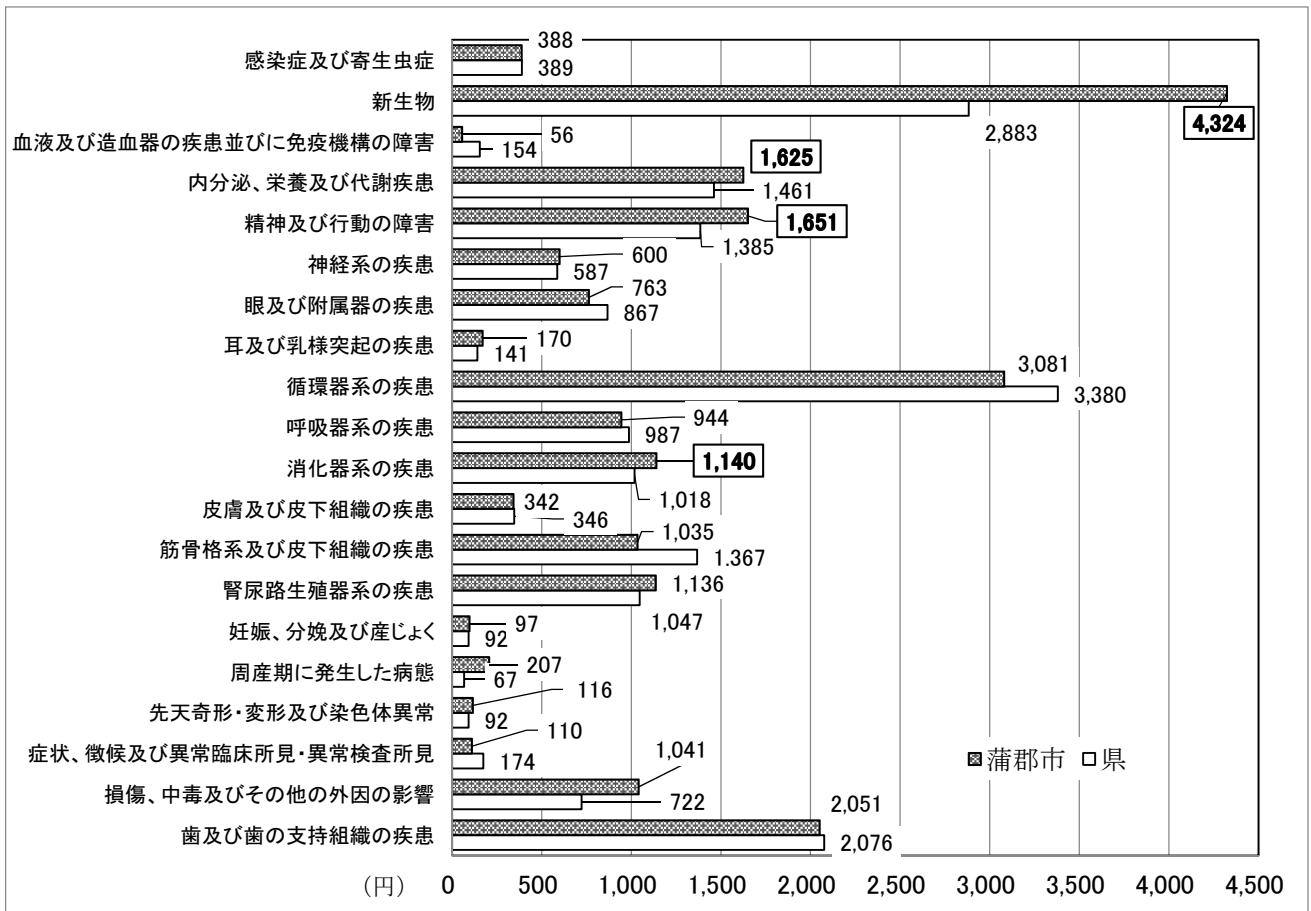
疾病ごとの医療費の割合をみると、高血圧症、精神、糖尿病が高い結果となっています。特に高血圧症は、蒲郡市が13.9%、県平均が11.0%と大きく上回っています(図表18)。また、一人当たりの医療費が高い疾病は、新生物、内分泌・栄養及び代謝疾患、精神及び行動の障害、消化器系の疾患等で、特に新生物は県と比較して大差となっています(図表19)。

図表18 医療費の割合



KDB システム (平成26年度累計) 「健診・医療・介護データから見る地域の健康課題」より

図表19 大分類別1人当たり医療費



平成25年度「疾病分類統計表」より

(5) 人工透析者数・新規透析導入件数と糖尿病からの移行

人工透析患者は年々増加し人口1万人あたりの透析者数は28.5人（県内3位）となっています。糖尿病性腎症による新規透析導入件数は、平成25年度は41人で、糖尿病を原因として透析導入に至る割合は41%前後です。医療費の中で糖尿病治療が占める割合も多くなっていることから、透析導入に至る前の重症化対策と、早期からの糖尿病予防が必須です。さらに、腎不全の原因が、肥満を伴う糖尿病からなのか、若年性糖尿病や非肥満型の糖尿病かなどを把握し、状況にあわせた対策を立てることが重要です。

図表 20 人口1万人あたり透析者数

平成26年1月1日現在

	蒲郡市	愛知県
男性(人)	135	10,683
女性(人)	95	6,163
計(人)	230	16,846
1万人対比	28.5（愛知県内3位）	22.7

平成25年度愛知腎臓財団「慢性腎不全患者の実態」より

図表 21 新規導入件数と糖尿病からの移行

浄化開始 年度	蒲郡市			愛知県		
	全体(人)	糖尿病(人)	%	全体(人)	糖尿病(人)	%
25年度	41	17	41	1,597	659	41
24年度	32	12	38	1,954	786	40
23年度	24	9	38	1,983	826	42

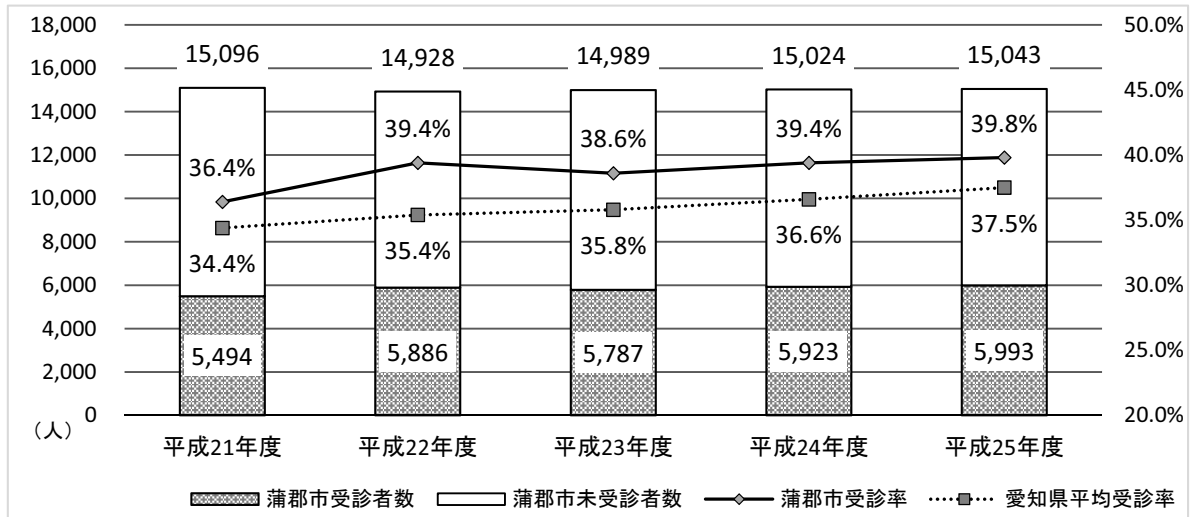
平成25年度愛知腎臓財団「慢性腎不全患者の実態」より

3. 特定健診の実施状況

(1) 受診率の推移

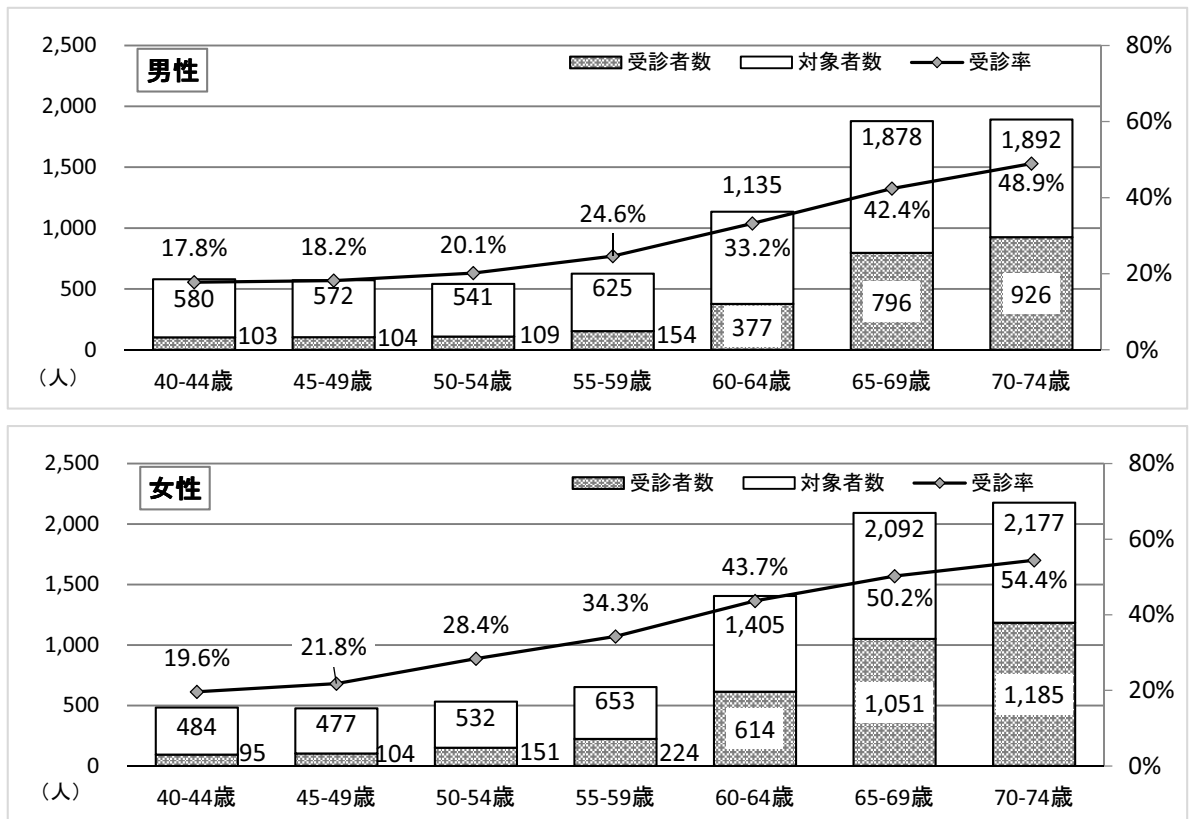
平成25年度の特定健康診査の受診率は39.8%と県平均を上回るものの（県内35位）、第二期蒲郡市特定健康診査等実施計画における平成25年度目標受診率の50%を大きく下回っています。性・年齢別では、男性と若い年齢で受診率が低い状況です。

図表22 特定健康診査受診者数及び受診率



各年度「法定報告資料」より

図表23 性・年齢別特定健診受診者数及び受診率



KDB システム（平成25年度）「法定報告」より

(2) 健診継続受診者・連続未受診者の状況

平成20年度から平成24年度の5年間の受診状況を見ると、5年連続して受診しているものは9.01%と低く、また5年連続して受診していない者は41.9%（4,590人）となっています。新規の受診勧奨とともに、継続受診のための取組みが必要です。

図表24 継続受診者の状況

5年連続受診者	9.01%	987人
4年連続受診者	12.32%	1,349人
3年連続受診者	5.33%	583人

AICube（平成20年度から平成24年度）特定健診分析「特定健診受診状況一覧」より

図表25 連続未受診者の状況

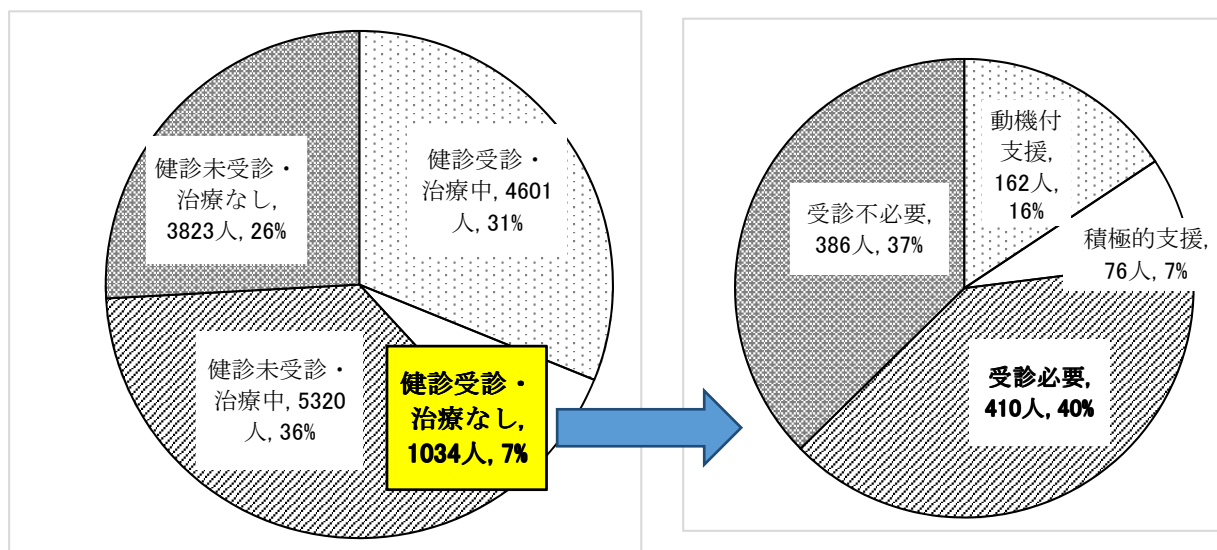
5年連続未受診者	41.9%	4,590人
4年連続未受診者	2.25%	247人
3年連続未受診者	4.19%	459人

AICube（平成20年度から平成24年度）特定健診分析「特定健診受診状況一覧」より

(3) 健診受診状況と生活習慣病治療状況との関係

平成26年度の特定健康診査受診者は5,635人で、そのうち生活習慣病で治療中の者は81.7%（4,601人）で多数の人が治療をしています。一方未受診者は9,143人で、そのうち生活習慣病の治療歴がない人は26%（3,823人）で、全体の4分の1の人が健診や医療などのメディカルチェックができていない状況となっています。さらに、健診受診者で治療をしていない人の状況を見てみると、健診の結果、受診が必要と判定された人は40%（410人）に及び、健診後、受診につなげる働きかけが必要です。

図表26 平成26年度健康診査受診・未受診者と生活習慣病治療の状況



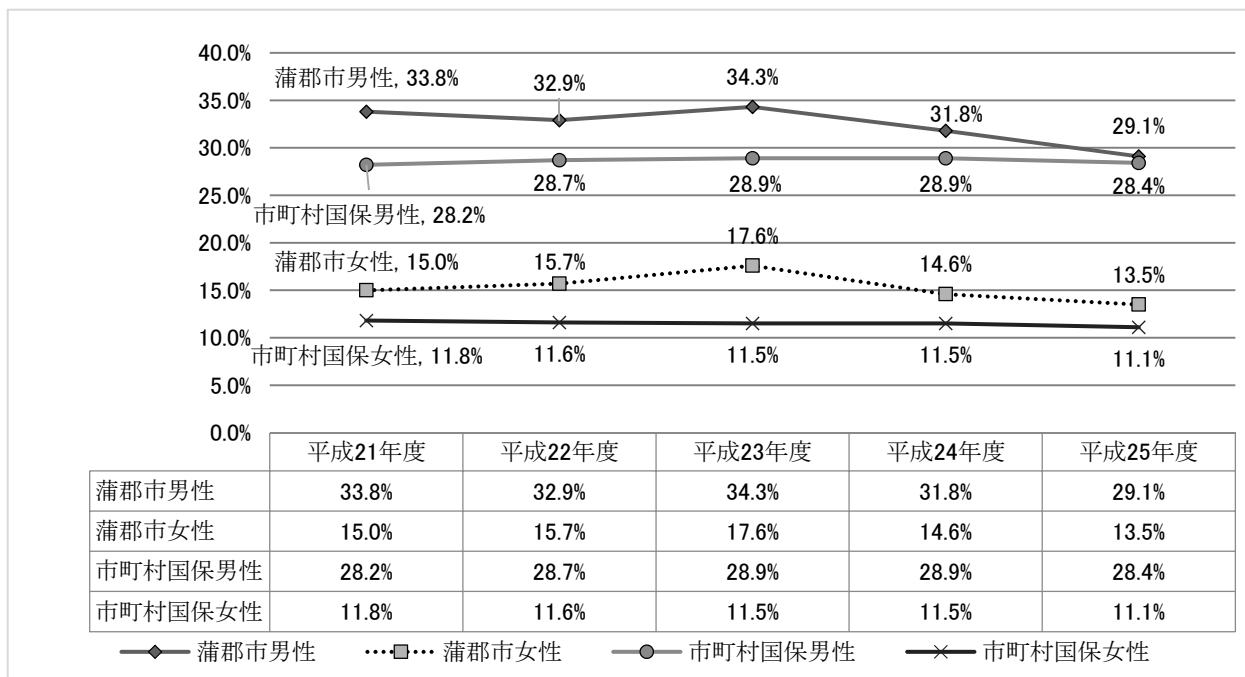
KDB システム（平成26年度累計）「厚生労働様式糖尿病等生活習慣病のための健診・保健指導」より

AICube（各年度）「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

(4) メタボリックシンドローム該当及び予備群の状況

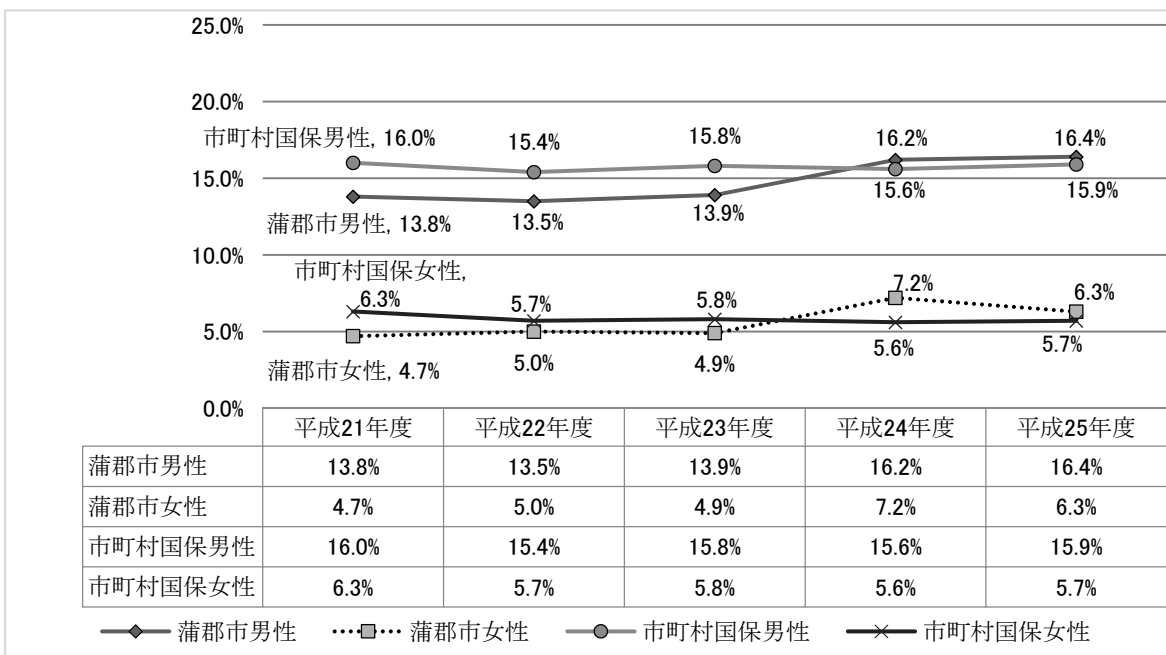
メタボリックシンドローム該当者の割合は、平成23年度の県内トップから減少はしているものの、平成25年度では20.2%（県内14位）と県平均の18.0%より高い状況にあります。また、男女とも予備群の増加が見られることから、予備群をメタボ該当にしないための重症化対策が必要です。

図表27 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム該当率



AICube（各年度）「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

図表28 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム予備群該当率



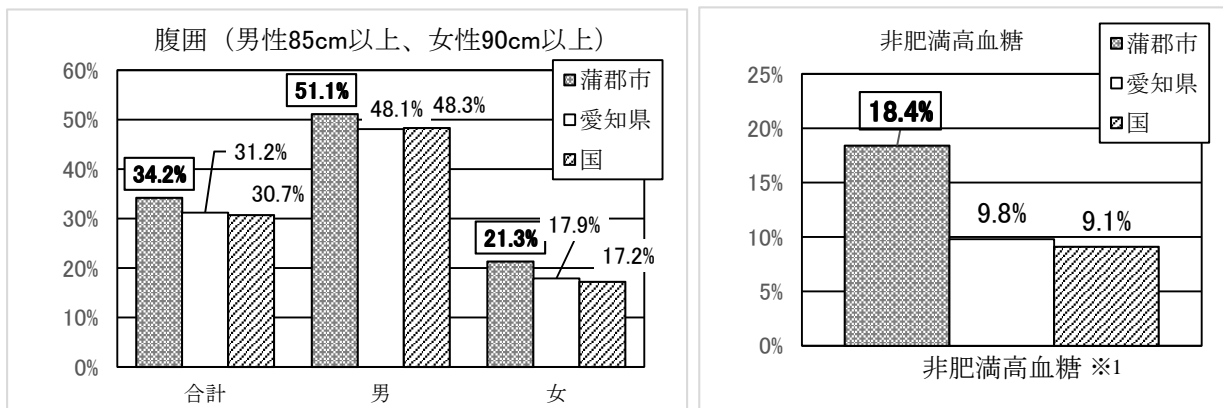
AICube（各年度）「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

(5) メタボ以外の健診検査結果

メタボ以外の検査結果では、腹囲の基準該当以上の割合は34.2%で、男女ともに高い状況です。非肥満型の高血糖の割合は18.4%と国・県と比較し高く、性・年齢別にみると、若い女性に非肥満の高血糖が高い状況であることから、若い女性には、やせに加えて高血糖対策もあわせて考える必要性があります(図表29・30)。

年代別に健診結果をみると(図表31)、BMI、腹囲、中性脂肪、尿酸値など多くの項目で50歳代の男性がピークとなっており、働き盛りの男性の健康管理が必要です。

図表29 腹囲・非肥満高血糖の状況

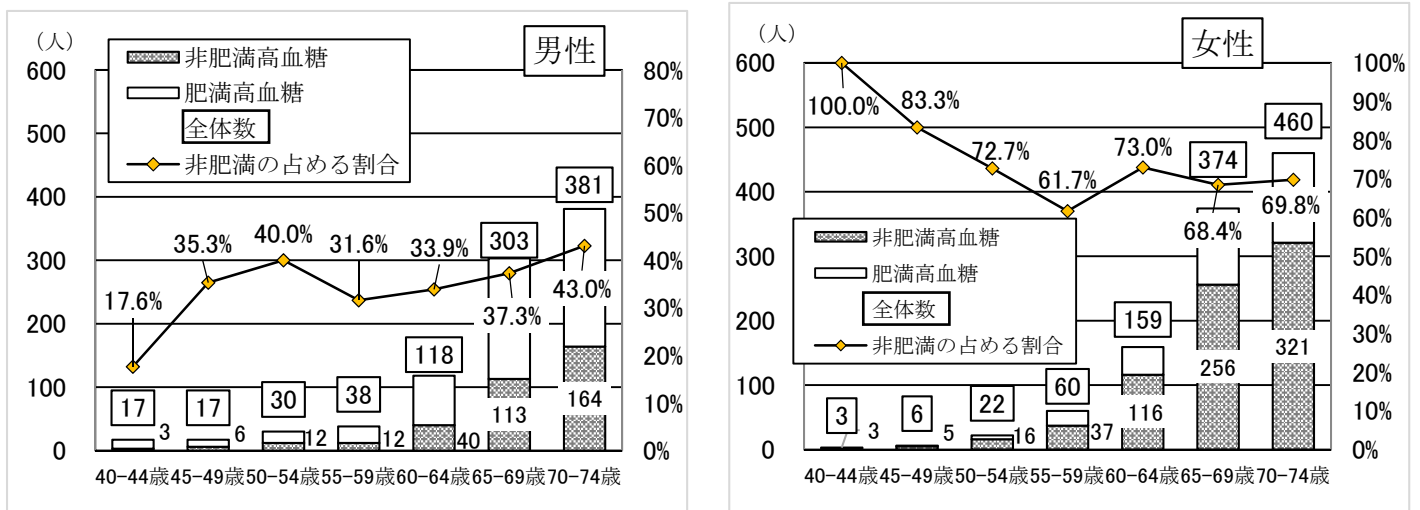


腹囲：男性 85cm 以上女性 90cm 以上

※1 非肥満高血糖／総健診受診者数

KDB システム (平成 26 年度累計) 「健診・医療・介護データから見る地域の健康課題」より

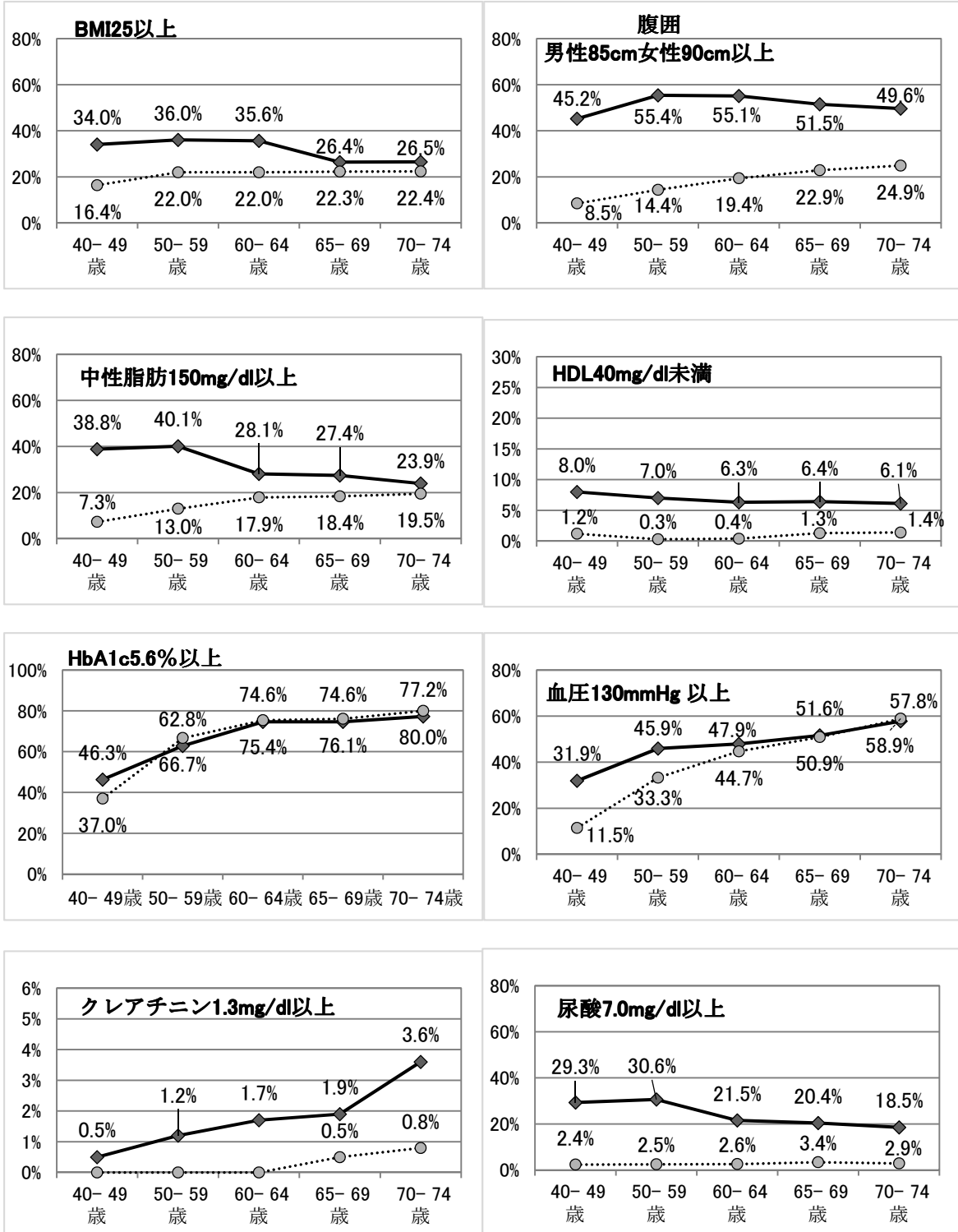
図表30 性・年代別の高血糖の状況



健康かるて「平成 26 年度健診受診者」より

図表 31 年代別健診結果

—— 男 女



KDB システム（平成 26 年度）「厚生労働省様式 6-2~7 健診有所見者状況」より

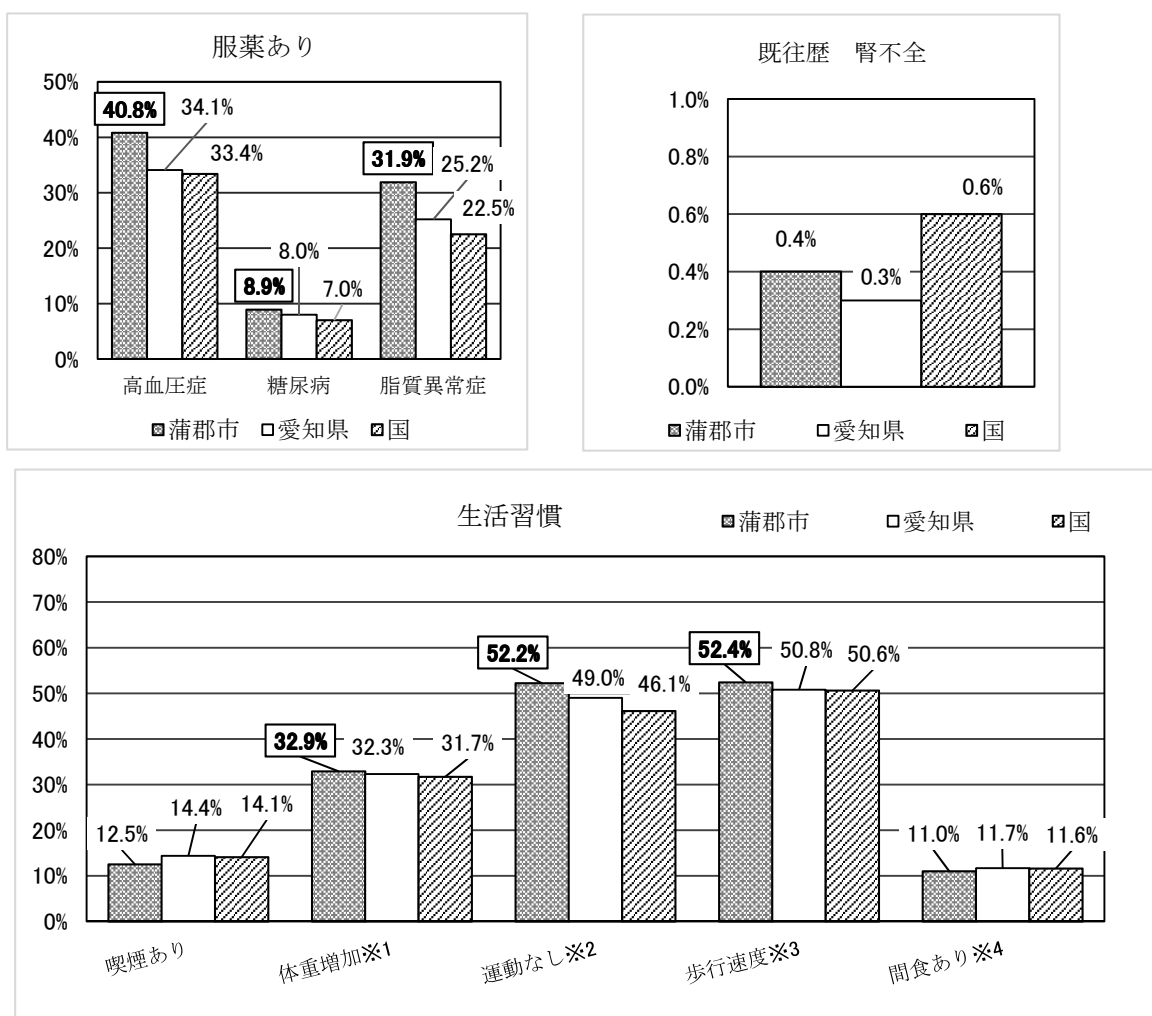
(6) 生活習慣病リスク発生状況及び問診からみた生活習慣の状況

特定健診の問診結果をみると、高血圧、糖尿病、脂質異常症の服薬者の割合が国や県に比較して多く、また腎不全の既往歴がある人が県に比較して多くなっています(図表 32)。糖尿病及び高血圧服薬者を対象とした重症化防止対策と若いころからの発症防止に力を入れていくことが重要です。

生活習慣の状況では、20歳時からの体重増加や運動習慣のない人が多くなっています。体重増加や運動不足は、メタボ率、BMI や腹囲への影響も大きいことから、体重管理や運動の実践につながる取り組みの推進が必要です(図表 33)。

喫煙率は男女とも県平均より低いものの、年齢別でみると、40歳代の喫煙率が高い状況です。子育て世代と重なるため受動喫煙防止対策としても重要です。

図表 32 健診時の問診回答結果



体重増加※1 20歳時体重から10kg以上増加した

運動なし※2 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施していない

歩行速度※3 ほぼ同じ同性と比較して歩く速度が遅い

間食あり※4 夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある

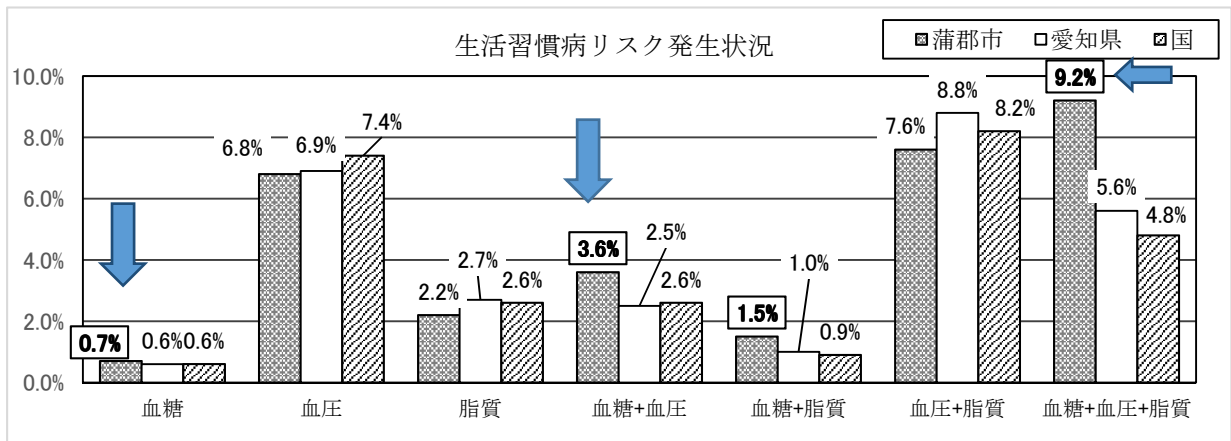
KDBシステム(平成26年度)「地域の全体像の把握」より

メタボリックシンドローム該当者及び予備群の服薬状況からみた生活習慣病リスクの発生状況を見てみると、血糖、血糖と血圧、血糖と脂質、血糖と血圧と脂質異常をもつ人の割合が男女ともに高くなっています(図表 33)。

特に、血糖・血圧・脂質異常の3つを重ねてもつ人の割合は9.2%で、国・県を大きく上回っています。複数のリスクを重ねてもつ多重リスク者やハイリスク者を対象とした重症化防止と高血糖を重点においた対策が必要です。

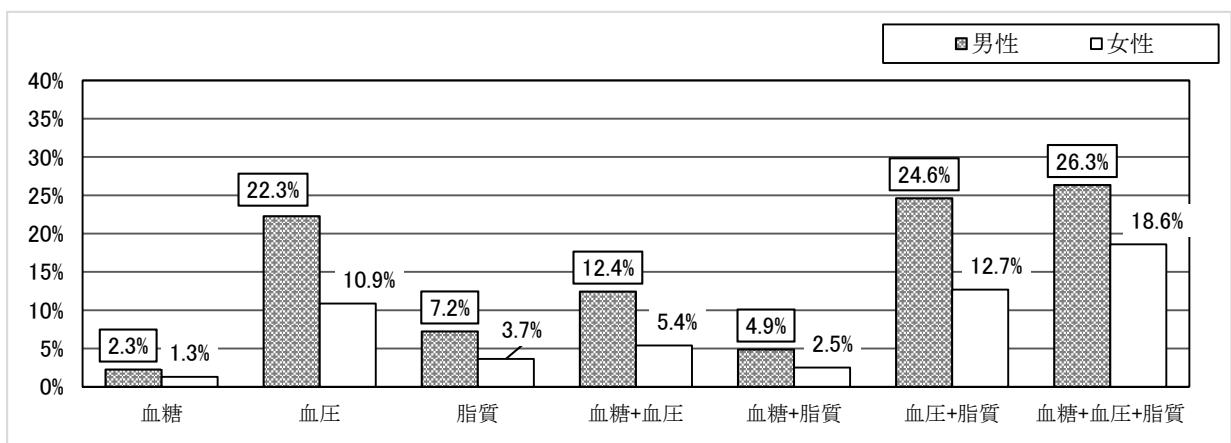
また、男女別では女性より男性が多い状況です(図表 34)

図表 33 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況



KDB システム (平成 26 年度)「地域の全体像の把握」より

図表 34 男女別メタボリックシンドローム該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況



KDB システム (平成 26 年度)「厚生労働省様式 6-8」より

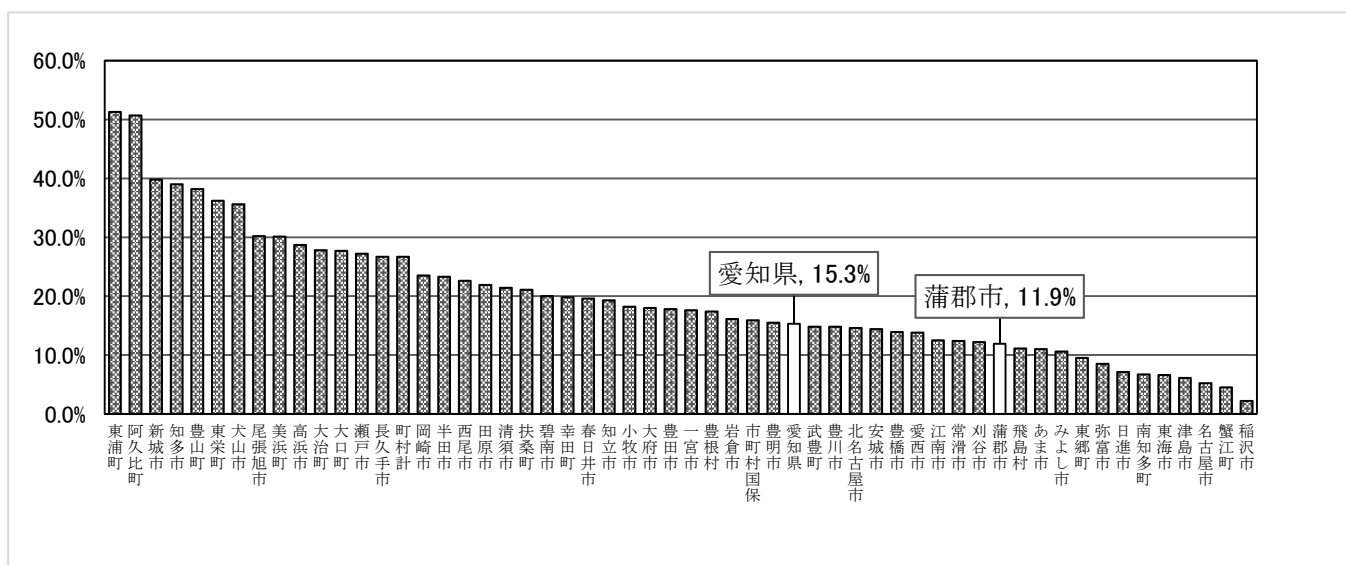
4. 特定保健指導の実施状況

(1) 特定保健指導終了率

特定保健指導については、平成23年度には最下位であったものの、終了率は年々上昇しています。しかしながら、平成25年度は11.9%（県平均15.3%）で、第二期蒲郡市特定健康診査実施計画のH25年度目標値の20%には到達していません（図表35）。

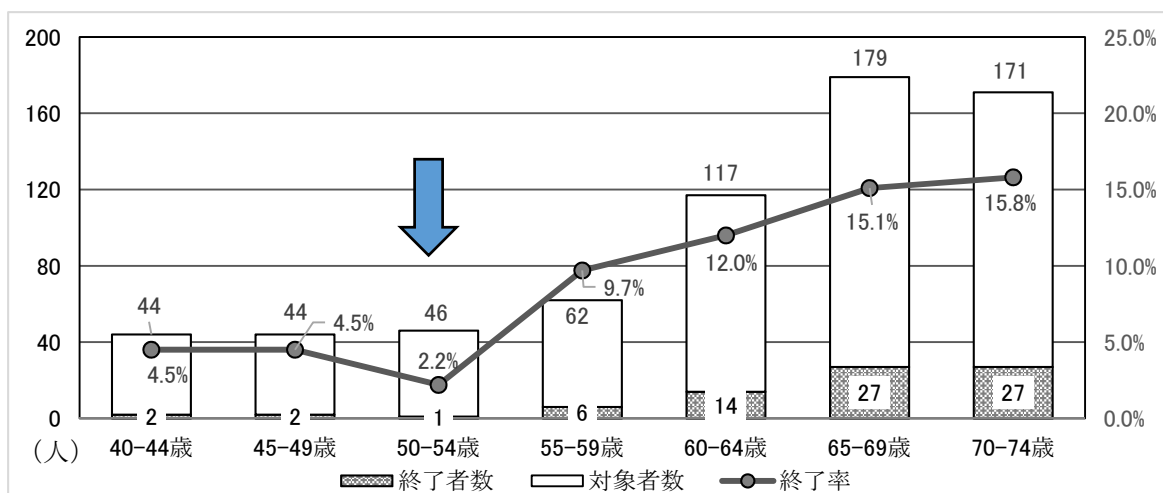
年代別の終了率をみると、40代、50代の終了率が低く、特に50歳から54歳においては、特定保健指導終了率2.2%（積極的支援終了率3.7%、動機付け支援終了率0%）となっています。働き盛りの若い年齢の特定保健指導の強化と実施体制の充実が重要です（図表36）。

図表35 市町村別特定保健指導終了率



AICube（平成25年度）「法定報告 特定保健指導終了率ランキング」より

図表36 年代別特定保健指導対象者及び終了率



平成25年度「法定報告」より

(2) 特定保健指導実施による効果（保健指導対象者数の翌年度の減少）

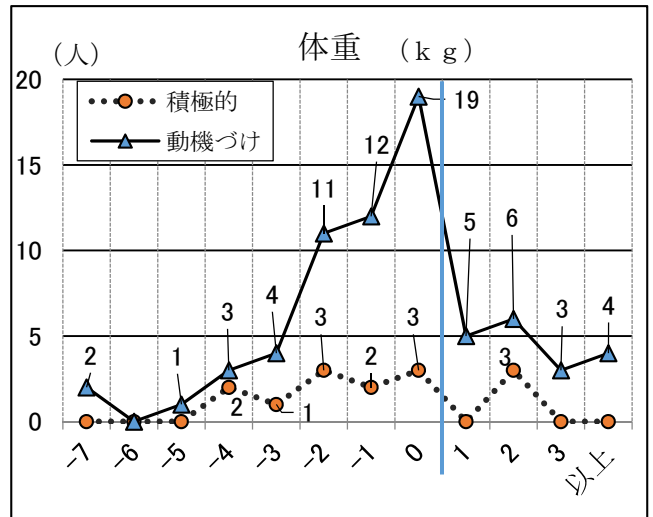
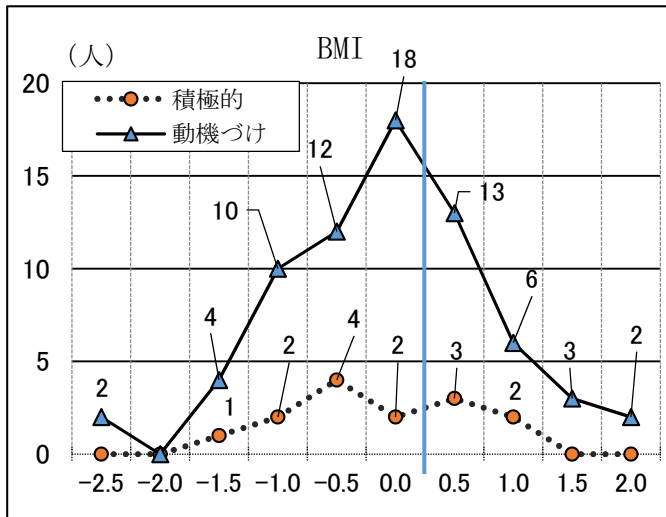
平成 24 年度の特定保健指導対象者について、特定保健指導を受けた人と受けなかった人の翌年度の保健指導判定の状況を調べたところ、特定保健指導を受けたグループで翌年度に特定保健指導非該当（改善された）となった割合は 26.9%に対し、受けなかったグループでは 17.3%にとどまり、保健指導を受けたグループの方に改善率が高くなっています。

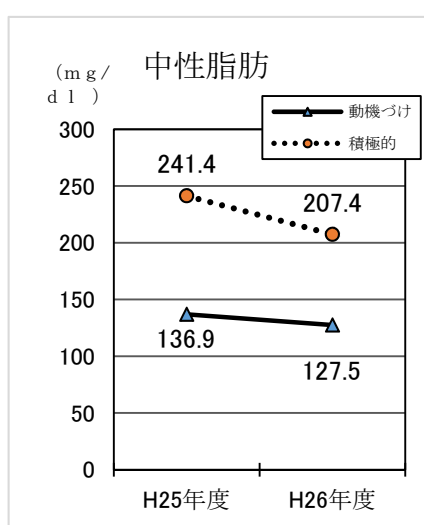
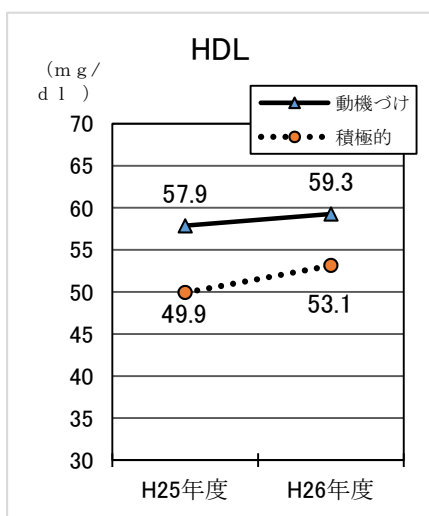
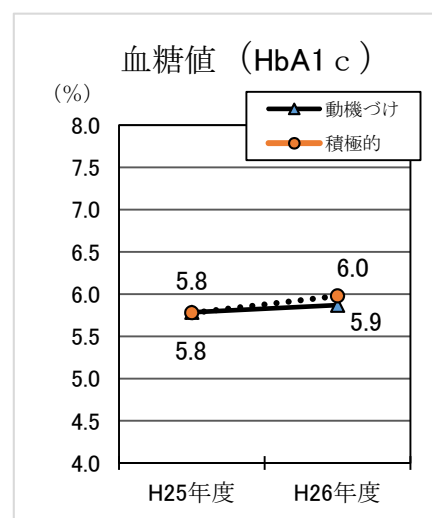
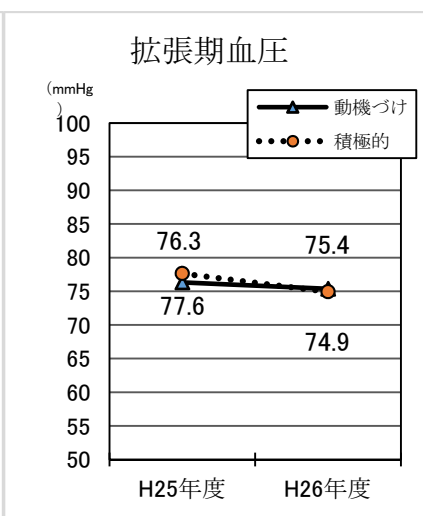
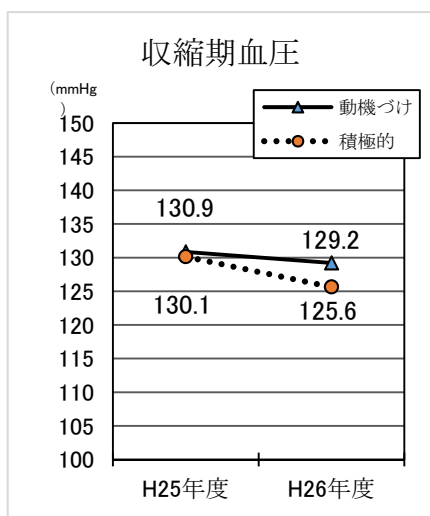
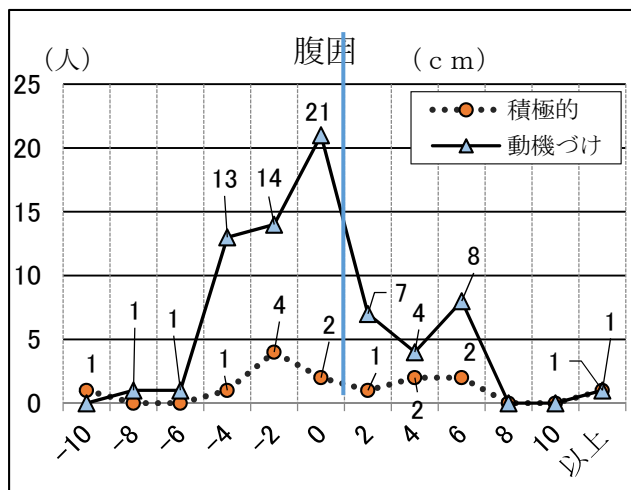
24 年度特定保健指導対象者 (710 人)		25 年度の特定保健指導判定	
		非該当（改善のあった人）	該当
保健指導利用者	78 人	21 人 (26.9%)	57 人 (73.1%)
保健指導未利用者	632 人	109 人 (17.3%)	523 人 (82.7%)

(3) 特定保健指導実施による効果（検査数値の変化）

平成 25 年度に特定健診を受診し特定保健指導を受けた者について、平成 25 年度と 26 年度の特定健診の各種検査結果を比較したところ、HbA1c 以外のすべての項目で検査数値が改善しています。HbA1c については、ナショナルデータベースの見解で「血糖値は放置すると上昇する」と提言されていることから、指導後に横ばいであることは上昇を抑制できたという判断から効果があったものと考えています。

図表 37 特定保健指導による検査数値の変化





「平成 25 年度、平成 26 年度
の特定健診結果より」

5. 介護保険の状況

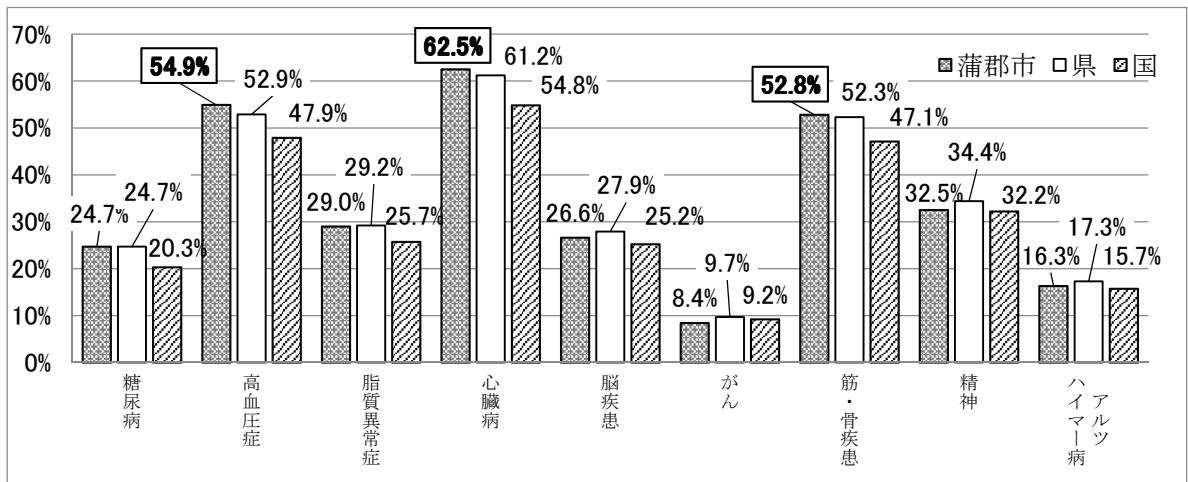
(1) 要介護認定率及び介護給付費

本市の要介護認定率は国や県と比較して低い状況にありますが、一人当たりの介護給付費を見てみると、要介護1以上の給付費が多くなっています。特に要介護5では県平均より約20,000円高い状況にあります(資料編図表39)。

(2) 要介護者の有病率

要介護者の有病状況をみると、高血圧症、心臓病及び筋・骨疾患が高い傾向にあります。高血圧では県平均を2%上回り重症化防止対策が必要です。

図表 39 要介護者の有病状況



KDB システム (平成 26 年度)「地域全体像の把握」より

(3) 65歳未満の要介護認定者の原因疾患

2号被保険者の要介護認定の原因疾患では、男女とも脳血管疾患が多く男性は77%を占めます。女性は骨粗鬆症や筋骨格系の疾患が多くなっています。また男女ともに初老期における認知症も多いことから、脳血管疾患や認知症などの介護予防対策と、ロコモティブ・シンドロームの予防に努めていく必要があります(資料編図表40)。

6. がん検診・ヤングエイジ健診の実施状況及び小学生の肥満の状況

(1) がん検診実施状況

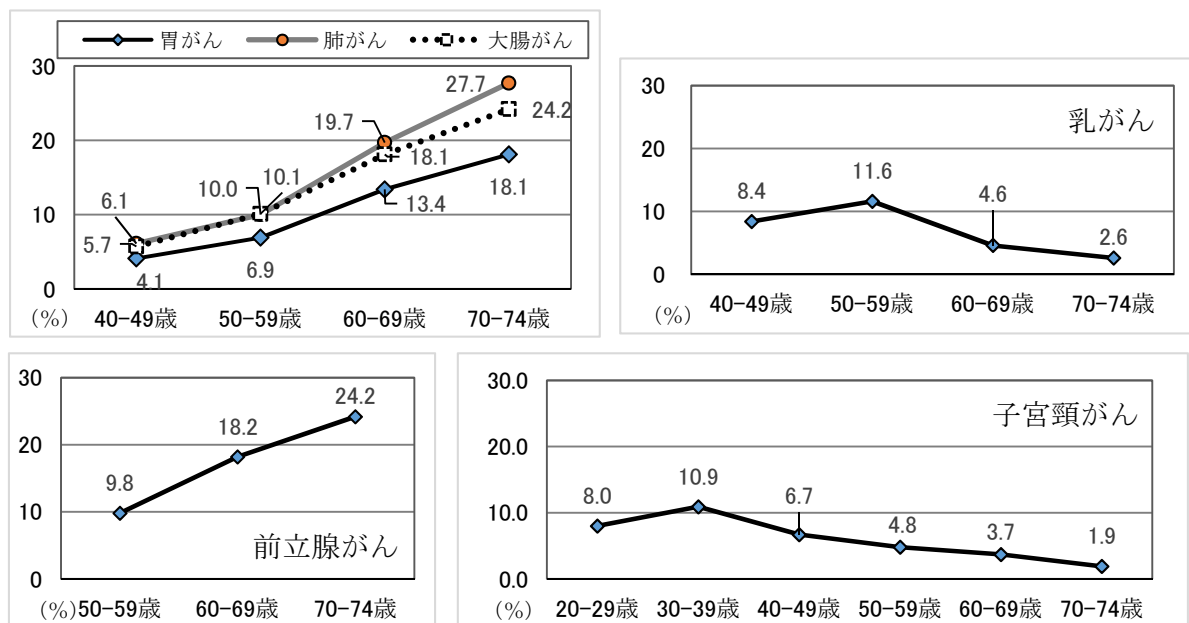
がん検診（健康推進課）は、平成26年度から自己負担金を全員1種類500円(ワンコイン)に下げた結果、これまで無料であった70歳以上の受診率は低下したものの、40歳～60歳代の受診率は上昇しました（資料編図表41）。子宮がん、乳がんについても、自己負担金が500円になったことや、無料クーポン券対象者に受診勧奨を行ったことで40歳、50歳代の受診率が上昇しました。

(2) 国保加入者のがん検診受診状況

がん検診受診者のうち国保の占める割合を見てみると、どのがんも40～50歳代の割合が低いため、若い年齢の受診啓発と早期発見、早期治療につなげることが重要です。

また、各がん検診の精密検査の実施状況では、子宮がんの精密検査受診者が国保加入者で低い状況です（資料編44～46）

図表 42 平成26年度 国保加入者のがん検診受診者割合



「健康かるて」より

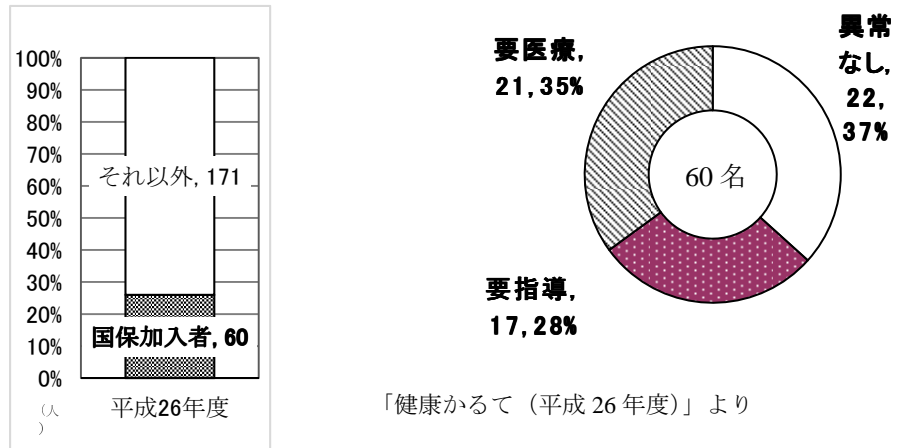
(3) ヤングエイジ健診実施状況

18～39歳を対象としたヤングエイジ健診の受診者数は、平成25年度に減少しましたが、平成26年度から、自己負担金が1,000円から500円に変更になり、受診者が増加しました（資料編図表47）。健診結果の所見内訳を見ると、男性は脂質異常と肝機能異常の割合が多く、女性はやせと脂質異常、貧血が多い状況です。

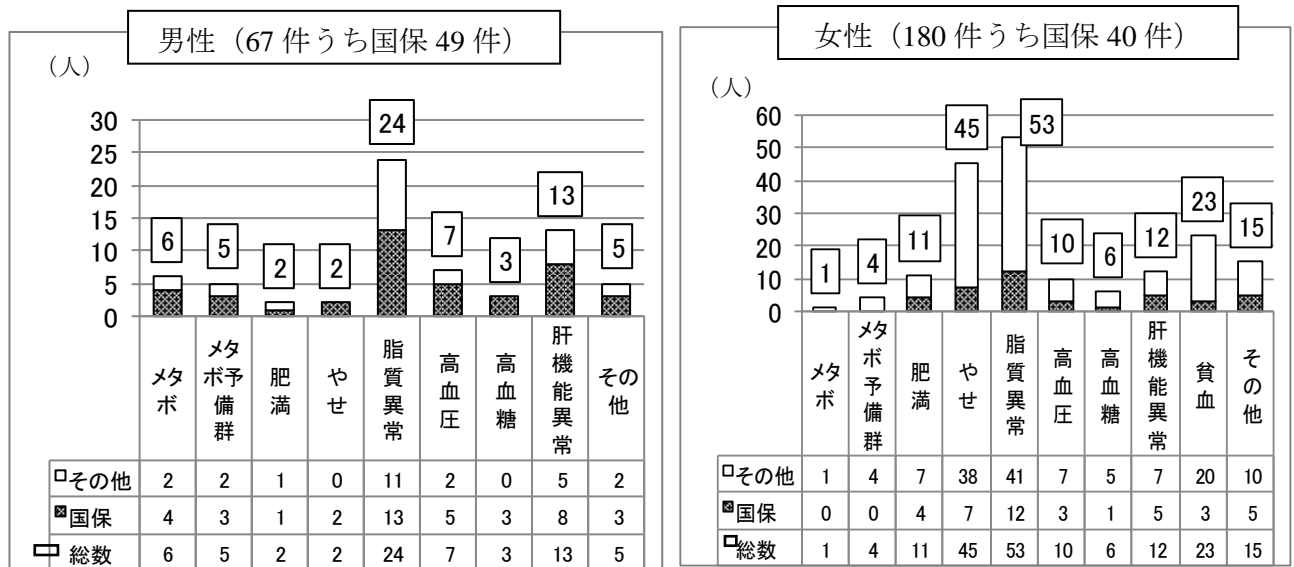
(4) 国保加入者のヤングエイジ健診受診状況

ヤングエイジ健診受診者のうち国保加入者の割合は26.0%(60人)であり、周知啓発が必要です。国保加入者のヤングエイジ健診結果をみると、要指導28%、要医療35%と指導や医療が必要の人が多くことから、健診実施後の指導と医療への受診勧奨が必要です(図表49・50)。所見内訳では、男性はメタボ・脂質異常・高血圧、女性では脂質異常とやせの所見が多く事後指導が必要です(図表51)。

図表 49・50 ヤングエイジ健診受診者の国保加入状況及び判定結果の状況



図表 51 要指導と要医療判定者の性別主要所見内訳のうち国保加入者の状況(延)



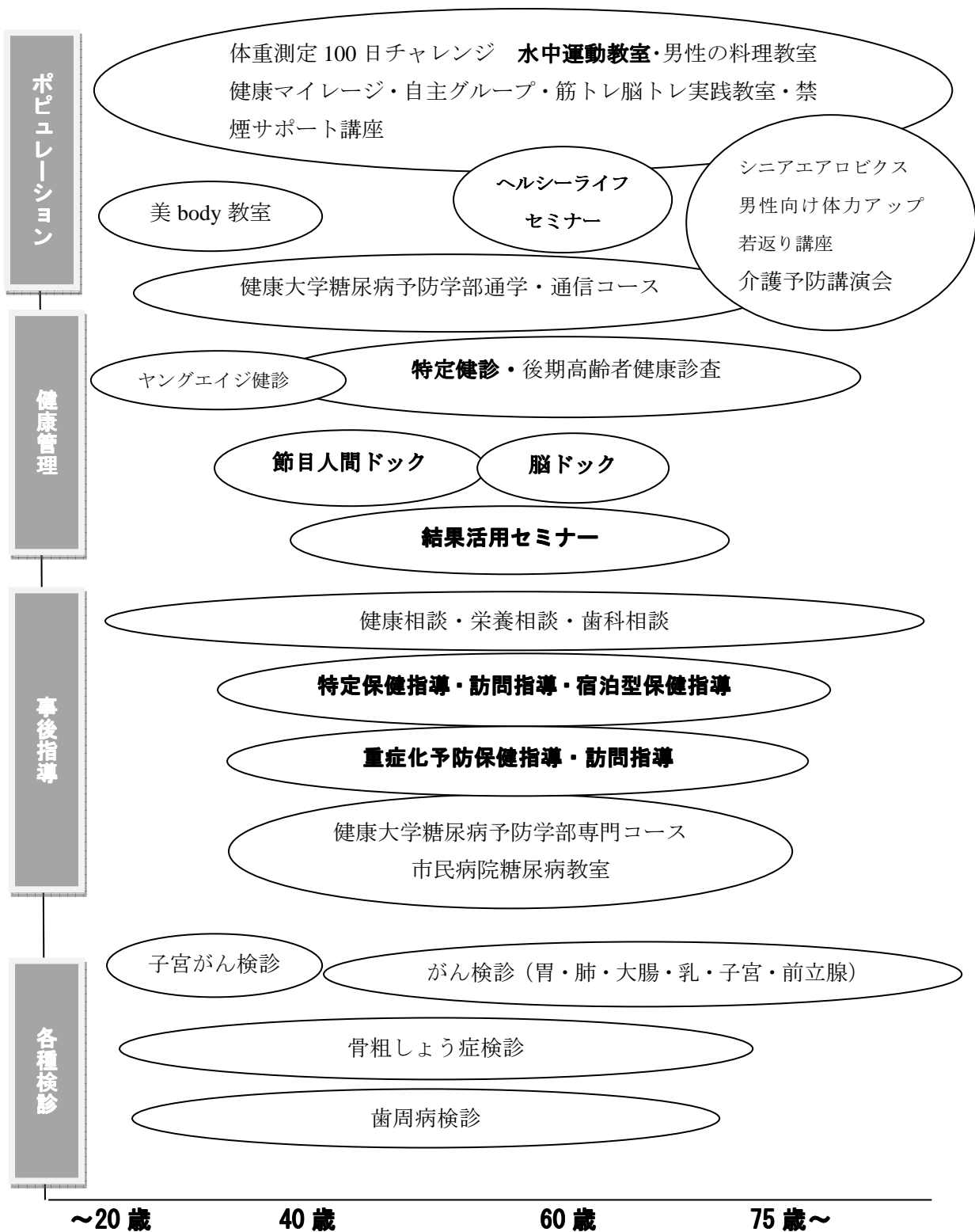
「平成26年度がまごおりの保健及び健康かるて」より

(5) 小中学生肥満度割合

男子では、小4年生から肥満度20%以上の割合が増え、小学6年生でピークとなっています。女子では中学1年生からやせが増えています。

中学1年生を対象とした脂質検査では、女子の34.2%が総コレステロール値が高く、17.2%がLDLコレステロールが高い状況でした(資料編表52・53)。

第3章 既存の保健事業の取り組み



(太字：国保保健事業 各事業の詳細は、資料編 P67 参照)

第4章 課題の抽出と推進施策

蒲郡市の現状分析から課題を整理し、既存の保健事業の実施状況を踏まえた上で、本計画において今後優先強化する取り組みをまとめました。

1. 本計画で優先強化する対策への戦略及び期待する効果

～優先強化する対策＝糖尿病及びハイリスク者の重症化予防対策～

現状と課題	解決のための戦略（保健事業）	実施後に期待する効果
<p>糖尿病の保有率・服薬者・医療費割合・治療者・特定健診HbA1c値、非肥満高血糖者割合・人工透析者の割合が高い</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>糖尿病の重症化予防を重点においた取り組みが必要である。</p>	<p>①特定健診 HbA1c7.0%以上を対象とした保健指導「7.0の会」</p> <p>特定健診 HbA1c7.0%以上の人には、健診結果通知を手渡しし保健指導を実施する。指導方法は個別、グループ、家庭訪問や、結果活用セミナー・健康相談等の既存の事業などを活用し対応する。</p> <p>②特定健診 HbA1c6.5%以上7.0%未満を対象とした「情報提供」</p> <p>健診結果通知に、糖尿病に関する情報を記載したリーフレットを入れ全員に郵送する</p> <p>③訪問による保健指導</p> <p>①の未参加の対象者に対して健康推進課と連携し、地区担当保健師が家庭訪問や面接で保健指導を実施する</p> <p>④市民病院の糖尿病教室や医師と連携した糖尿病重症化対策</p> <p>市民病院で定期的実施している糖尿病教室について国保対象者で指導が必要なものにPRし参加を促す。</p> <p>市民病院医師と連携し、治療中の指導が必要な対象者には保健師・管理栄養士が保健指導等を実施する。</p>	<p>特定健診 HbA1c7.0%以上のものを現状の3割減らすことにより、糖尿病の重症化を防ぎ、糖尿病保有者、服薬者を減少させ糖尿病にかかる医療費の伸びを抑制する</p> <p>目標：現状から3割減</p> <p>H26年度 5.04%を H29年度 3.53%にする</p> <p><現状値：H26年度> <u>HbA1c7.0%以上</u> 蒲郡市 310人 (5.04%) 県平均 22934人 (4.35%) (KDB システム)</p>
<p>メタボ該当及び予備群の生活習慣病発症リスクで、高血糖・高血圧・脂質異常の3つを重ねた割合が高い</p>	<p>ハイリスク者への優先した保健指導</p> <p>特定健診の結果、ハイリスク該当者を選定して保健指導を実施する。指導方法は個別面談のほか、保健師・管理栄養士による家庭訪問、既存の保健事業を活用し幅広く対応する。</p> <p>※ハイリスク対象条件</p> <p>①メタボ該当、予備群複数服薬者</p>	<p>メタボ該当及び予備群で高血圧・高血糖・脂質異常の3つのリスクをもつ人の割合を減らすことにより、生活習慣病の重症化を予防し医療費の伸びを抑制する</p>

<p style="text-align: center;">↓</p> <p>多重・ハイリスク者への重症化防止対策が必要である</p>	<p>②健診検査の多数に異常を持つ者 ③喫煙者 ④その他必要と認めたもの</p>	<p>目標： H26年度 9.2% H29年度 7.0%にする <H26年度> <u>血糖＋血圧＋脂質</u> 蒲郡市 9.2% 県平均 5.6% (KDB)</p>
<p>高血圧患者で、メタボ率が高い高血圧の保有者・医療費・服薬者が多い</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>高血圧重症化予防対策</p>	<p>①特定健診の問診等において高血圧で服薬中であっても、メタボ改善の取り組みが不十分な対象者に対して、保健師・管理栄養士が保健指導を実施する ②主治医と連携した指導体制をつくり、通院患者等に主治医の指示のもと保健師・管理栄養士が栄養指導、保健指導を実施する ③高血圧予防の健康教室の開催 ④塩分閾値測定（ソルセイブ）を利用した味覚チェックと栄養指導の実施 ⑤食生活改善推進員と協働した減塩の取り組み（地区のイベント等でのキャンペーン）</p>	<p>高血圧服薬者の割合を減らすことにより高血圧の重症化を予防し、高血圧治療費の伸びを抑制する</p> <p>目標： H26年度 40.8% H29年度 38%にする <H26年度> <u>高血圧服薬者</u> 蒲郡市 40.8% 県平均 34.1% (問診)</p>
<p>20歳からの体重増加者が多い</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>体重管理と生活改善対策が必要である</p>	<p>①体重測定を習慣化し生活改善に導くため、体重測定100日チャレンジの実践 ②特定保健指導における体重管理指導の強化 ③職域・協会けんぽ等と連携し、若い男性をターゲットにおいた体重管理のための知識啓発（広報、リーフレット配布等） ③親子を対象としたメタボ予防の教室の開催や保健師・管理栄養士の保健指導</p>	<p>体重を管理し適正体重を保持することにより肥満ややせを予防し、メタボや生活習慣病の重症化を防止できる</p> <p>目標： ・体重測定100日チャレンジ新規参加者を100人にする</p>
<p>運動習慣のない人が多い</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>健康づくりのための運動の意識づけと実践が必要である</p>	<p>運動習慣のなしの割合を減少させる ①ウォーキングイベントや運動教室の実施 ②地域の運動教室などの情報提供 ③健康化政策全庁的推進プロジェクト運動推進グループによる運動の普及啓発（プラステン）の推進</p>	<p>運動習慣をつけメタボ予防、健康づくりを促す</p> <p>目標： H26年度 52.2% H29年度 50%にする <H26年度> <u>運動習慣なし</u> 蒲郡市 52.2% 県平均 49.0% (問診)</p>

2. 課題解決のための保健事業と評価指標

保健事業と評価指標	現状値 (H26 年度 KDB)	目標値 (平成 29 年度 KDB)
特定健康診査受診率	38.1%	45%
特定保健指導実施率	11.9% (H25 法定報告)	20%
結果活用セミナー参加数	30 名 (H27.9 月末現在)	50 名
宿泊型保健指導参加数	30 名 (H27)	30 名
HbA1c7.0%以上者への保健指導実施率	新規のため数値なし	対象者の 50%
多重リスク保有者への保健指導実施率	新規のため数値なし	対象者の 30%
ヘルシーライフセミナー	32 名	50 名
特定健診受診勧奨・出前 P R 実施数	新規のため数値なし	30 回以上
水中運動教室新規参加率	数値なし	全体の 3 割以上
40 歳、50 歳代の特定健診受診率	21.8%	30%
HbA1c7.0%以上の割合	5.1%	4.0%以下
40 歳代男性のメタボ該当の割合	20.2%	18%以下
40 歳代男性の BMI25 以上の割合	34.0%	30%以下
女性の中性脂肪 150mg/dl 以上の割合	17.5%	15%以下
非肥満高血糖の割合	18.4%	15%以下
20 歳から 10kg 以上の体重増加者の割合	32.9%	30%以下
日常生活で歩行または同等の身体活動を 1 日 1 時間以上実施していない人の割合	52.2%	50%以下
40 歳代の喫煙率	25.4%	20%以下
生活習慣病重複リスク者の割合	9.2% (リスク 3) 21.9% (リスク 2~3 つ)	7%以下 (リスク 3) 20%以下 (リスク 2~3 つ)

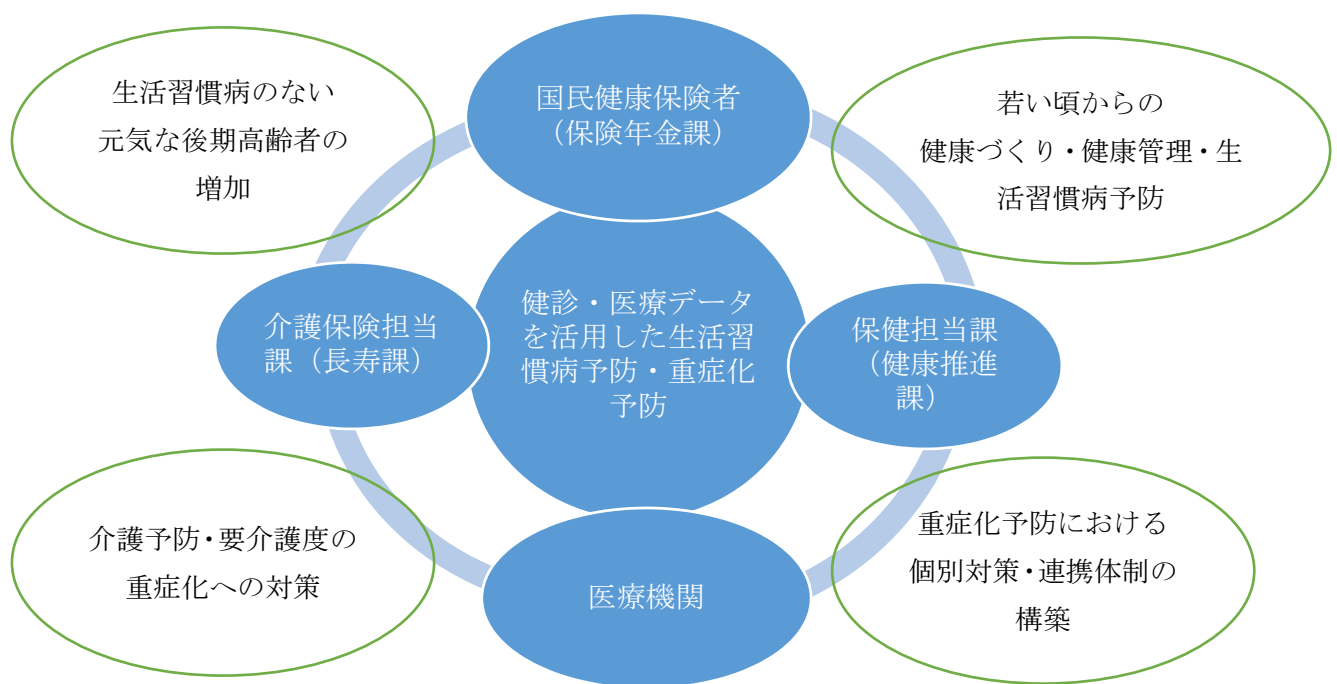
第5章 計画の推進・評価及び見直し

本計画の内容は、パブリックコメントを求め、策定後においては市のホームページに掲載するほか、関係機関の会議等において計画の周知を図ります。

また、計画の推進にあたっては、関係各課および関係機関が連携して保健事業を実施します。

評価については、計画の最終年度（平成29年度）の目標数値の達成状況を KDB システムや特定健診法定報告、特定健診の問診等の情報を活用し、毎年度目標項目ごとに評価します。数値の変化については、本市の経年変化とともに、国や県、同規模保険者との比較を行います。

これらのデータ分析の結果から、PDCA サイクルに沿った保健事業の評価を行い、課題の見直し、優先課題や新たな目標設定を考え、次年度の保健事業に反映します。



第6章 データ管理・個人情報の保護

1 データ管理

特定健康診査等のデータは、国民健康保険団体連合会に管理及び保管を委託します。

管理・保存期間は記録作成日の属する年の翌年（当該受診日が1月1日から3月31日までの場合は当該年）の4月1日から5年間とします。被保険者が他の保険者の加入者となった場合は、他の保険者の加入者となった年度の翌年度の末日とします。

また、保存年限を経過した記録については、蒲郡市個人情報保護条例に基づき適正な処理を行います。

2 個人情報保護の取扱い

特定健康診査等の実施にあたっては、蒲郡市個人情報保護条例及び蒲郡市情報セキュリティポリシーを遵守し、個人情報の保護・管理を行います。

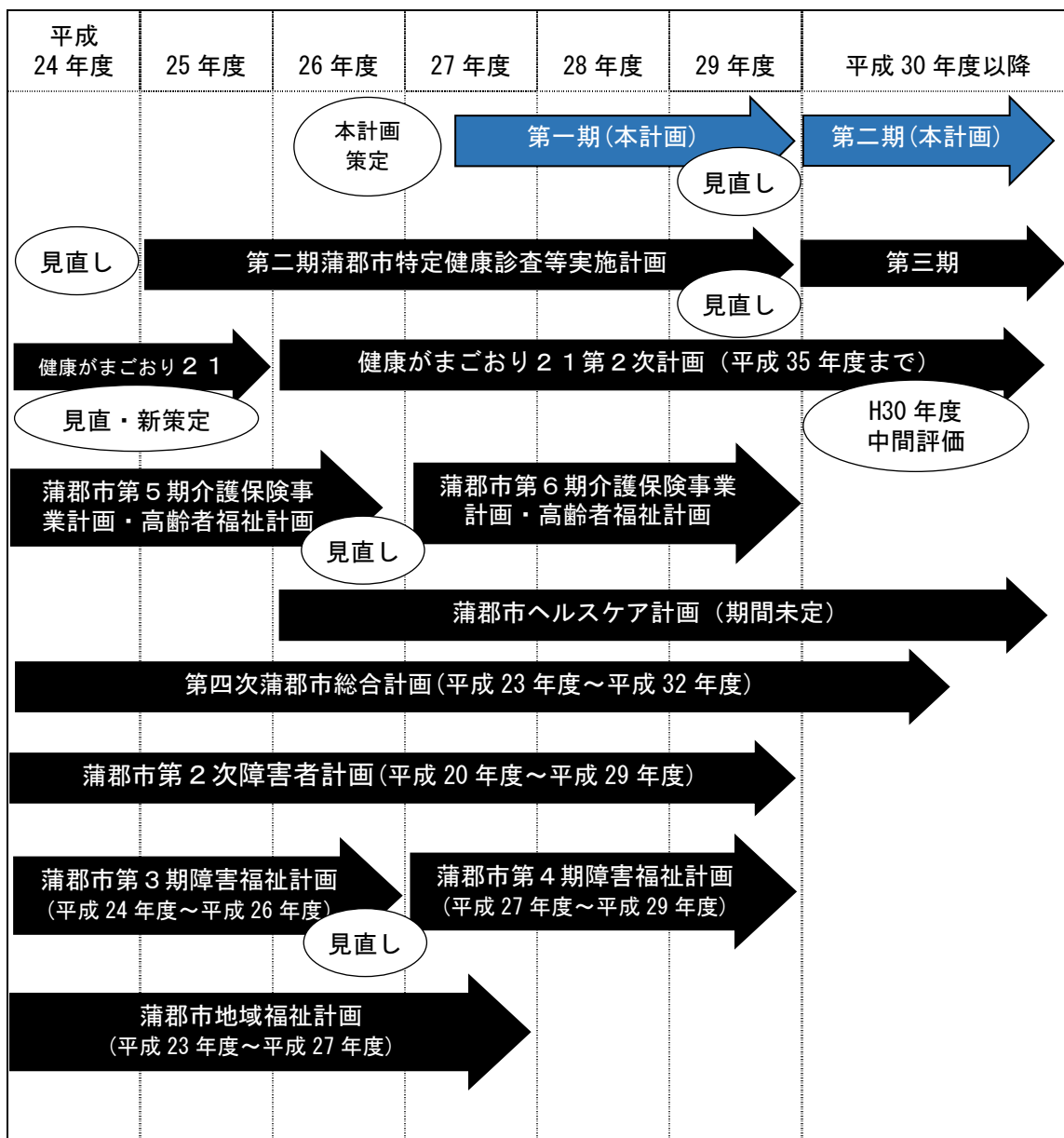
また、特定健康診査等を受託した事業者についても、個人情報の保護に関する法律を遵守させるとともに、契約締結時に遵守事項を定め、管理させるものとします。業務上知り得た情報については守秘義務を徹底し、業務終了後も同様とします。

※資料編

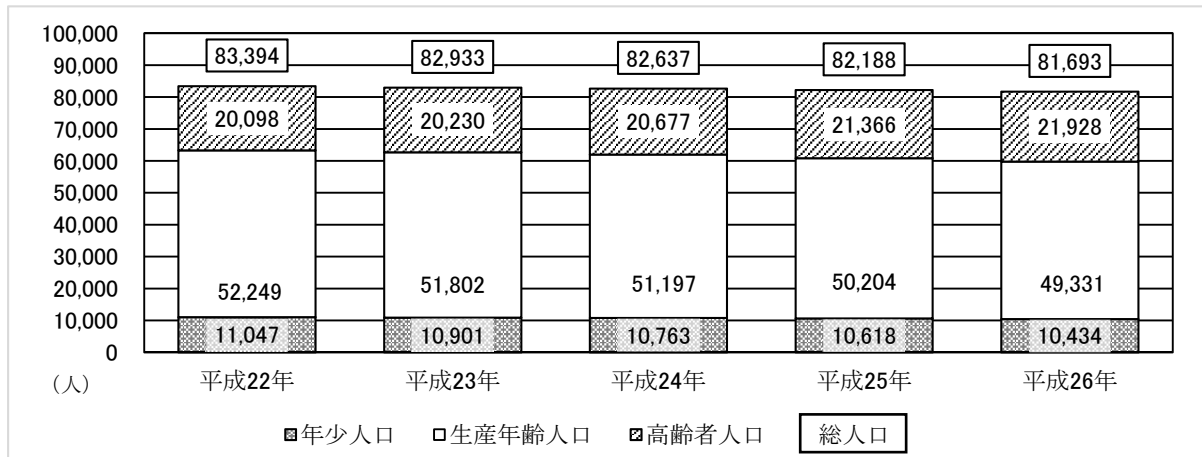
- 図表 1 計画期間 P.42
- 図表 2 蒲郡市の年齢区分別人口 P.43
- 図表 3 年齢階級別の人口及び国民健康保険被保険者数 P.43
- 図表 4 高齢化率 P.43
- 図表 5 65 歳以上人口割合・75 歳以上人口割合の伸び P.44
- 図表 6 平均寿命と健康寿命 P.44
- 図表 7 死因 P.44
- 図表 8 年齢別死亡者数 P.45
- 図表 9 国民健康保険加入者（被保険者）の動向 P.45
- 図表 10 年齢階級別の国民健康保険被保険者構成割合 P.45
- 図表 11 被保険者数と保険給付費の推移 P.46
- 図表 12 一人当たりの保険給付費 P.46
- 図表 13 保険給付費と医療費の年次推移 P.46
- 図表 14-1 年齢階級別外来医療費 P.47
- 図表 14-2 年齢階級別入院医療費 P.47
- 図表 14-3 男女別年齢階級別一人当たり外来医療費 P.48
- 図表 14-4 男女別年齢階級別一人当たり入院医療費 P.48
- 図表 15 男女別年齢階級別一般疾病・生活習慣病保有者率 P.49
- 図表 16 男女別年齢階級別・生活習慣病ごとの保有者率 P.50
- 図表 17 医療受診状況による男女別生活習慣病保有率 P.51
- 図表 18 医療費の割合 P.52
- 図表 19 大分類別 1 人当たり医療費 P.52
- 図表 20 人口 1 万人あたり透析者数 P.53
- 図表 21 新規導入件数と糖尿病からの移行 P.53
- 図表 22 特定健康診査受診者数及び受診率 P.54
- 図表 23 性・年齢別特定健診受診者数及び受診率 P.54
- 図表 24 継続受診者の状況 P.54
- 図表 25 連続未受診者の状況 P.55
- 図表 26 平成 26 年度健康診査受診・未受診者と生活習慣病治療の状況 P.55
- 図表 27 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム該当率 P.55
- 図表 28 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム予備群該当率 P.56
- 図表 29 腹囲・非肥満高血糖の状況 P.56
- 図表 30 性・年代別の高血糖の状況 P.56
- 図表 31 年代別健診結果 P.57
- 図表 32 健診時の問診回答結果 P.58
- 図表 34 男女別メタボ該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況 P.59
- 図表 35 市町村別特定保健指導終了率 P.59

図表 36	年代別特定保健指導対象者及び終了率	P.59
図表 37	特定保健指導利用者と未利用者の翌年度の保健指導判定	P.60
図表 38	特定保健指導による検査数値の変化	P.60
図表 39	要介護認定率及び一人当たり介護給付費	P.61
図表 40	要介護者の有病状況	P.61
図表 40	65歳未満の要介護認定者の原因疾患	P.62
図表 41	平成26年度がん検診受診率	P.63
図表 42	平成26年度 国保加入者のがん検診受診者割合	P.64
図表 43	平成26年度 がん検診受診者の年代別国保加入状況	P.64
図表 44	平成26年度 がん検診 要精密検査数	P.65
図表 45	平成26年度 がん検診 要精密検査受診者数	P.65
図表 46	平成26年度 がん発見者数	P.65
図表 47	ヤングエイジ健診受診率（全体）	P.66
図表 48	ヤングエイジ健診判定結果（全体）	P.66
図表 49・50	ヤングエイジ健診受診者の国保加入状況及び 判定結果の状況	P.66
図表 51	要指導と要医療判定者の性別主要所見内訳のうち国保加入者の状況(延)	P.66
図表 52	男女別小中学生の肥満度割合	P.67
図表 53	中学1年生血液検査結果	P.67
既存の保健事業の取り組み・評価・課題		P.68
課題の整理とその他の評価指標		P.73

図表1 計画期間

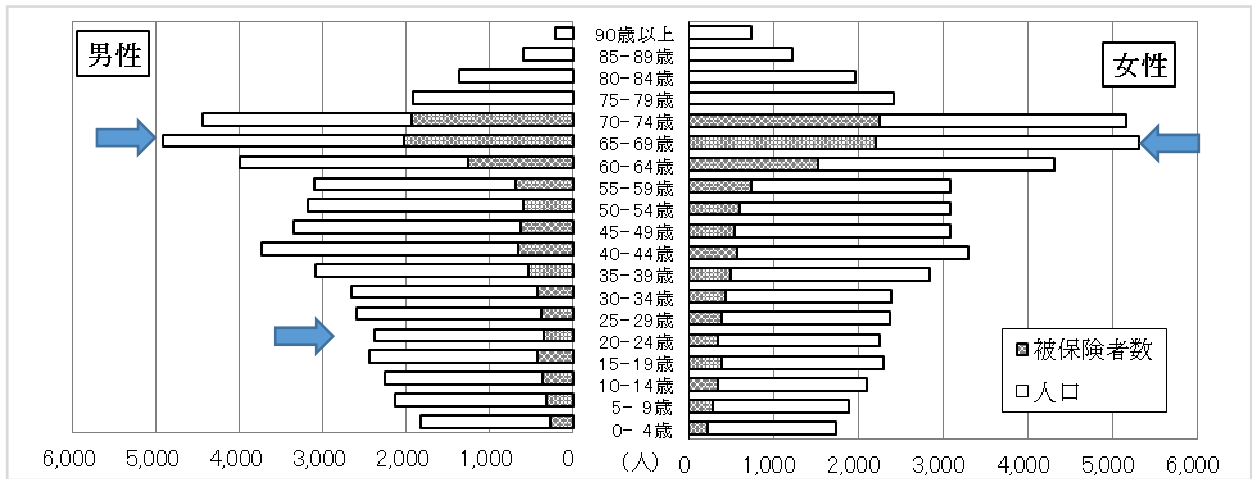


図表 2 蒲郡市の年齢区分別人口



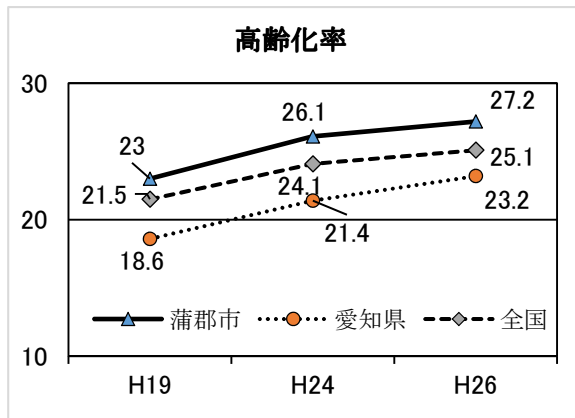
各年 4 月 1 日現在「住民基本台帳」より

図表 3 年齢階級別の人口及び国民健康保険被保険者数



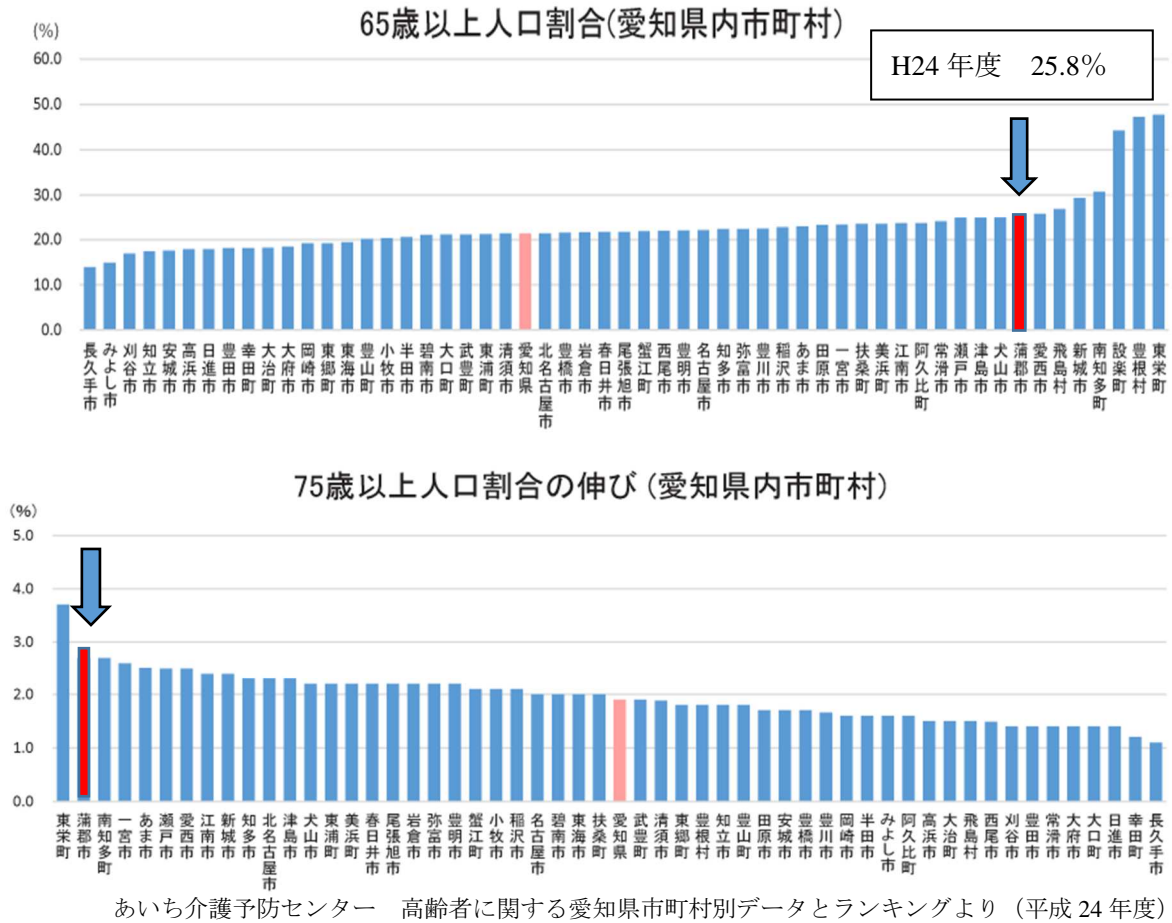
蒲郡市人口統計及びAICube（平成 26 年 4 月）「帳票 1-01」より

図表 4 高齢化率



各年 10 月 1 日現在 がまごおりの保健より

図表5 65歳以上人口割合・75歳以上人口割合の伸び

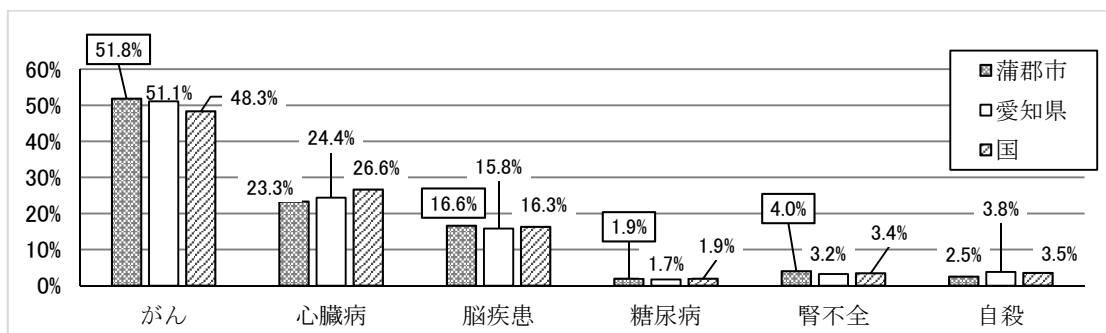


図表6 平均寿命と健康寿命

	平均寿命 (歳)		健康寿命の年齢差	
	男	女	男	女
蒲郡市	79.6	85.6	-0.1歳	-0.5歳
愛知県	79.7	86.2	0 (基準)	0 (基準)
国	79.6	86.4	-0.5歳	-0.4歳

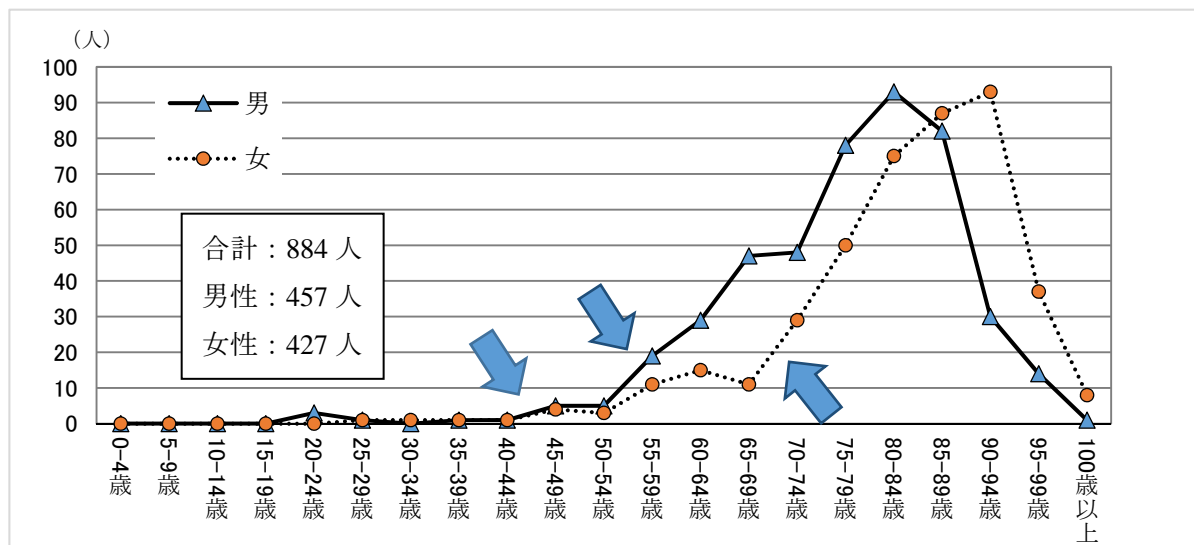
KDB システム (平成26年度累計) 「地域全体像の把握」より

図表7 死因



44 KDB システム (平成26年度累計) 「地域全体像の把握」より

図表8 年齢別死亡者数



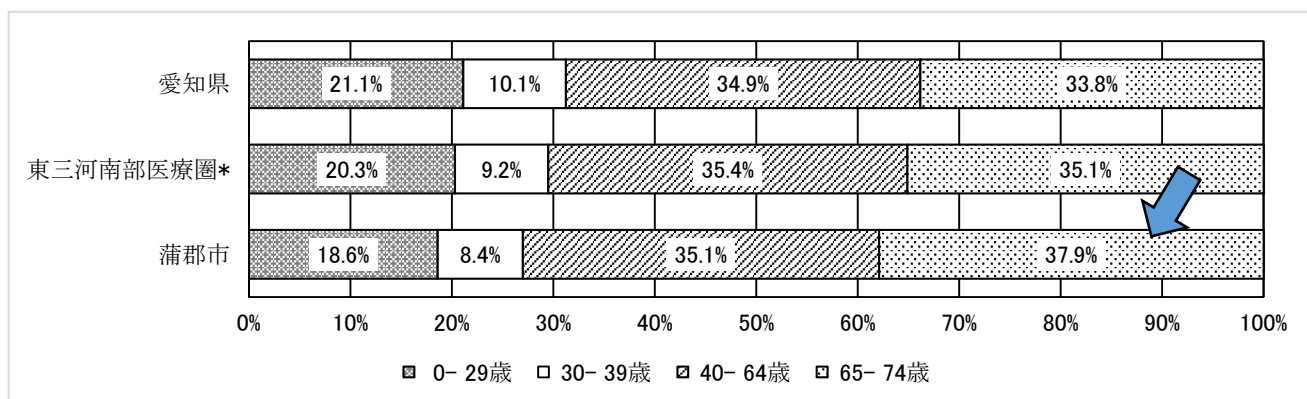
「平成25年度政府統計人口動態調査市区町村別」より

図表9 国民健康保険加入者（被保険者）の動向

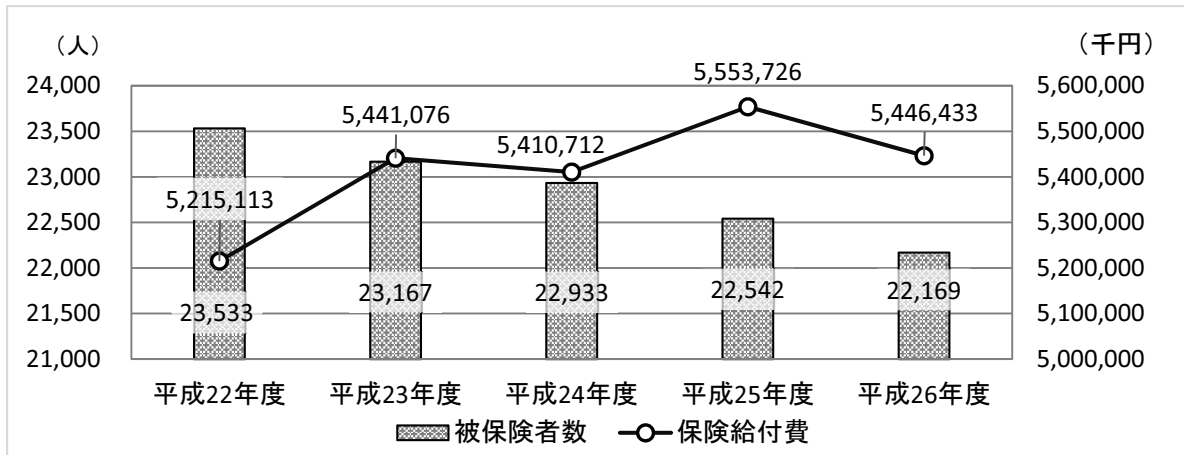
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
蒲郡市総人口		80,898	80,498	82,188	81,693	81,547
国民健康保険	被保険者数	23,289	23,068	22,613	22,178	22,145
	世帯数	12,580	12,626	12,523	12,370	12,352

※ 平成25年度より外国人を含む
各年度当初現在「市民課統計及び国民健康保険増減整理表」より

図表10 年齢階級別の国民健康保険被保険者構成割合

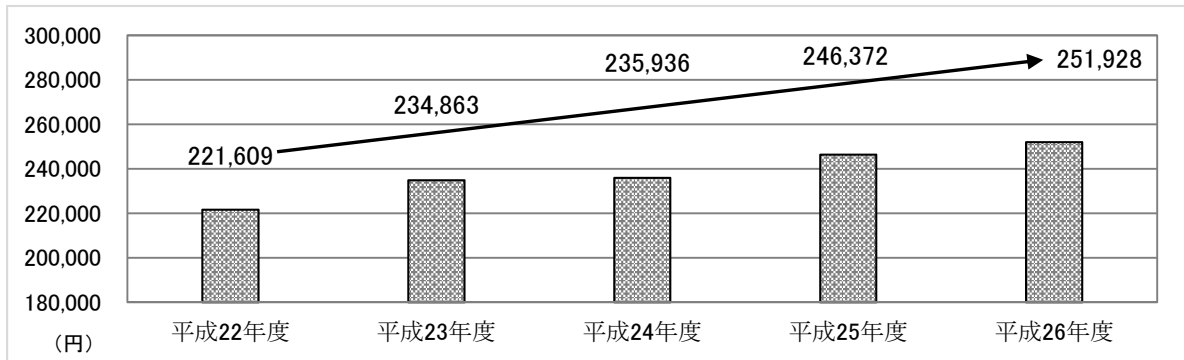


図表 11 被保険者数と保険給付費の推移



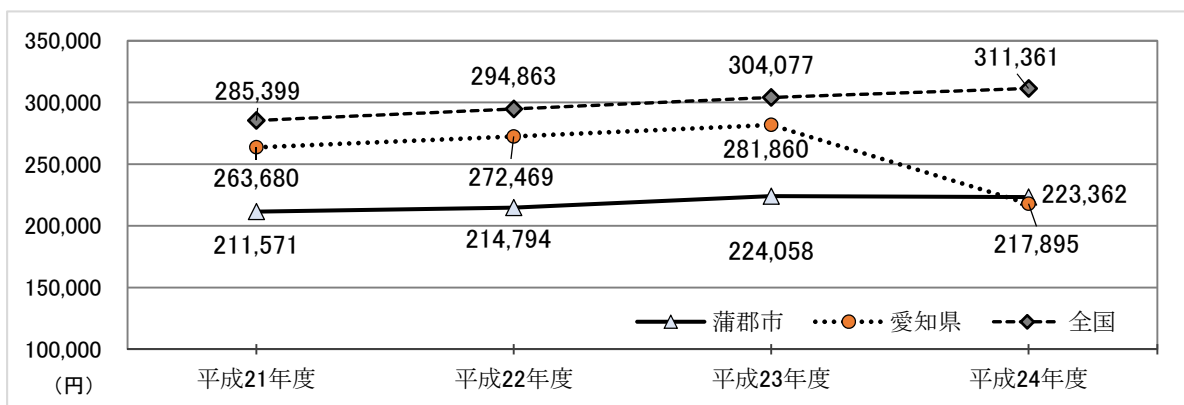
「国民健康保険事業年報告」より

図表 12 一人当たりの保険給付費



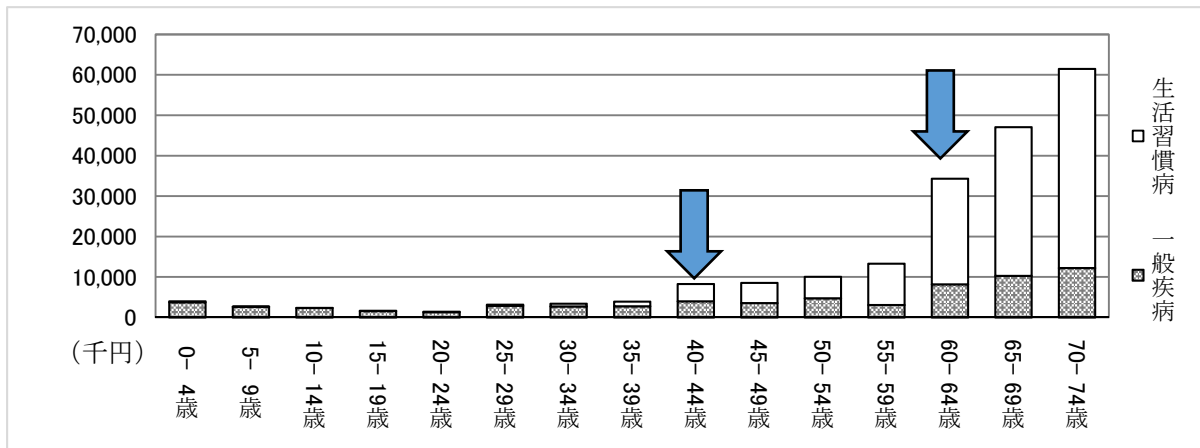
「国民健康保険事業年報告」より

図表 13 保険給付費と医療費の年次推移



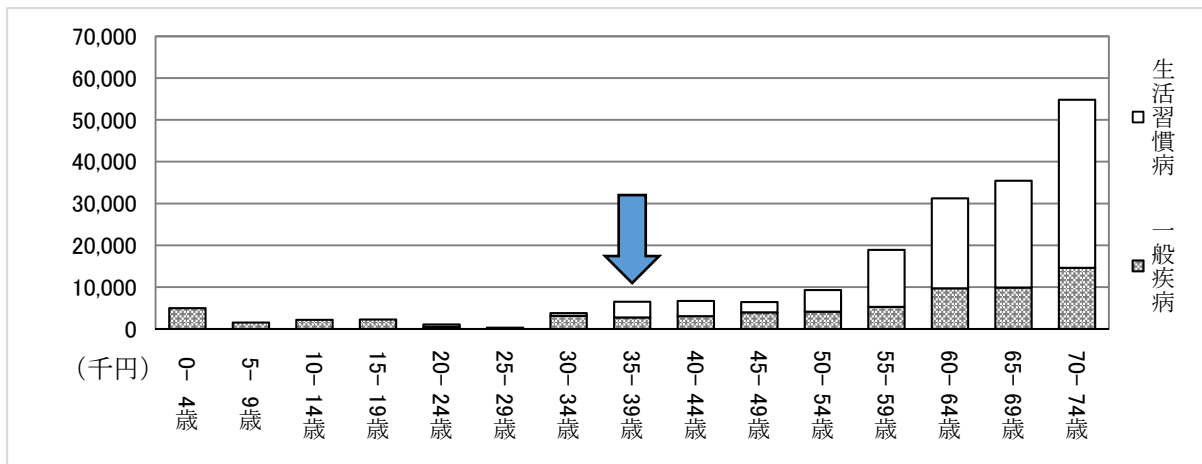
※医療費：国保一般の入院・入院外・歯科（調剤、食事は含まない）の費用額
「グラフで見る愛知の国保」「国民健康保険事業年報告」より

図表 14-1 年齢階級別外来医療費



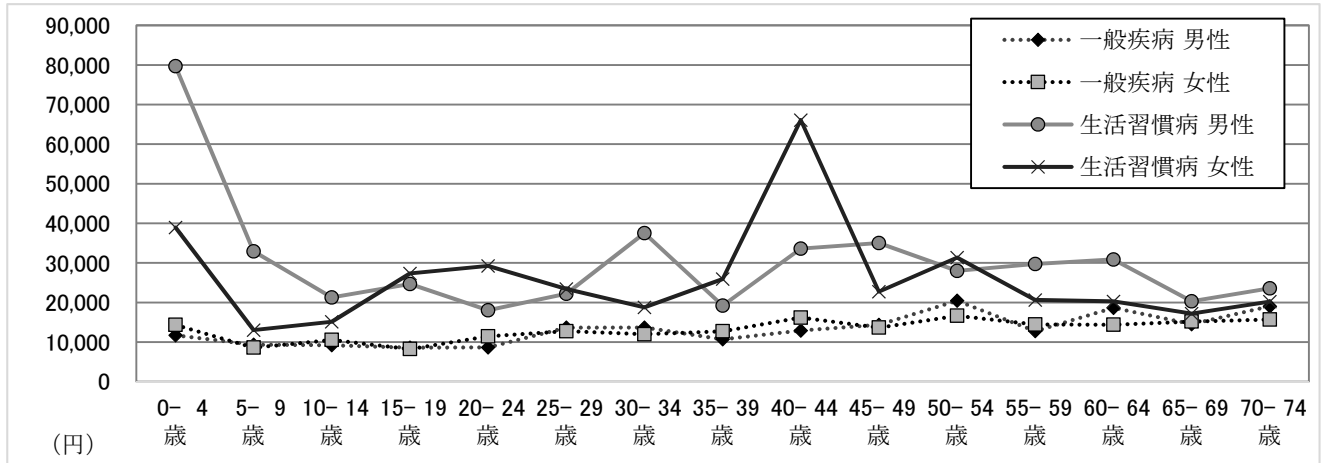
AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 3-02」より

図表 14-2 年齢階級別入院医療費



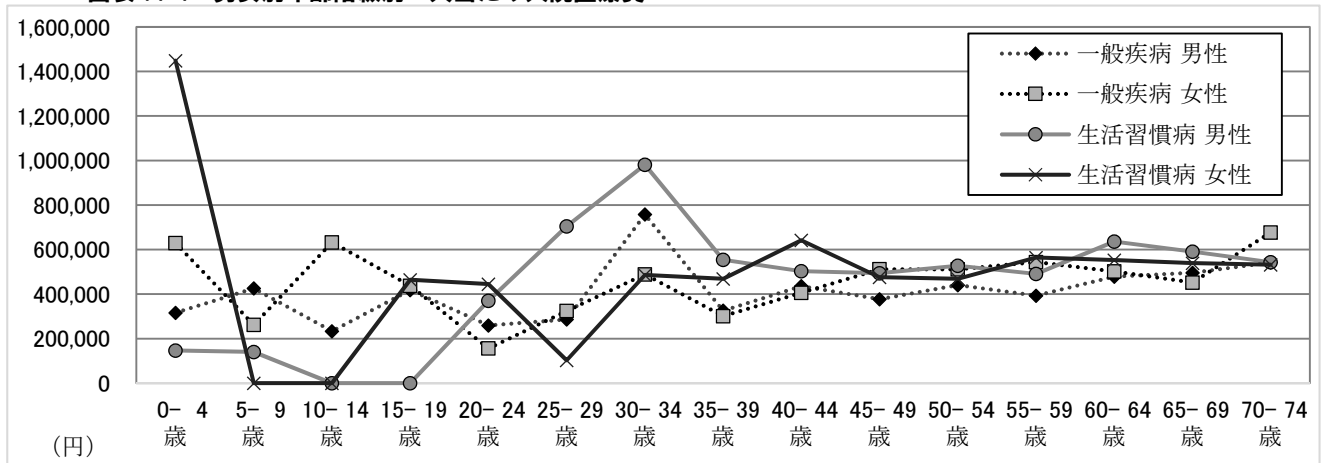
AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 3-01」より

図表 14-3 男女別年齢階級別一人当たり外来医療費



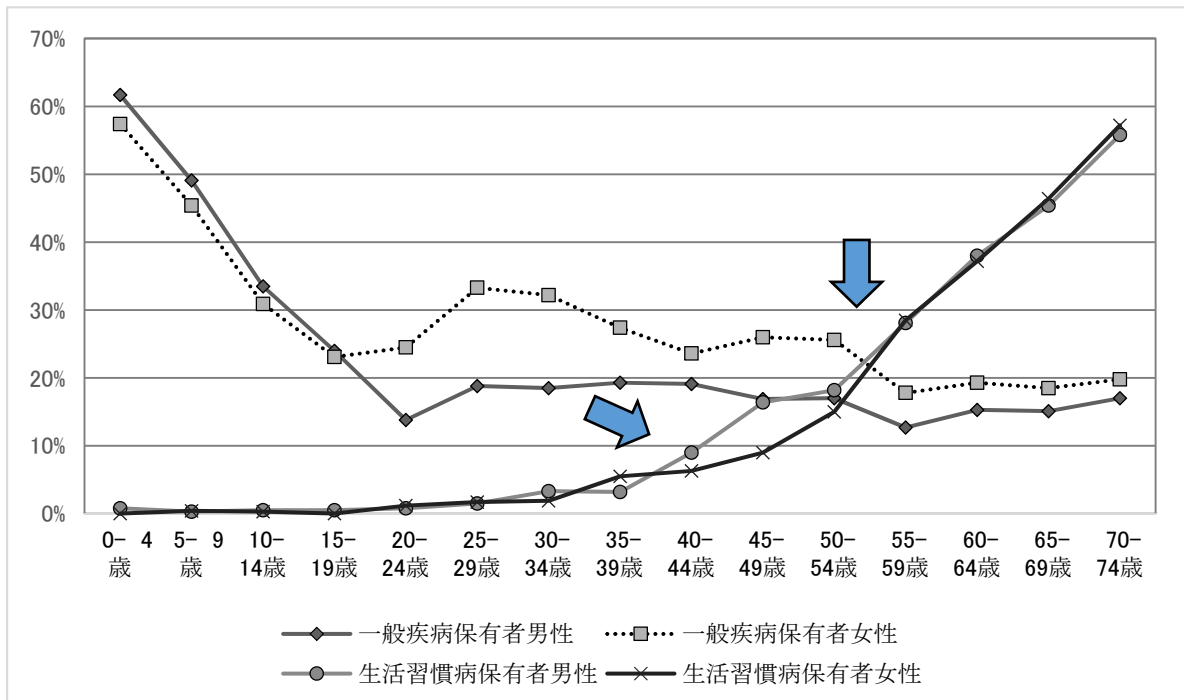
AICube (平成 26 年度分)「帳票 3-07-02」より

図表 14-4 男女別年齢階級別一人当たり入院医療費



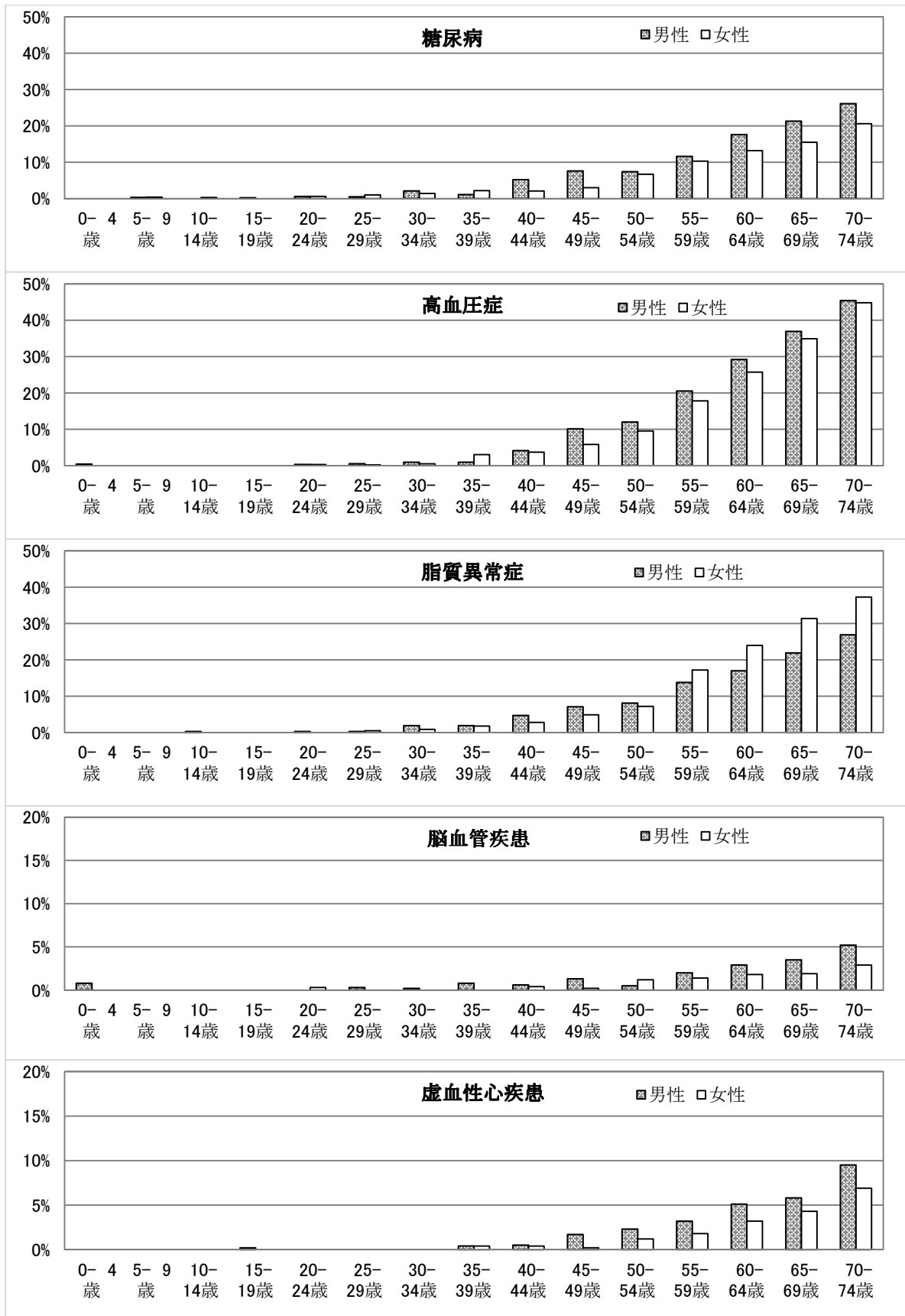
AICube (平成 26 年度分)「帳票 3-07-01」より

図表 15 男女別年齢階級別一般疾病・生活習慣病保有者率



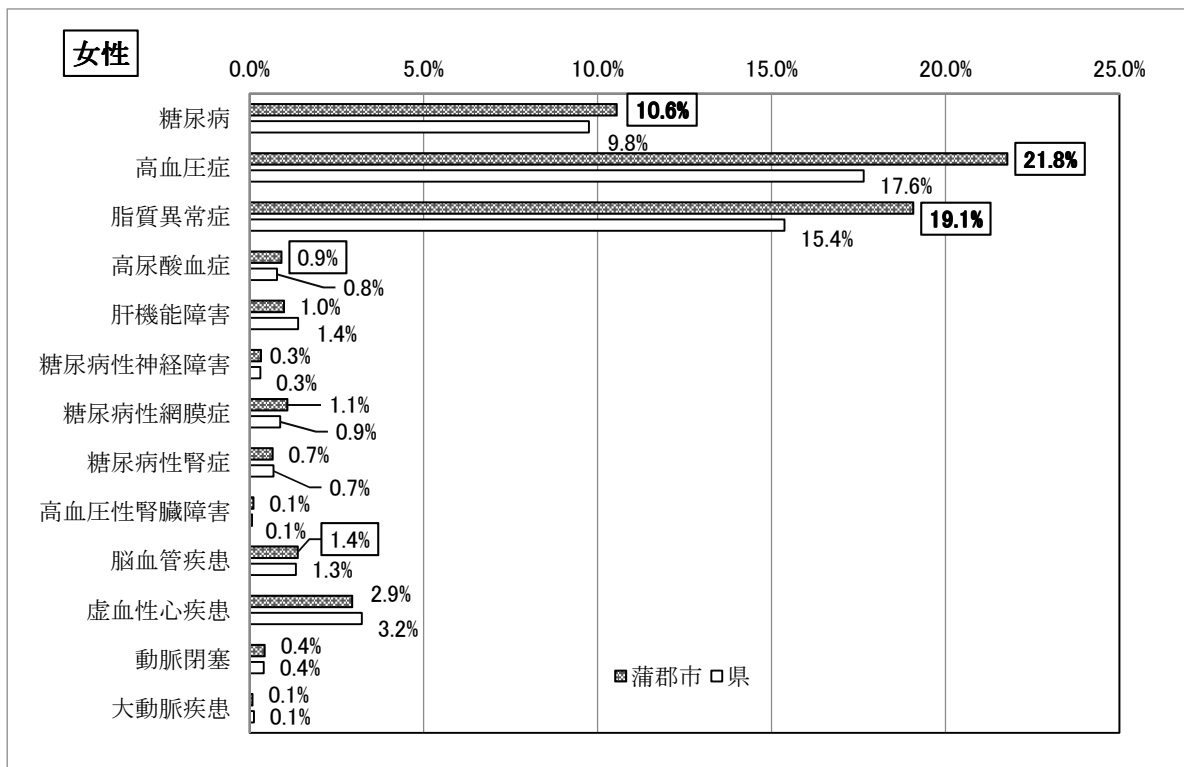
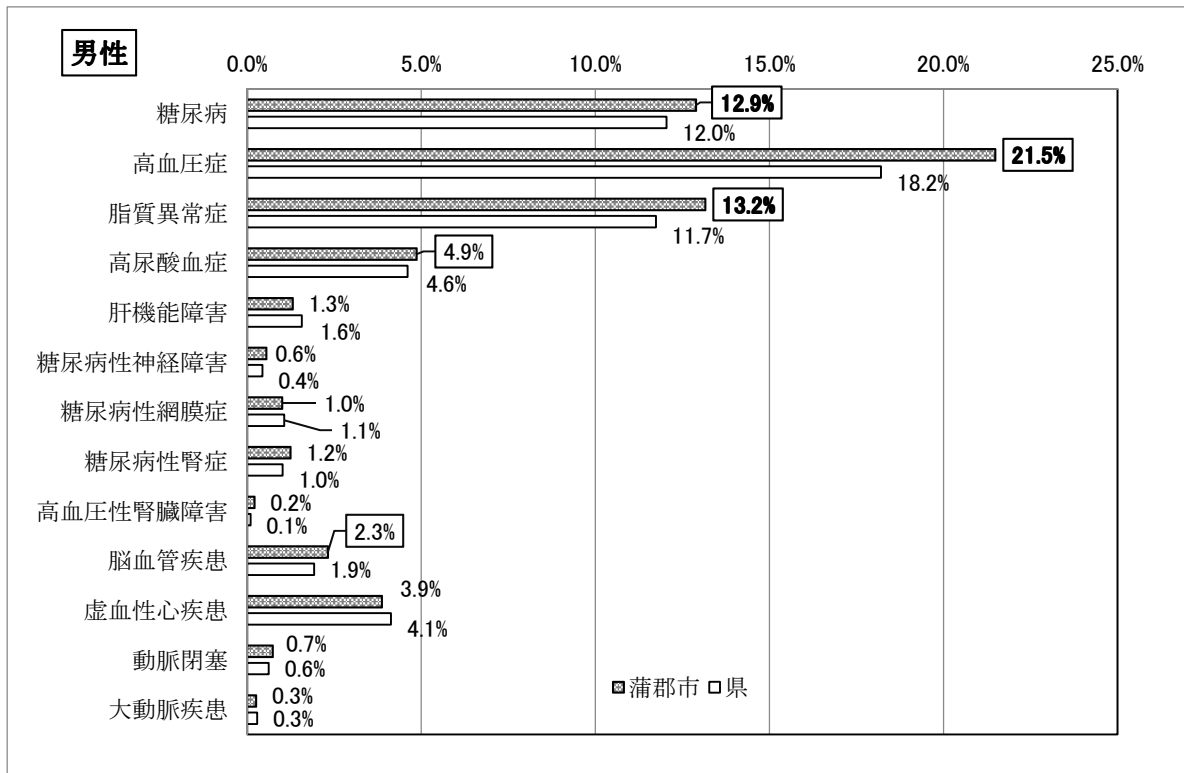
AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 2-04」より

図表 16 男女別年齢階級別・生活習慣病ごとの保有者率



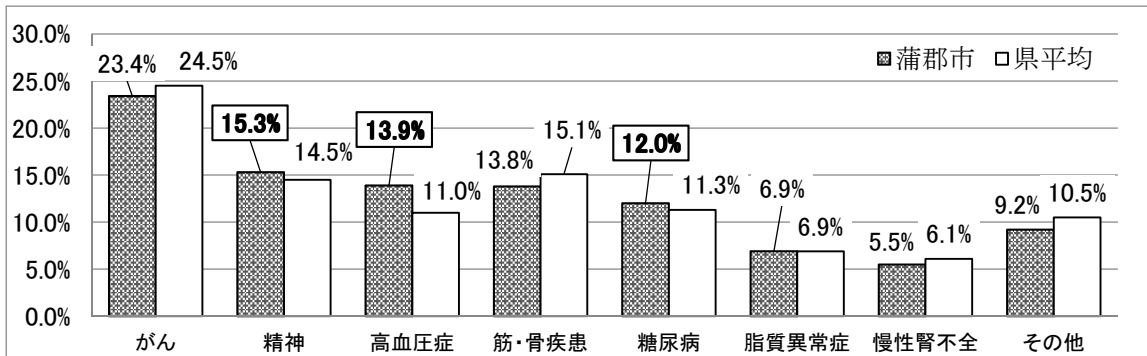
AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 2-08 改」より

図表 17 医療受診状況による男女別生活習慣病保有率



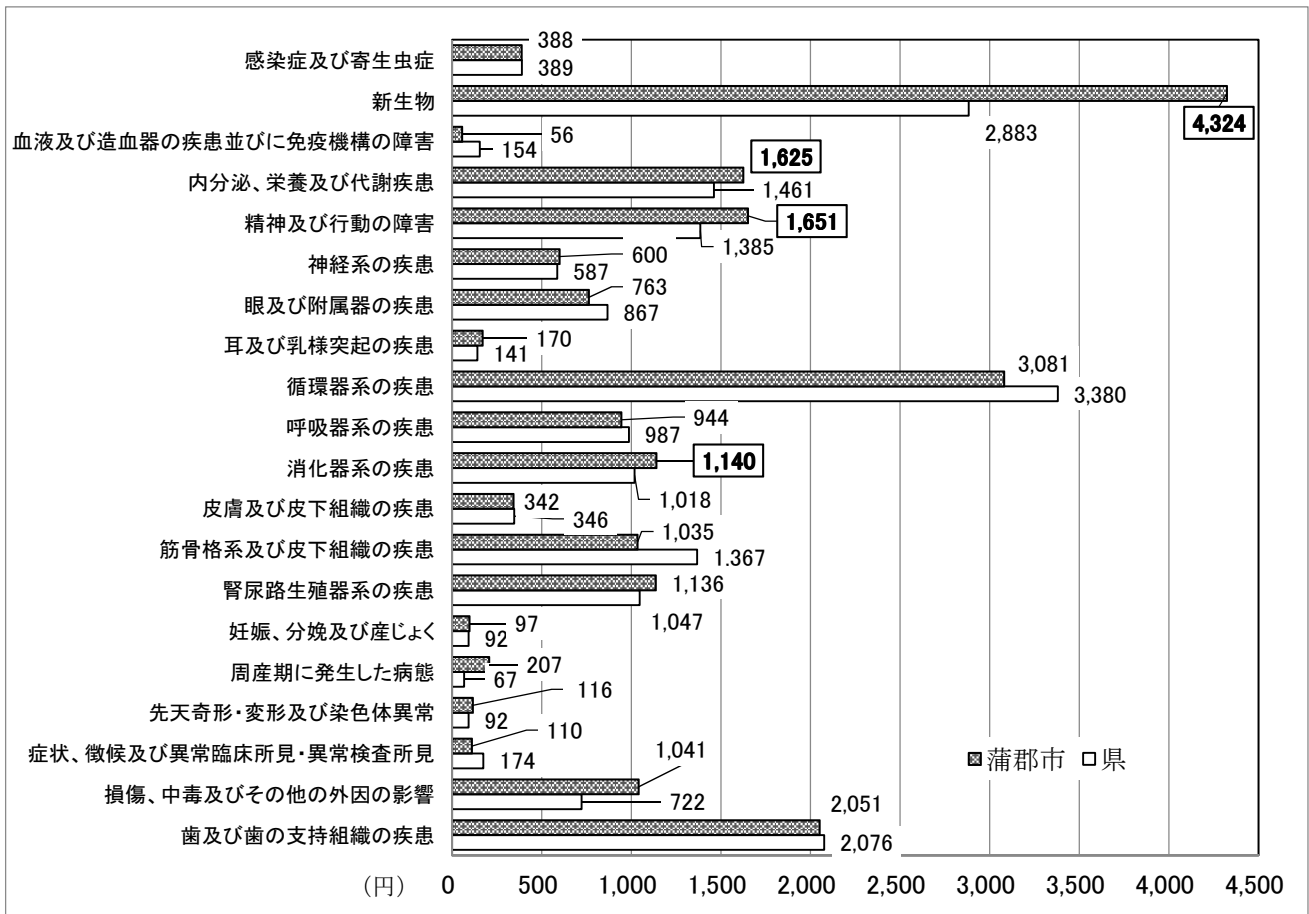
AICube (平成 26 年 3 月分)「帳票 1-01、2-07 改」より

図表 18 医療費の割合



KDB システム (平成 26 年度累計) 「健診・医療・介護データから見る地域の健康課題」より

図表 19 大分類別 1 人当たり医療費



平成 25 年度「疾病分類統計表」より

図表 20 人口1万人あたり透析者数

	蒲郡市	愛知県
男性(人)	135	10,683
女性(人)	95	6,163
計(人)	230	16,846
1万人 対比	28.5 (愛知県内 3位)	22.7

平成26年1月1日現在

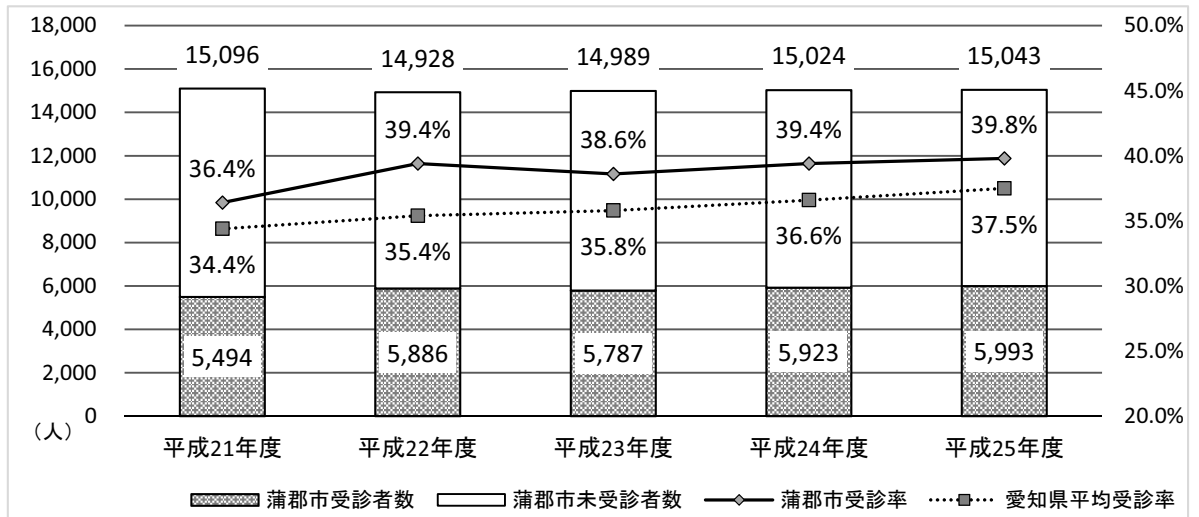
平成25年度愛知腎臓財団「慢性腎不全患者の実態」より

図表 21 新規導入件数と糖尿病からの移行

浄化 開始 年度	蒲郡市			愛知県		
	全体 (人)	糖尿病 (人)	%	全体 (人)	糖尿病 (人)	%
25年度	41	17	41	1,597	659	41
24年度	32	12	38	1,954	786	40
23年度	24	9	38	1,983	826	42

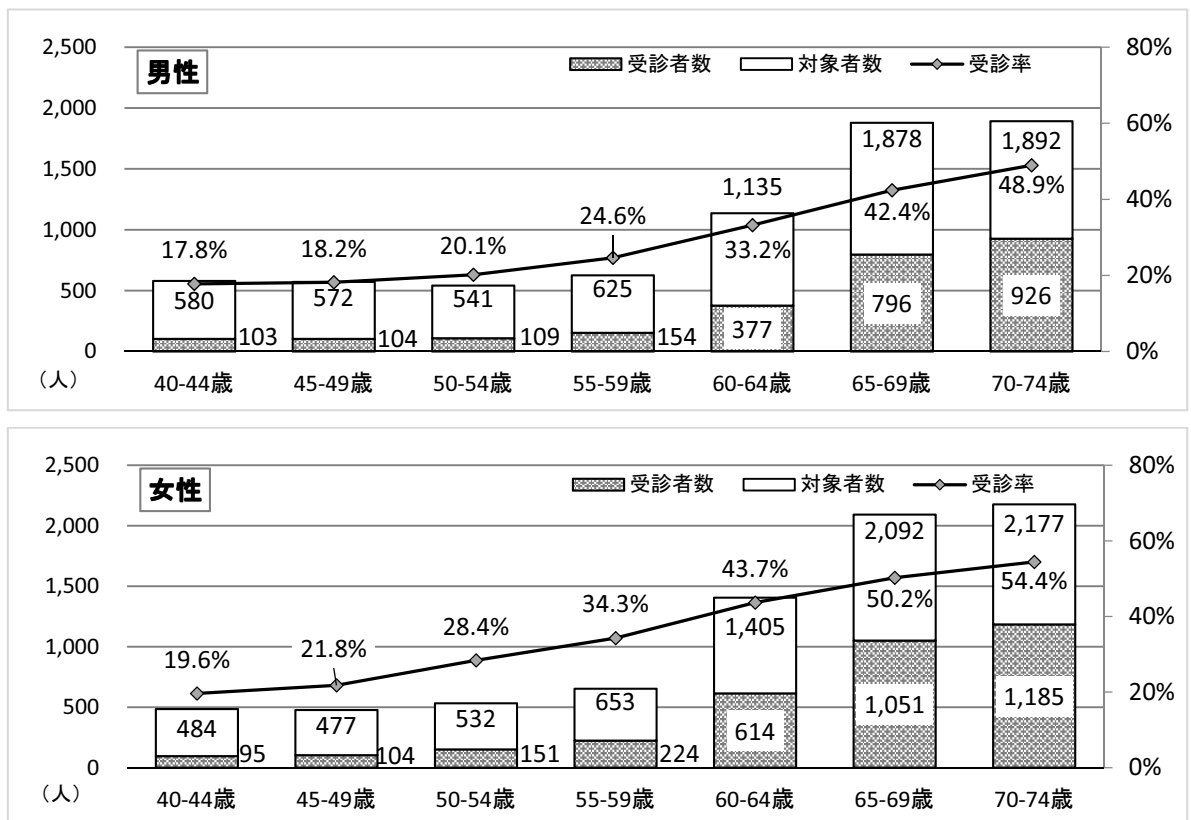
平成25年度愛知腎臓財団「慢性腎不全患者の実態」より

図表 22 特定健康診査受診者数及び受診率



各年度「法定報告資料」より

図表 23 性・年齢別特定健診受診者数及び受診率



KDB システム (平成 25 年度) 「法定報告」より

図表 24 継続受診者の状況

5年連続受診者	9.01%	987人
4年連続受診者	12.32%	1,349人
3年連続受診者	5.33%	583人

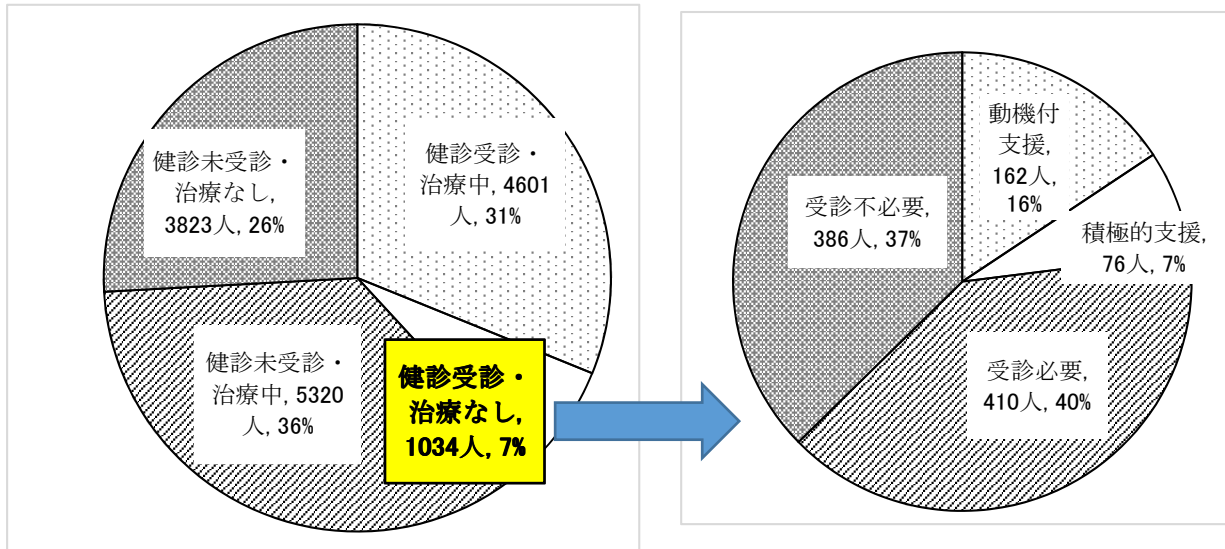
AICube (平成 20 年度から平成 24 年度) 特定健診分析「特定健診受診状況一覧」より

図表 25 連続未受診者の状況

5年連続未受診者	41.9%	4,590人
4年連続未受診者	2.25%	247人
3年連続未受診者	4.19%	459人

AICube（平成20年度から平成24年度）特定健診分析「特定健診受診状況一覧」より

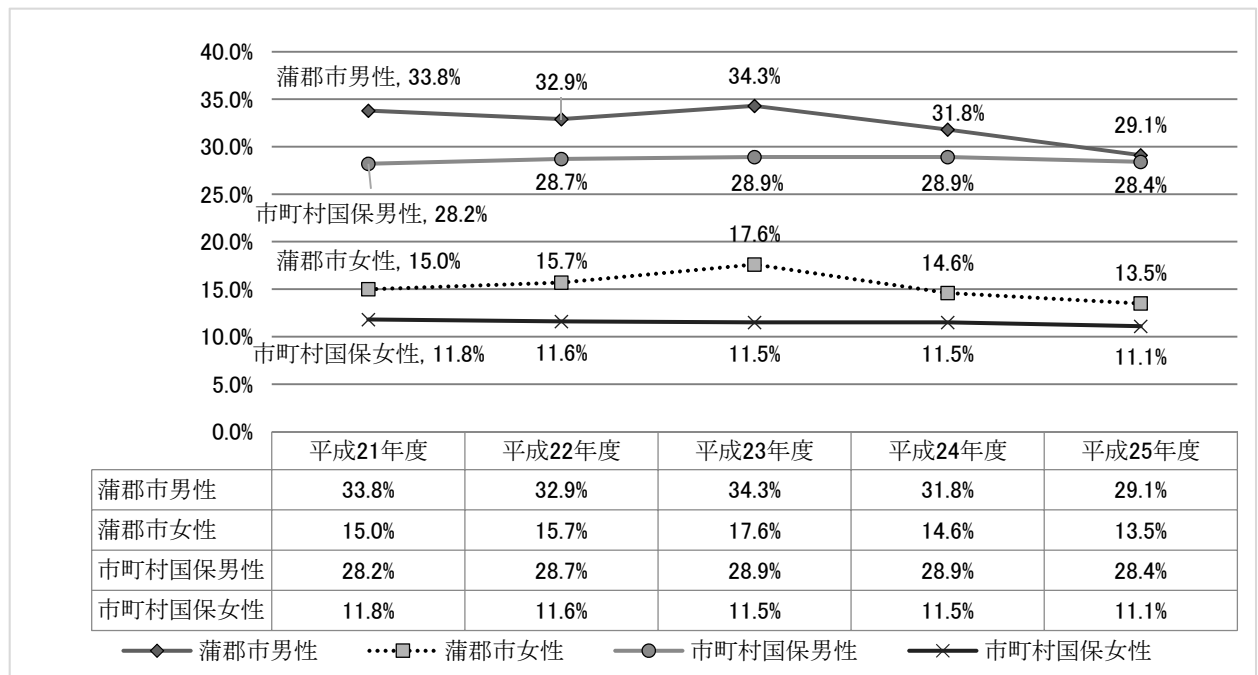
図表 26 平成26年度健康診査受診・未受診者と生活習慣病治療の状況



KDB システム（平成26年度累計）「厚生労働様式糖尿病等生活習慣病のための健診・保健指導」より

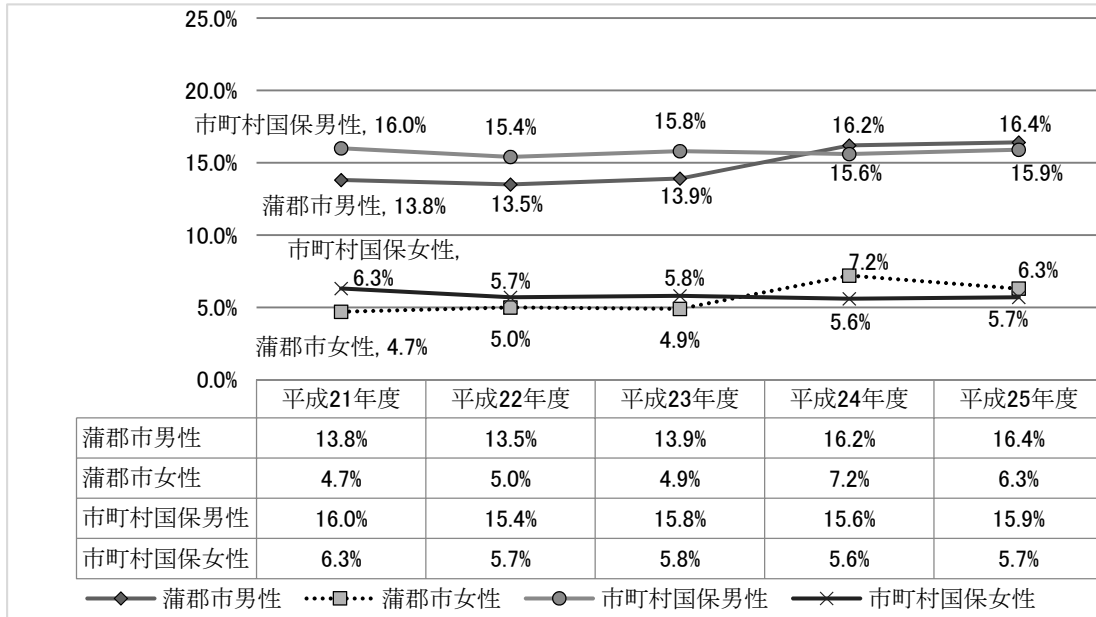
AICube（各年度）「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

図表 27 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム該当率



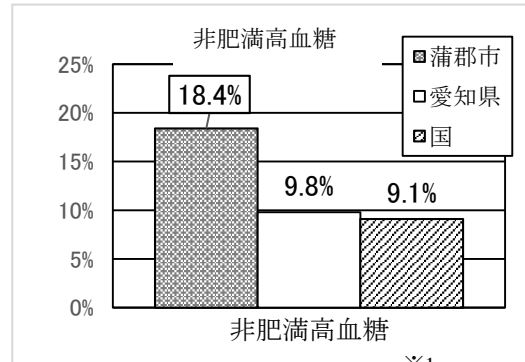
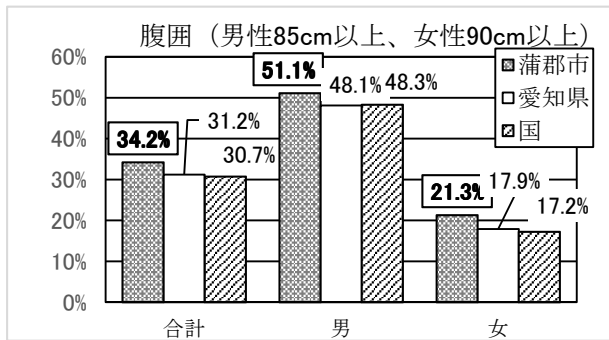
AICube（各年度）「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

図表 28 特定健康診査受診結果に基づくメタボリックシンドローム予備群該当率



AICube (各年度)「法定報告 特定健診・特定保健指導実施結果報告改」より

図表 29 腹囲・非肥満高血糖の状況

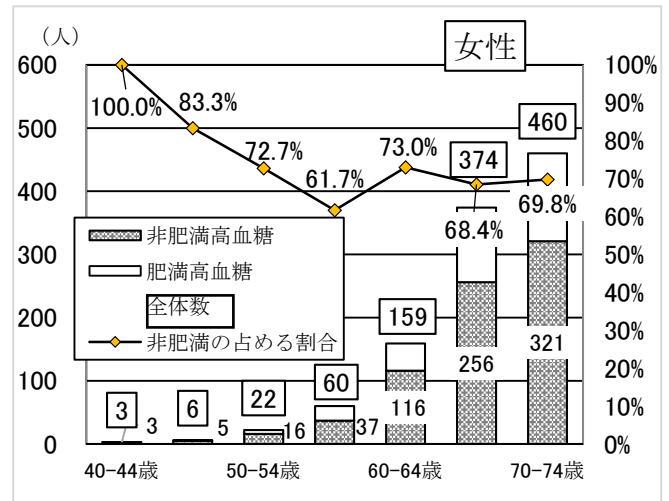
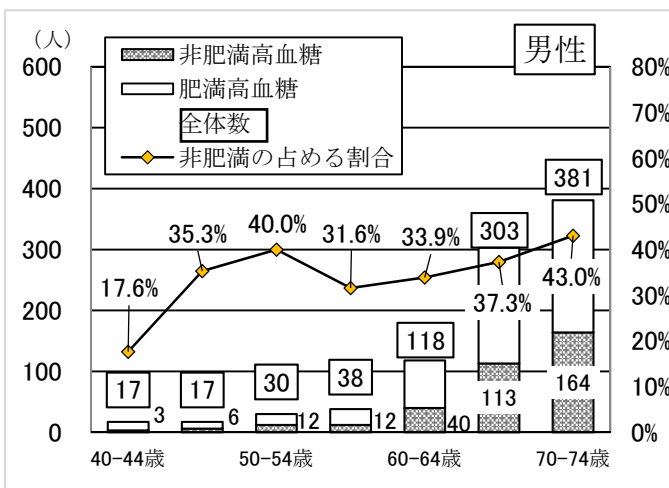


腹囲：男性 85cm 以上女性 90cm 以上

※1 非肥満高血糖/総健診受診者数

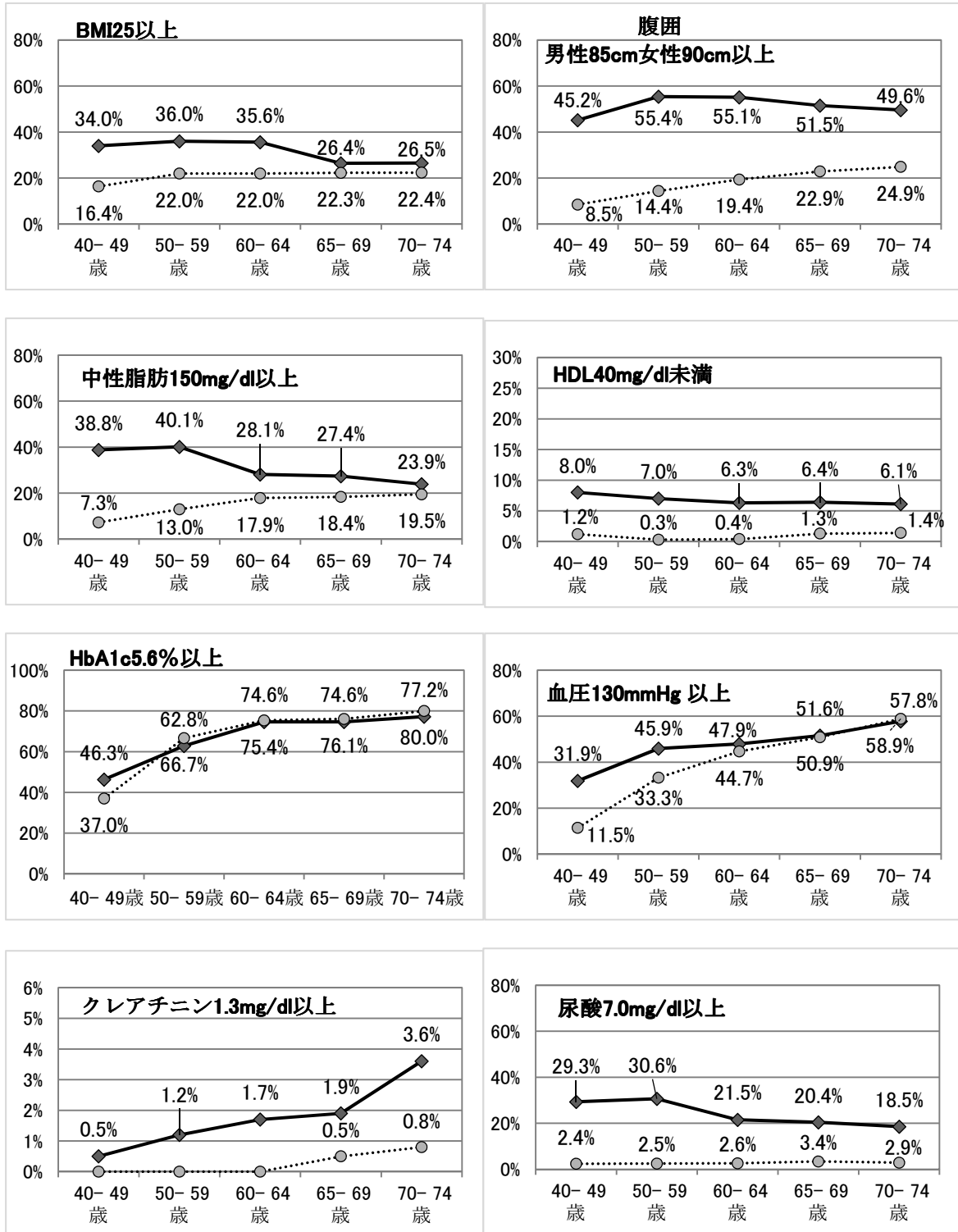
KDB システム (平成 26 年度累計)「健診・医療・介護データから見る地域の健康課題」より

図表 30 性・年代別の高血糖の状況



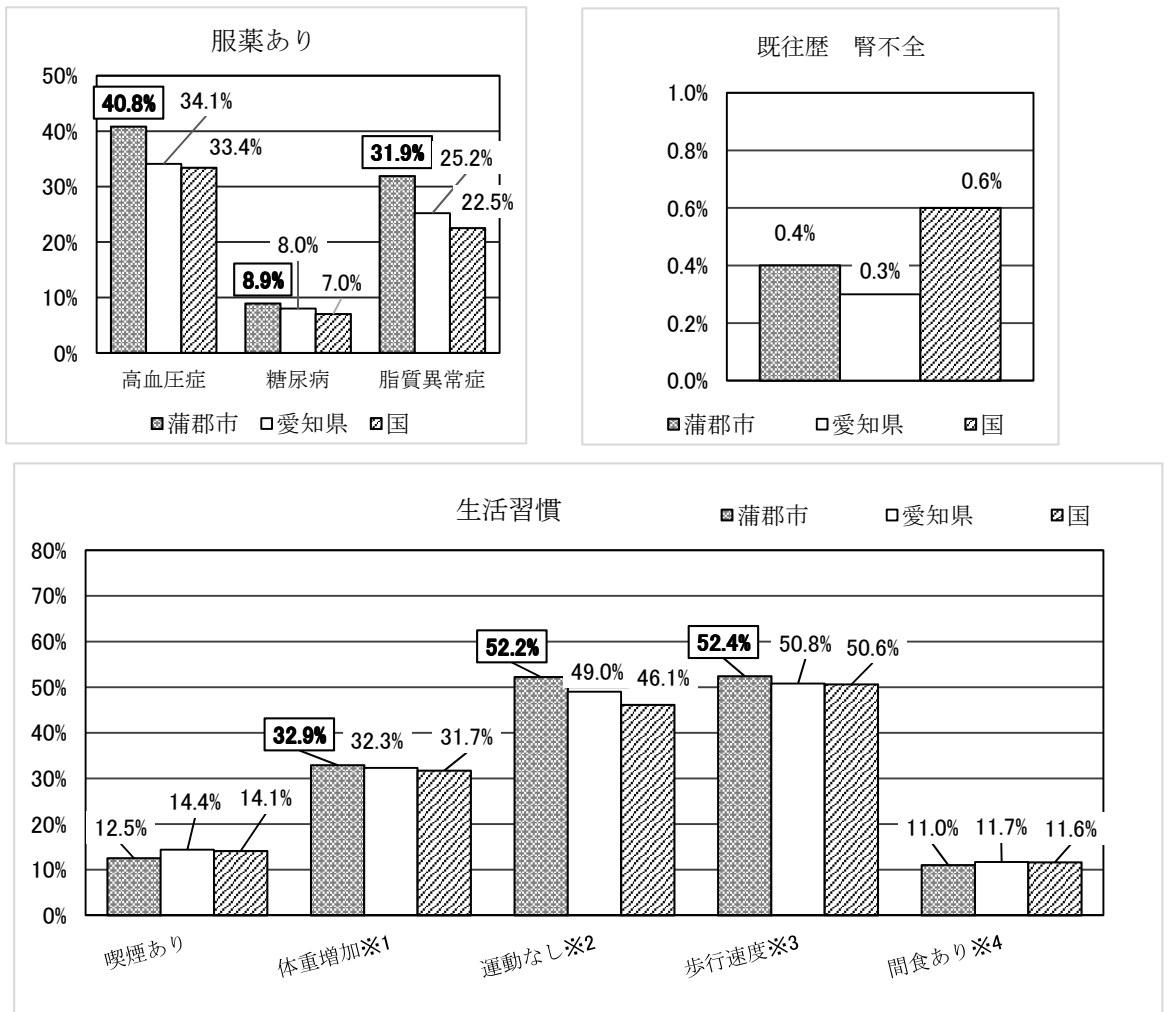
図表 31 年代別健診結果

—— 男 …………… 女



KDB システム（平成 26 年度）「厚生労働省様式 6-2～7 健診有所見者状況」より

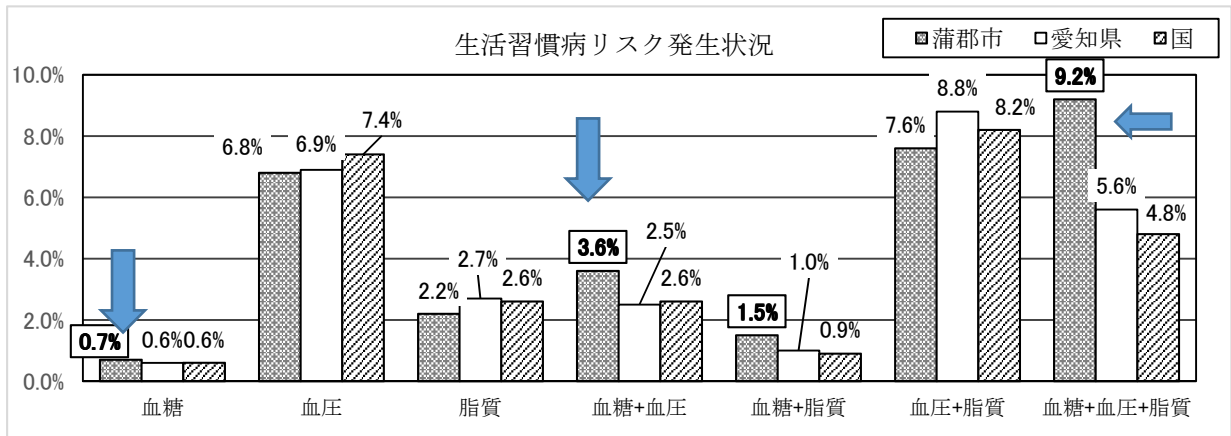
図表 32 健診時の問診回答結果



体重増加※1 20歳時体重から10kg以上増加した
 運動なし※2 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施していない
 歩行速度※3 ほぼ同じ同性と比較して歩く速度が遅い
 間食あり※4 夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある

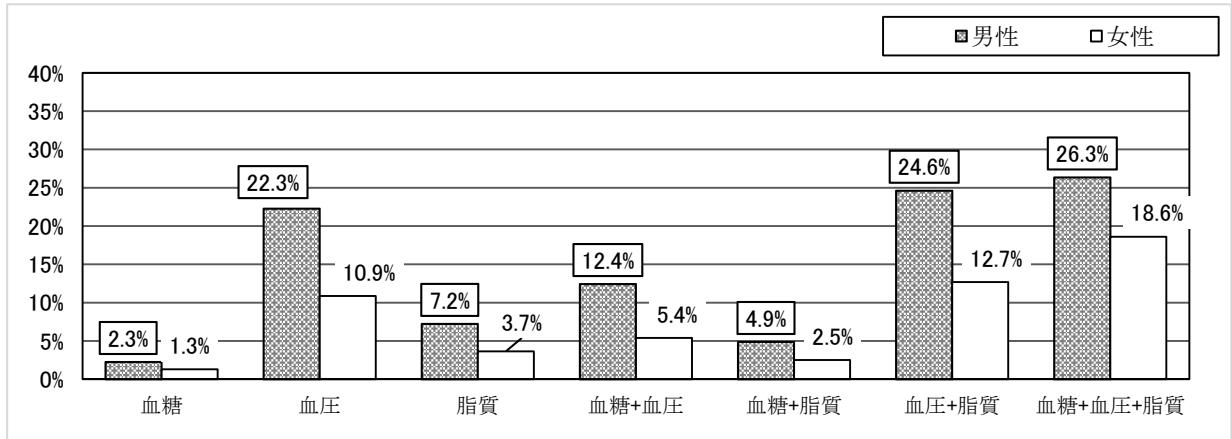
KDBシステム(平成26年度)「地域の全体像の把握」より

図表 33 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況



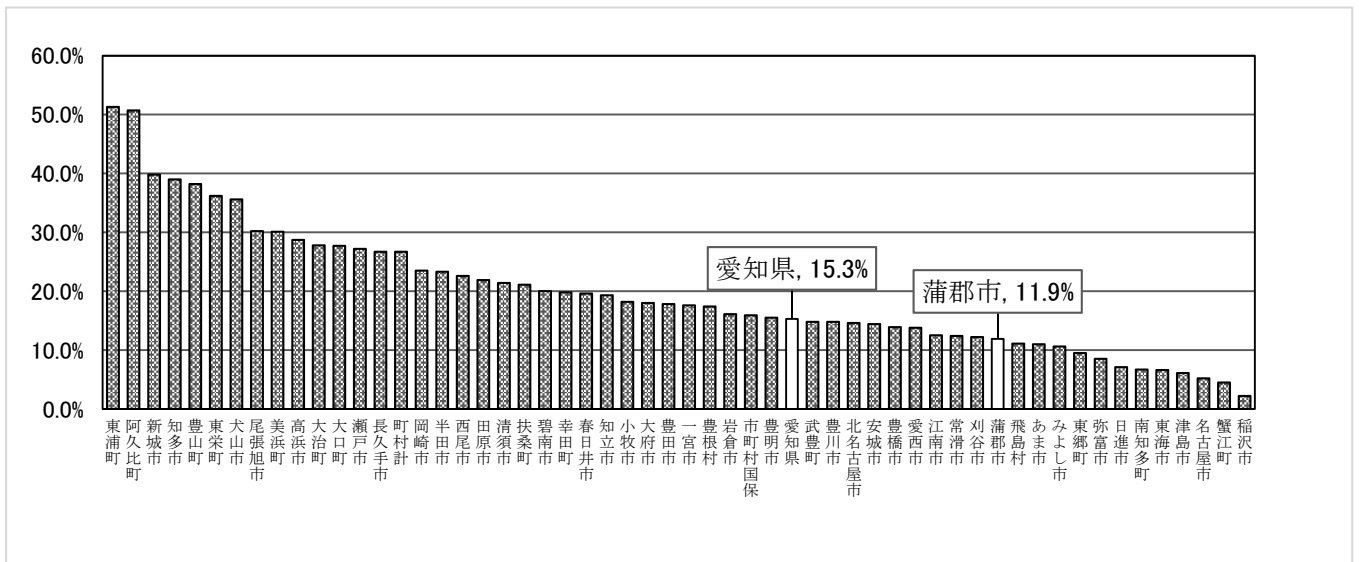
KDBシステム(平成26年度)「地域の全体像の把握」より

図表 34 蒲郡市の男女別メタボリックシンドローム該当者及び予備群の生活習慣病リスク発生状況



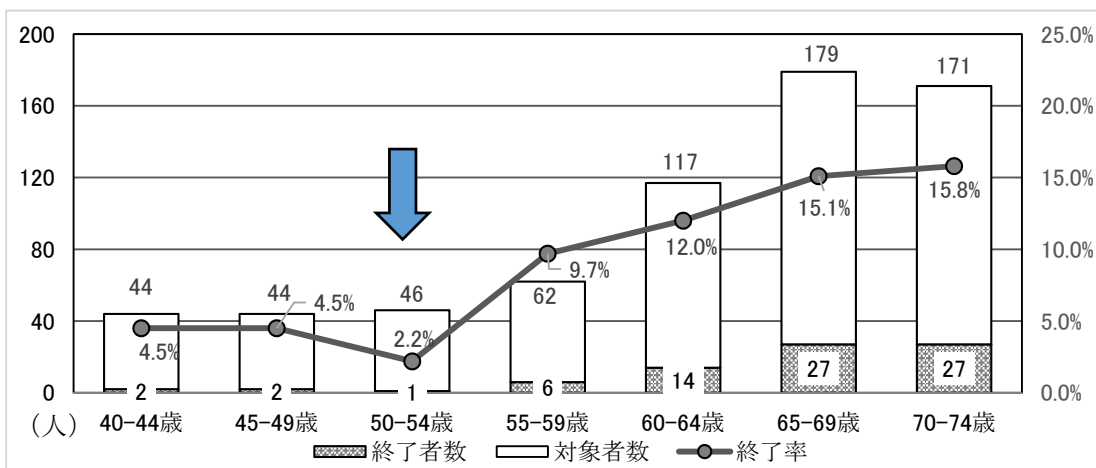
KDB システム (平成 26 年度) 「厚生労働省様式 6-8」 より

図表 35 市町村別特定保健指導終了率



AICube (平成 25 年度) 「法定報告 特定保健指導終了率ランキング」 より

図表 36 年代別特定保健指導対象者及び終了率

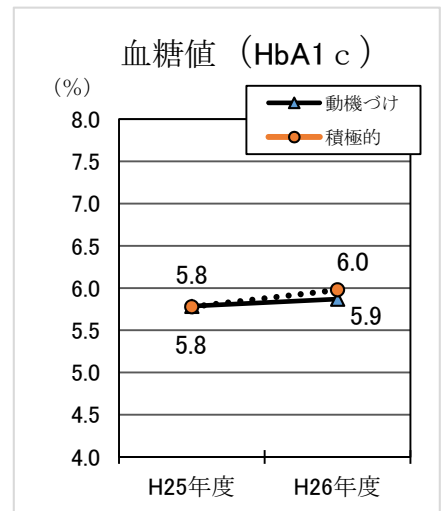
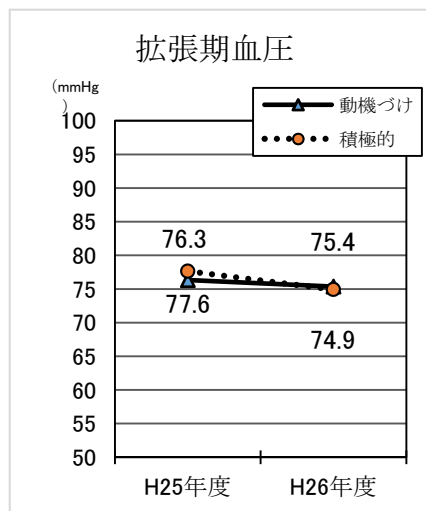
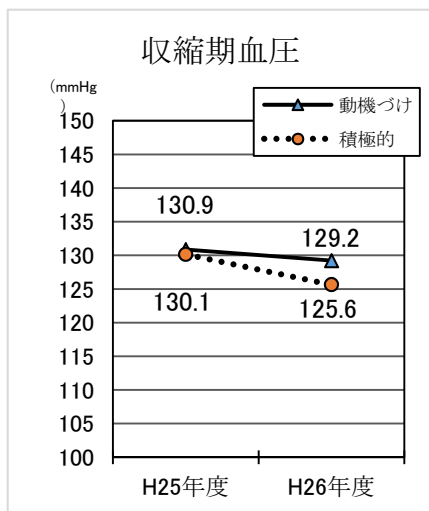
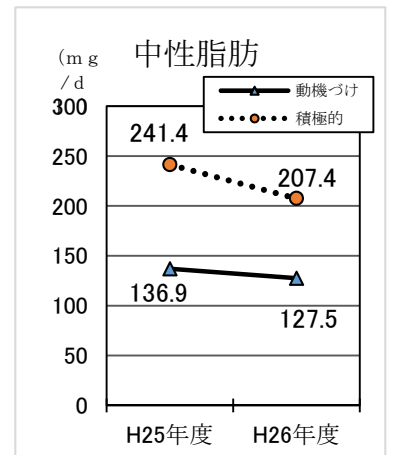
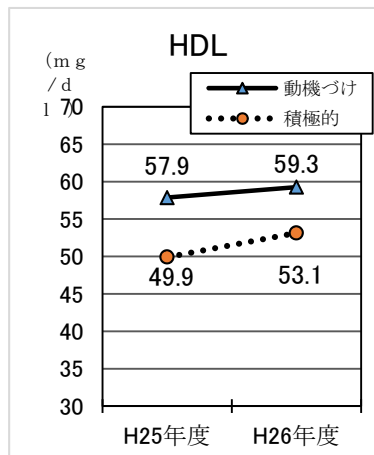
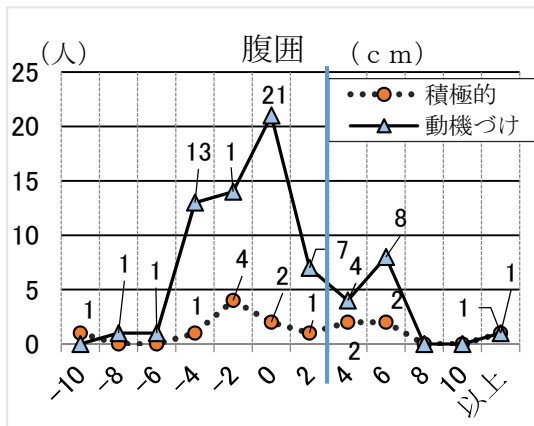
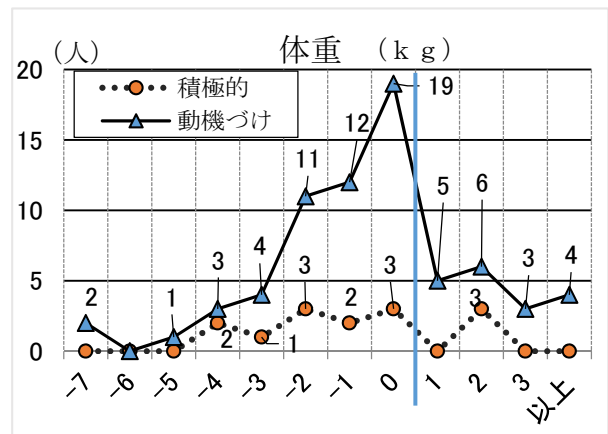
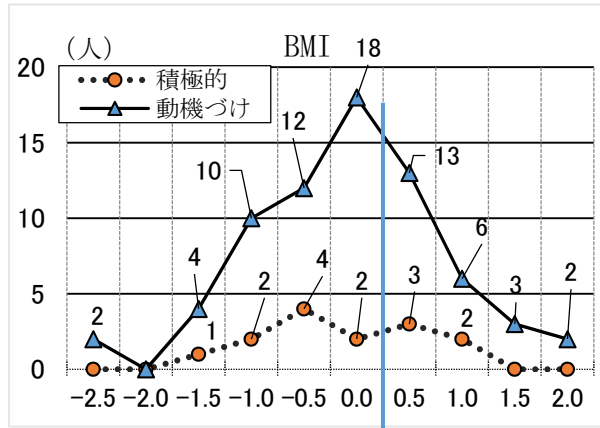


平成 25 年度 「法定報告」 より

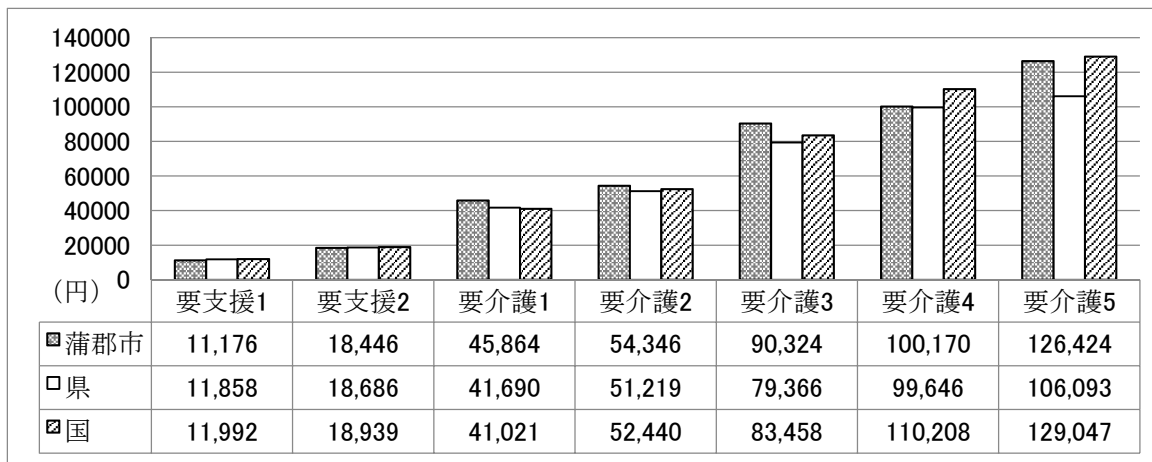
図表 37 特定保健指導利用者と未利用者の翌年度の保健指導判定

24年度特定保健指導対象者 (710人)		25年度の特定保健指導判定	
		非該当 (改善のあった人)	該当
保健指導利用者	78人	21人 (26.9%)	57人 (73.1%)
保健指導未利用者	632人	109人 (17.3%)	523人 (82.7%)

図表 38 特定保健指導による検査数値の変化



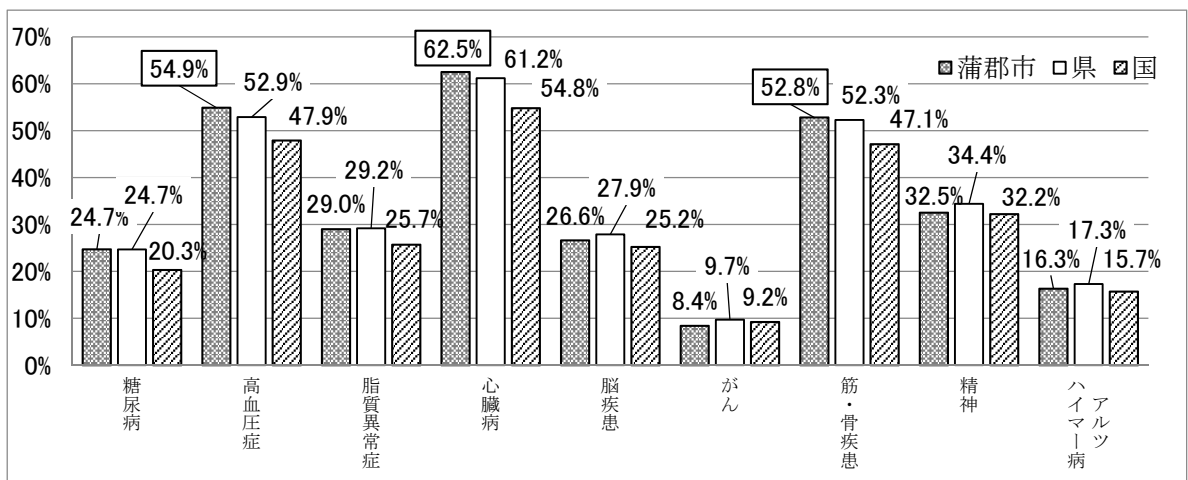
図表 39 要介護認定率及び一人当たり介護給付費



	認定率	1件当たりの介護給付費	2号認定率	新規認定率
蒲郡市	16.1%	57,780円	0.4%	0.3%
県	18.3%	57,624円	0.4%	0.3%
国	19.3%	63,011円	0.4%	0.3%

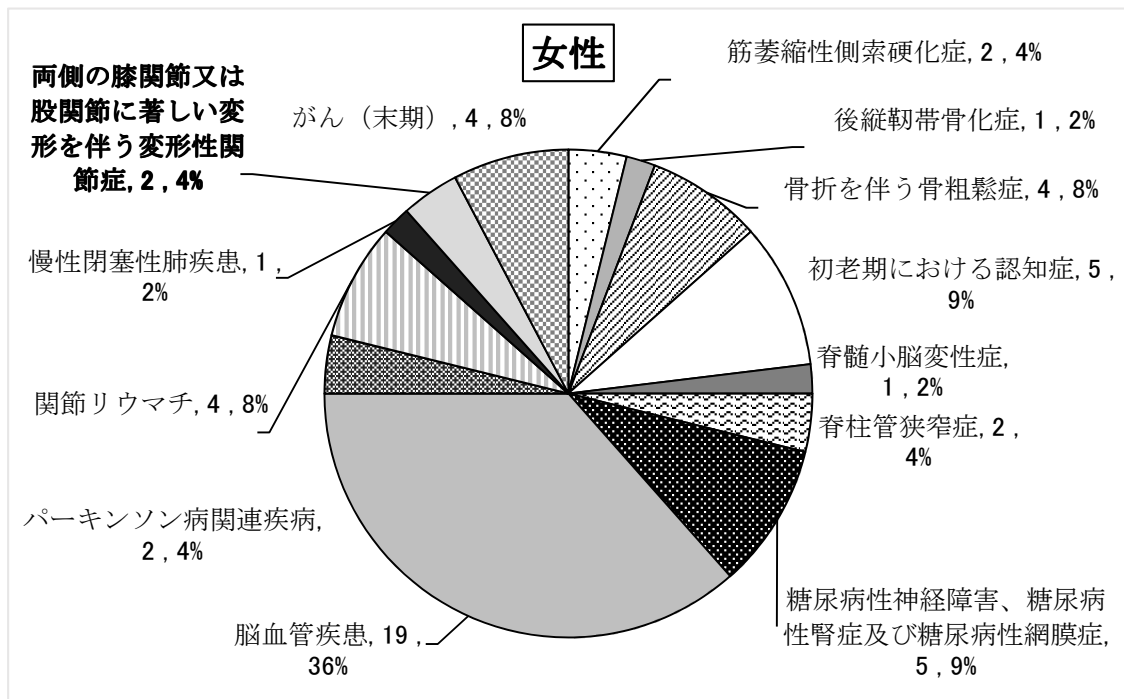
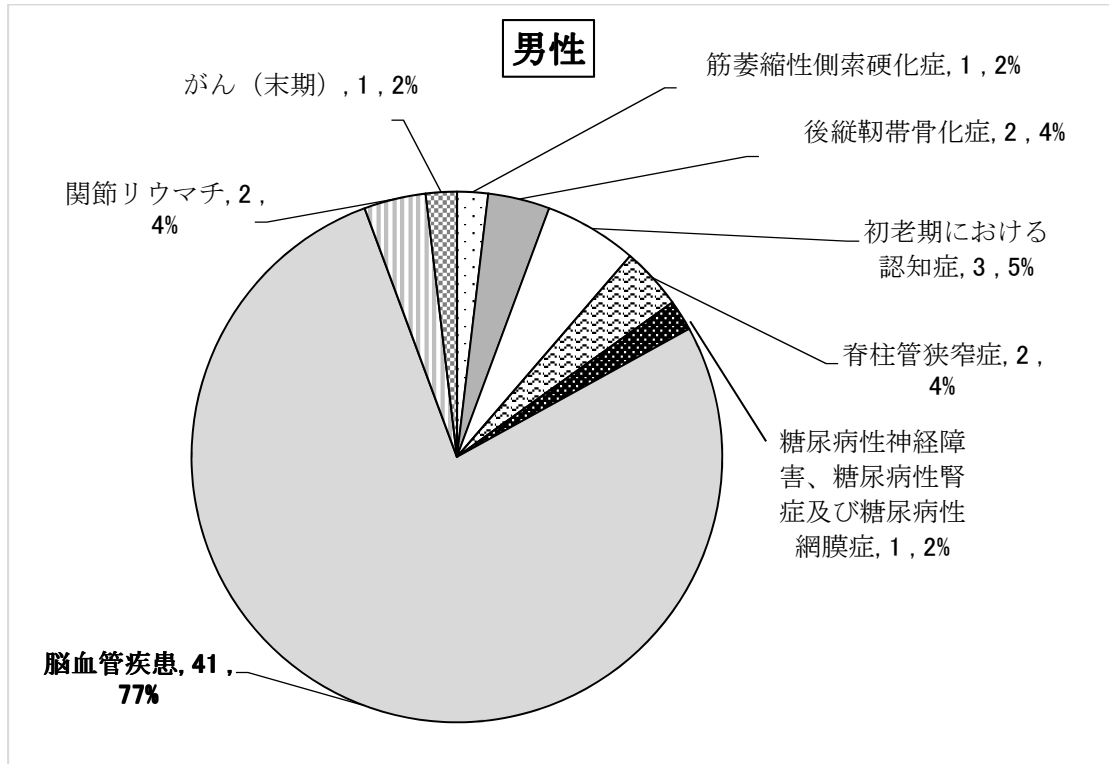
KDB システム（平成 26 年度）「地域全体像の把握」より

図表 40 要介護者の有病状況



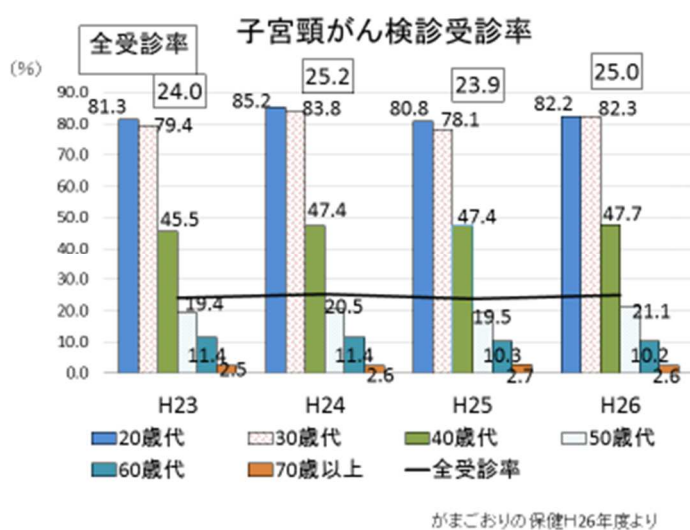
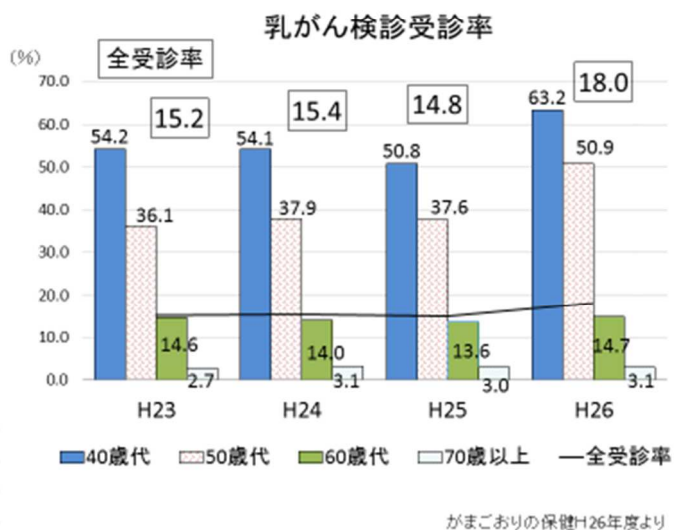
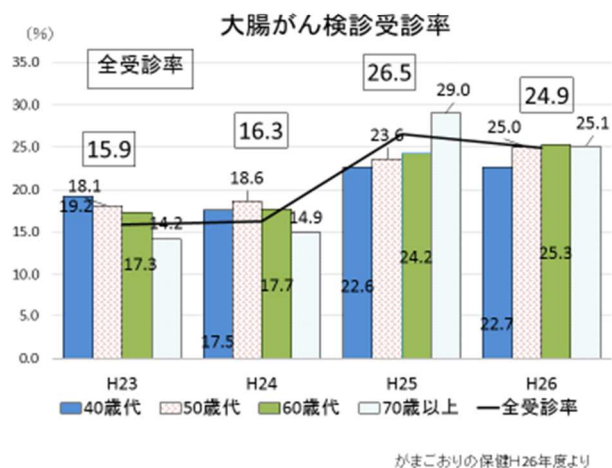
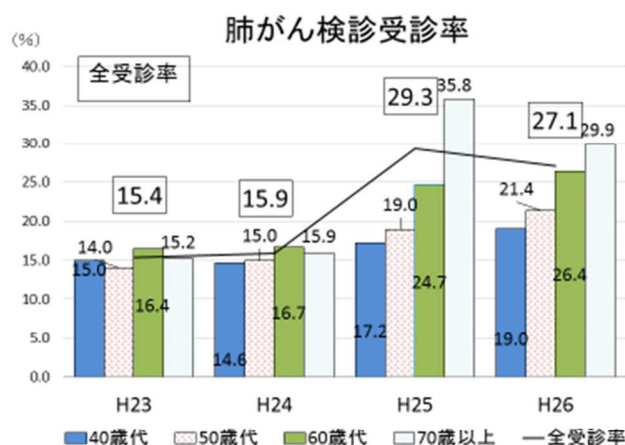
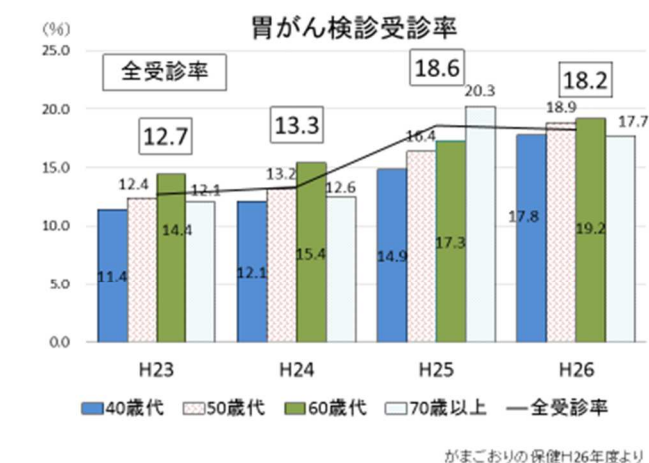
KDB システム（平成 26 年度）「地域全体像の把握」より

図表 40 65 歳未満の要介護認定者の原因疾患

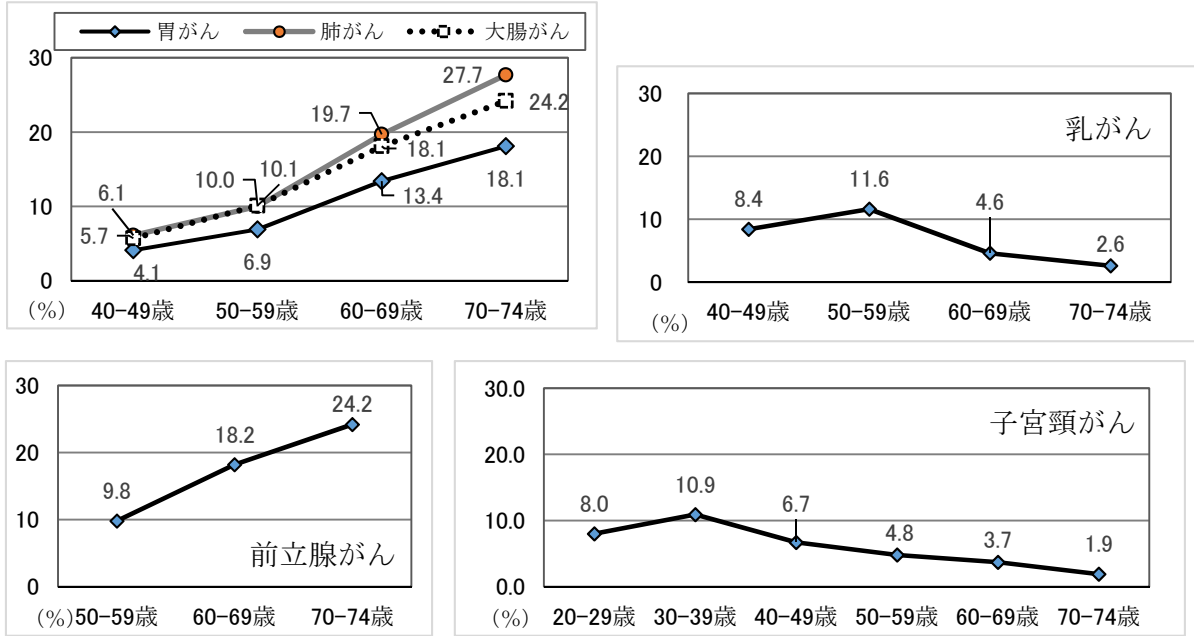


「2号被保険者の要介護認定申請時の主治医の意見書より（原因疾患）」より

図表 41 平成 26 年度がん検診受診率

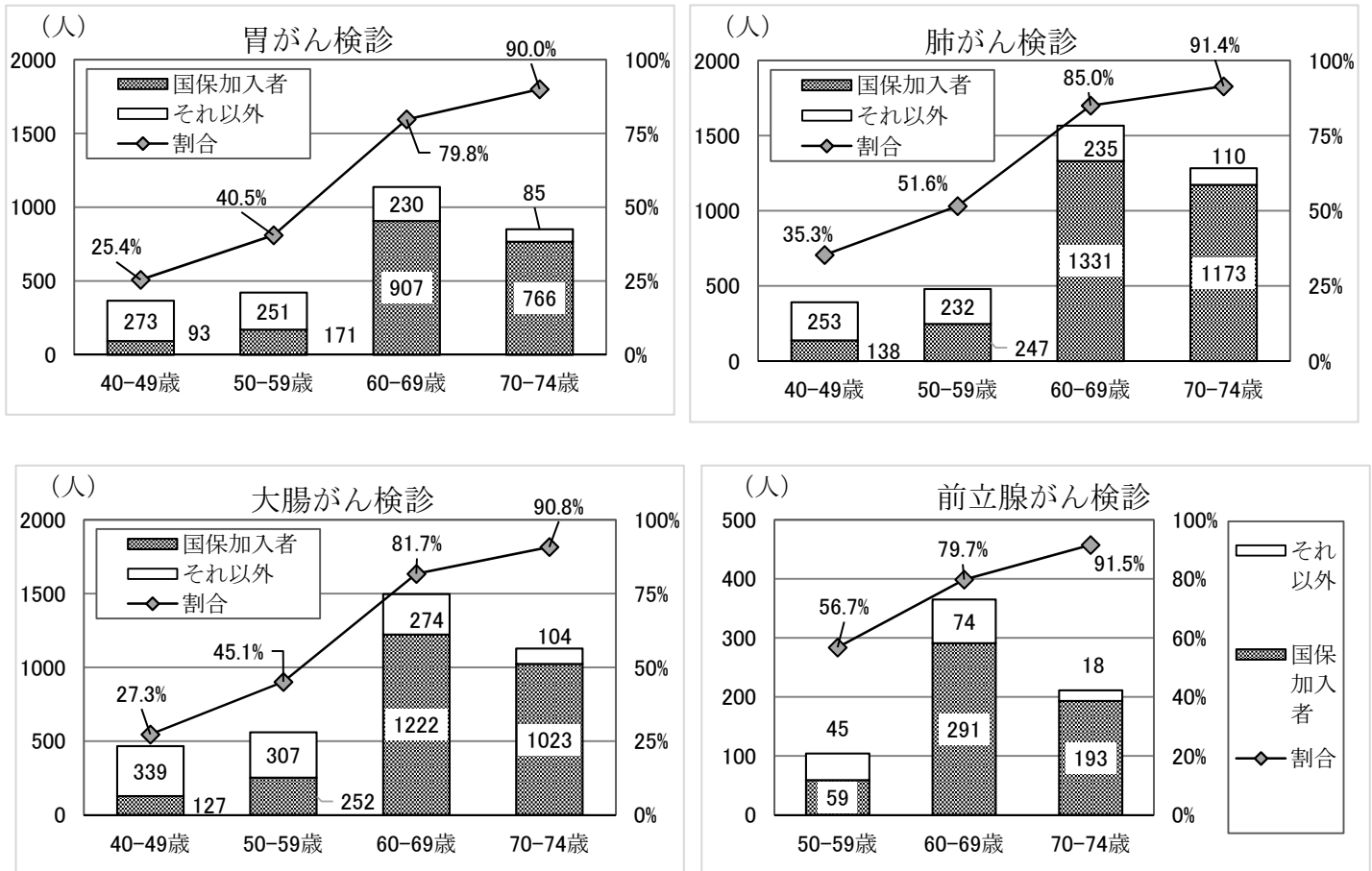


図表 42 平成 26 年度 国保加入者のがん検診受診者割合

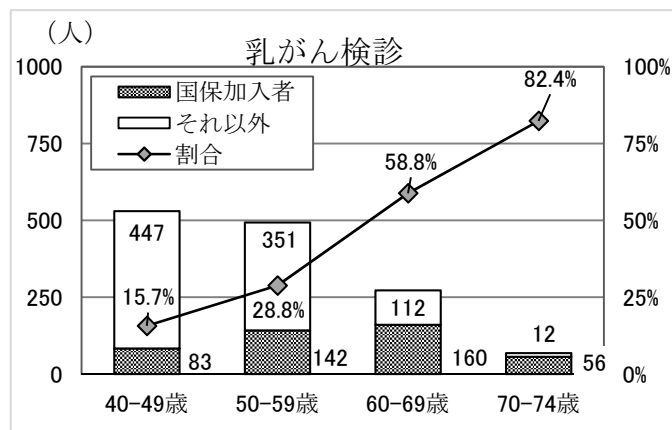
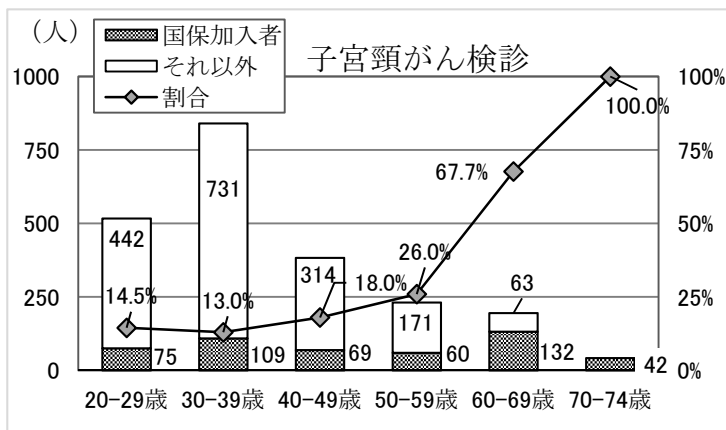


「健康かるて」より

図表 43 平成 26 年度 がん検診受診者の年代別国保加入状況

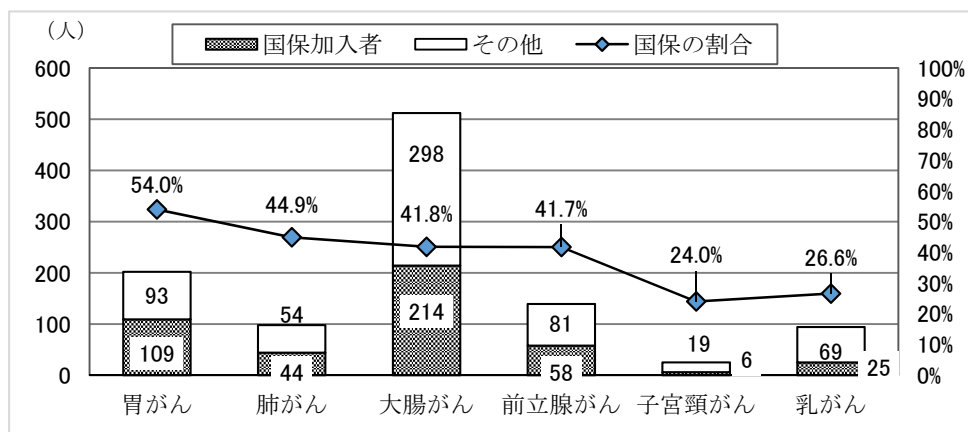


「健康かるて」より

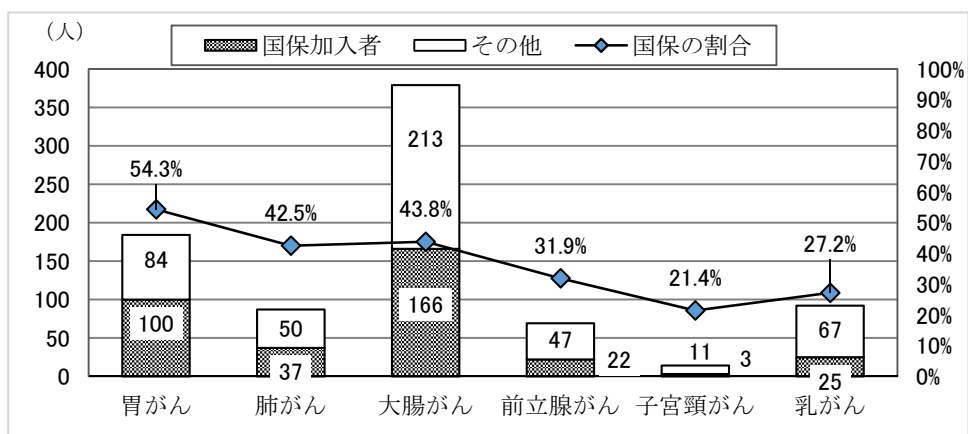


「平成 26 年度がまごおりの保健及び健康かるて」より

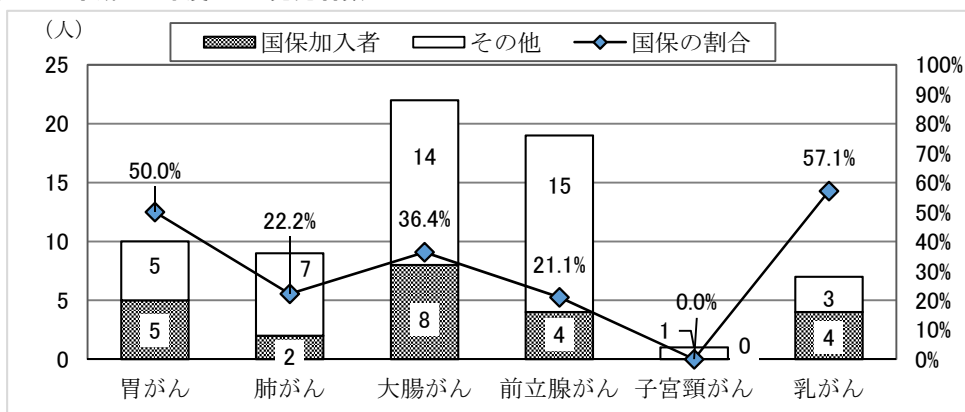
図表 44 平成 26 年度 がん検診 要精密検査数



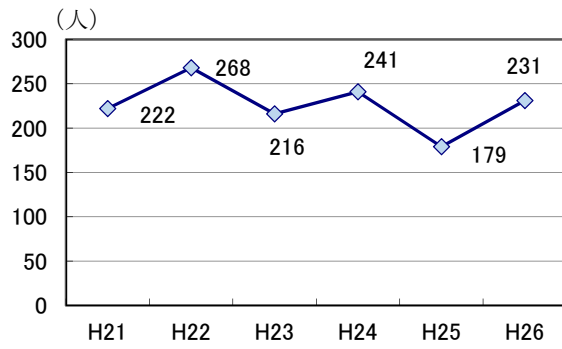
図表 45 平成 26 年度 がん検診 要精密検査受診者数



図表 46 平成 26 年度 がん発見者数

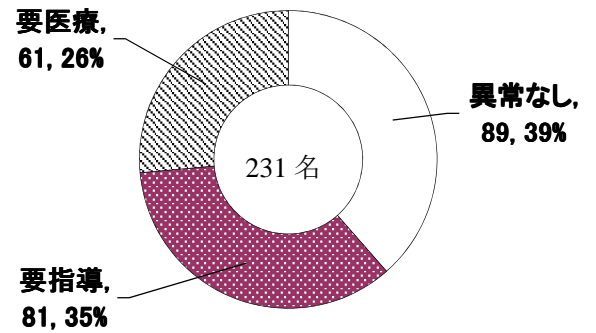


図表 47 ヤングエイジ健診受診率(全体)



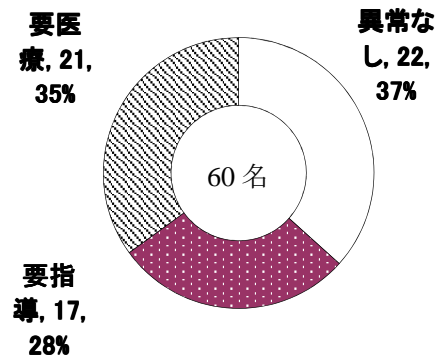
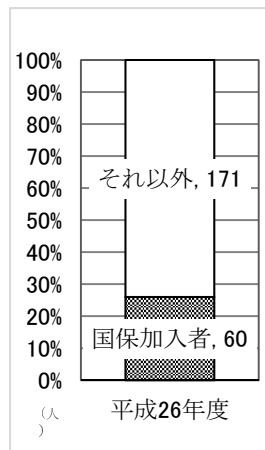
「平成 26 年度がまごおりの保健」より

図表 48 ヤングエイジ健診判定結果(全体)



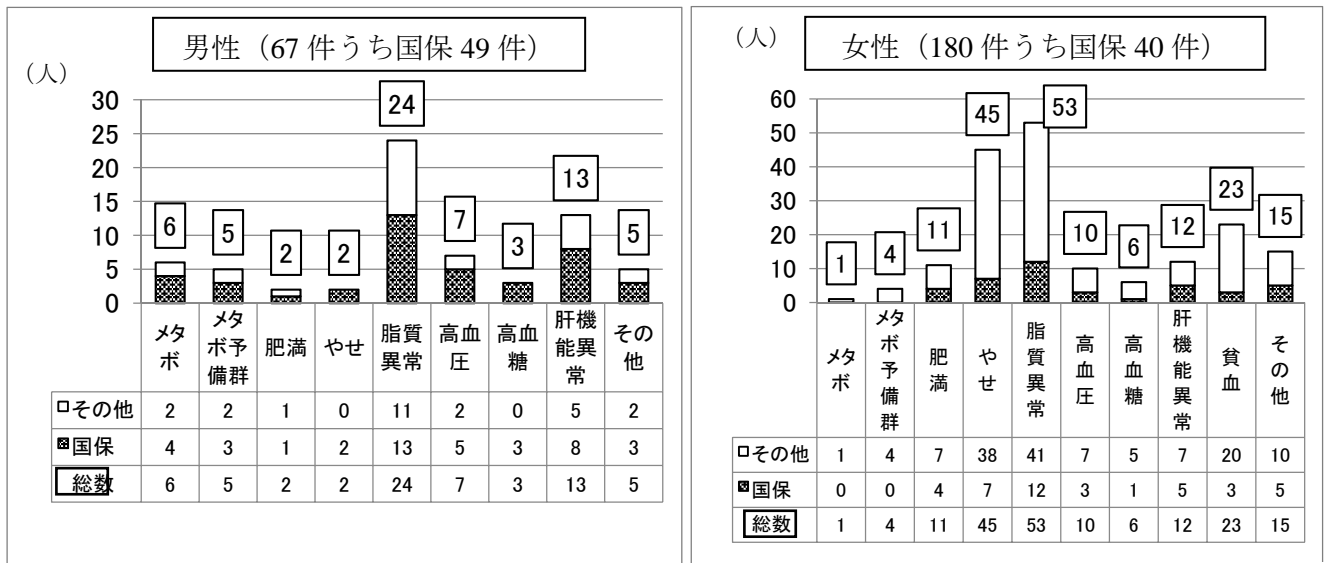
「平成 26 年度がまごおりの保健」より

図表 49・50 ヤングエイジ健診受診者の国保加入状況及び 判定結果の状況



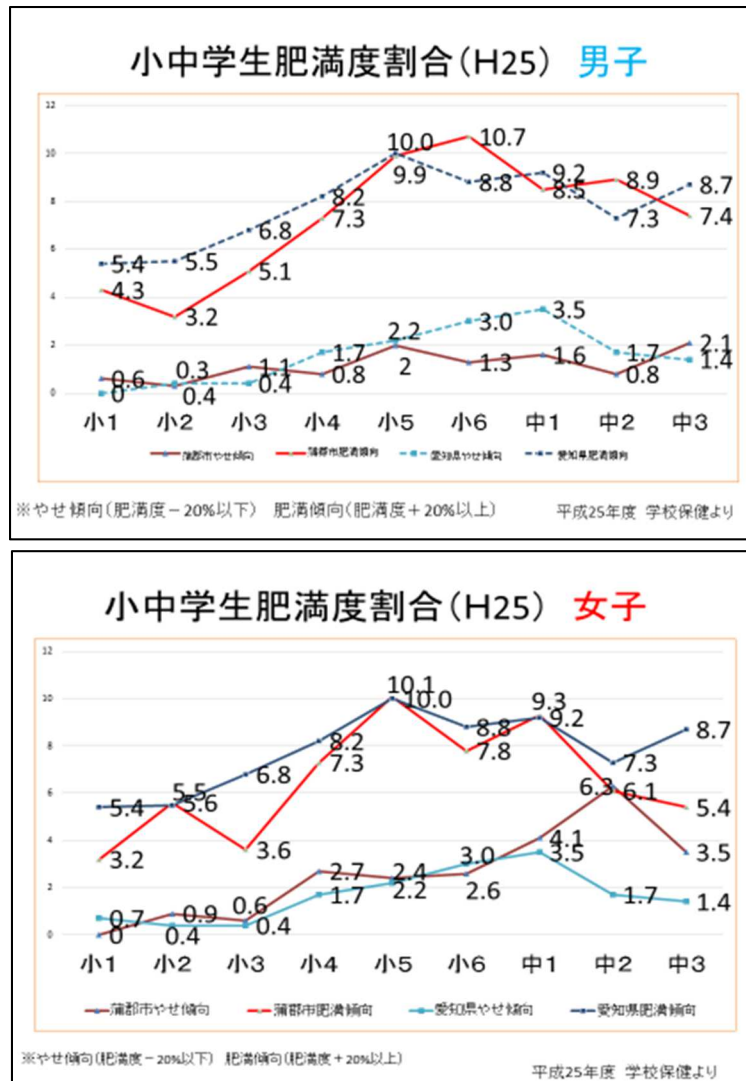
「健康かるて (平成 26 年度)」より

図表 51 要指導と要医療判定者の性別主要所見内訳のうち国保加入者の状況(延)

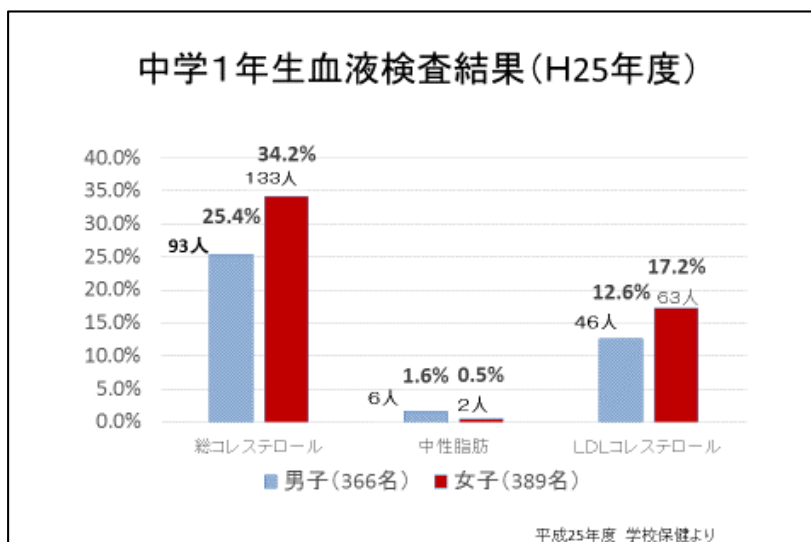


「平成 26 年度がまごおりの保健及び健康かるて」より

図表 52 男女別小中学生の肥満度割合



図表 53 中学1年生血液検査結果



既存の保健事業の取り組み・評価・課題

	事業名・実施主体	内容	評価と課題
健康づくり・生活習慣病予防（ポピュレーションアプローチ）	ヘルシーライフ セミナー	新規国保加入者を対象とした健康づくりの講話と制度説明 年1回 講師：国保職員・保健師・管理栄養士	評価：アンケート 課題：参加者数の増加と健康管理・健康づくりへの意識啓発
	水中運動教室	国保加入者及び後期高齢者医療加入者を対象としたユトリーナ蒲郡バーデゾーンを利用した水中運動教室 年3回×4コース（1コース8回） 講師：インストラクター 参加費：1,800円	評価：申込人数・参加者数・アンケート 課題：参加者数の増加と運動習慣の定着
	健康大学糖尿病学部（通学コース・通信コース）	糖尿病予防を目的に、各コースで講話や実習を行う教室 通学：全9回 参加費：2,000円	課題：新規利用者の発掘。現状の生活習慣病リスクに合わせた見直しが必要
	体重測定 100 日チャレンジ	在住、在勤者を対象に 100 日間毎日体重を量って記録することにより生活改善と体重コントロールをめざすチャレンジを実施	課題：新規参加者の増加と測定中断者の防止。特定健診結果の比較評価が必要
	美 body 教室	姿勢改善・自律神経の調整を目的とした運動自主グループの活動を支援している。	課題：自主化2年目。新規参加者の増加
	食育キャラバン隊	保育園に出向き、食事の大切さの普及と食習慣の定着を目的に食生活改善推進員の食育劇を通じて実施	方向性：3年クールで全園1巡。
	男性の料理教室	男性を対象として食事の振り返りと望ましい食生活の実践を目的に食生活改善推進員に委託し健康料理教室を実施	課題：参加者の拡大
	ヘルスサポーター 21 事業	健康を実践する人をつくるため、一般市民を対象に病態別の予防教室を行っている	方向性：市の健康課題に合わせた内容で実施
	食生活改善推進員活動	蒲郡市健康づくり推進協議会に委託し食生活改善のための地区活動を実施している	課題：推進員の人数の増加
	健康がまごおり 21 実践隊	地区のイベントにあわせて健康づくり 21 計画の推進をしている	課題：新たな対象者開催地の発掘
	ウォーキングの会	健康づくりいっしょにやろまい会主催で3地区にて定期的な会と全体的な会を実施している	課題：参加者の拡大と事業周知
	運動自主グループ	健康づくり教室を卒業したグループが自主的に運営。要望に応じ適時保健師等が支援している	課題：メンバーの固定化と継続支援方法の検討

	筋トレ・脳トレ実践教室		市民病院医師が講師の一般市民を対象とした健康づくり教室 毎月1回（土）	課題：新規参加者の発掘
	健康マイレージ	健康推進課	県との協働事業。18歳以上の市内在住・在勤・在学者を対象に健康づくりでポイントをためて優待サービスが受けられる制度 交付場所：保健センター	課題：参加者拡大と協力店の増加
	健康がまごおり 21 計画推進事業	健康推進課	健康がまごおり21計画の推進のための取り組み	評価：計画の各指標に基づいて評価 課題：地域、職域における取り組み拡充
健康管理（各種健診）	特定健康診査 個別健診	保険年金課	40歳から74歳の国保加入者を対象に無料で実施 実施場所：蒲郡市医師会所属の医療機関	評価：受診率・受診結果（特定健診とがん検診受診票を同封し同時に受診しやすい体制となっているが受診率が伸びない） 課題： ・40歳代、50歳代の各種健診受診率の向上 ・医療受診していない健診未受診者の受診勧奨 ・特定健康診査の継続受診の推奨 ・若い頃からの定期的な健康診査受診勧め ・結果説明の充実 ・かかりつけ医をもつ ・医療と連携した取り組み ・健康の意識啓発
	特定健康診査 集団検診①		蒲郡市保健医療センターの人間ドックと併せ特定健康診査を実施 一部費用を助成 40歳未満自己負担16,500円 40歳以上自己負担金7,000円	
	特定健康診査 集団検診② JA 集団人間ドック 助成		JA 蒲郡組合員・準組合員への総合健康診査と併せ特定健康診査を実施 一部費用を助成 助成額8,760円	
	節目人間ドック		国保加入者のうち年度末年齢が40、45、50、55歳を対象 結果説明を受けることを条件に蒲郡市保健医療センターの人間ドックを助成 自己負担金1,000円	
	脳ドック		50歳以上の国保加入者を対象とし市民病院の脳ドックコースの一部を助成 助成額30,000円	
	個別がん検診	健康推進課	胃・肺・大腸：40歳以上市民 前立腺：51歳以上奇数年齢男性 乳：40歳以上女性市民（隔年） 子宮：20歳以上女性市民（隔年） 実施場所：市内受託医療機関	
集団検診	骨粗しょう症：20～70歳女性市民 子宮がん：20歳以上女性市民（隔年） 骨粗しょう症・子宮がん同時：20～70歳女性市民（隔年） 実施場所：保健センター			

	骨粗しょう症検診		20～70歳の女性市民 実施場所：保健センター	
	歯周病検診		20歳及び40～70歳の5歳刻み節目年齢の市民 自己負担金：無料 実施場所：市歯科医師会医師	
	ヤングエイジ健診	健康推進課	若い頃からのメタボ予防と生活習慣病の早期発見・健康意識向上 18～39歳の一般市民 自己負担金500円 実施場所：市内受託医療機関	ヤングエイジ健診の周知及び若い頃からの健康づくりの必要性を伝える取り組みが必要
	生活保護受給者のための健康診査		医療保険加入者に含まれない生活保護受給者が、自らの健康状態の把握と生活習慣病を予防する 40歳以上の生活保護受給者（一部対象外あり） 自己負担金：無料 実施場所：市内受託医療機関	対象者のうち受診者は2%程度。受診者全員が要指導・要医療に該当している
	特定健診受診勧奨	保険年金課	・未受診者への受診勧奨はがき・電話勧奨（9月、1月） ・広報、HPでの周知 ・地区民協議会、総代連合会、地区のイベントに出向き受診勧奨と啓発 ・医療機関・薬局・公共施設などへの受診勧奨ポスターとチラシの作成、配布	評価：健診受診者数、受診勧奨電話数、はがき郵送数、地域での受診勧奨数 課題：医療機関や地域と連携した普及啓発。40歳での受診勧奨の強化
	がん検診受診率向上プロジェクト	健康推進課	・蒲郡信用金庫の各店舗に保健センターコーナーを設置し、がん検診等の周知 ・がんセミナーの開催 対象：市内在住・在勤の方 講師：医師会所属の医師	プロジェクトの活動がセミナーだけとなっているため、受診率工場のための新たな工夫が必要
特定健康診査事後支援	特定保健指導参加 勧奨 健診結果活用チラシの配布	保険年金課	・健診結果を健康づくりに活用するように促すチラシ（特定保健指導勧奨も含む）を作成し、健診受診直後に受診医療機関より渡す。 ・健診結果の経年比較グラフ及び健診結果の見方のパンフレットを同封し、対象者に合わせた教室案内 （①結果活用セミナー・健康相談 ②特定保健指導③重症化予防） 要医療者への受診勧奨メモ	評価：配布数・受診率・セミナー等への参加者数 課題：毎年度結果をマップ化し情報を伝えることにより地域で健康意識が向上し、健診受診につなげたい

結果活用セミナー		<p>保健指導対象外となった者及び 節目人間ドック利用者を対象とし た、健診結果の見方と今後の健康 づくりの講話及び運動体験 講師：保健師・管理栄養士</p>	<p>評価：参加者数 課題： 健診結果に基づく健 康管理の意識向上 地域の健康づくりの 場への参加</p>
特定保健指導	保険 年金課	<p>特定保健指導の対象者 委託機関 医療機関(積極的2箇所、動機付 5箇所) 愛知県健康づくり振興事業団 健康推進課 JA あいち厚生連 実施方法 ・管理栄養士の個別指導 ・訪問指導 参加勧奨 ・勧奨電話・はがきの通知</p>	<p>評価：保健指導終了 率・6ヶ月後評価、 1年後の健診結果 経年比較(開催日 数は増やしている が、1回の利用者が 少なく、利用率の 増加につながって いない) 課題： ・委託医療機関と連 携した保健指導 PR ・年代別・性別を考 慮した保健指導実 施 ・個別、訪問保健指 導の充実</p>
重症化予防		<p>HbA1cの数値に応じた糖尿病およ び合併症予防の取り組み ・HbA1c6.5未満…結果活用セミナ ー案内 ・HbA1c6.5以上7.0未満…高血糖 の注意喚起チラシを同封 ・HbA1c7.0以上…健診結果は保健 師及び管理栄養士から直接手渡し (結果活用セミナー・健康相談・ 個別面談・個別訪問等にて)。 対象者に合わせ医療受診、生活改 善及び合併症予防を促す</p>	<p>評価：翌年の健診結 果検査数値及び要 注意者へ事後フォ ロー 課題：説明後の展開 (保健センターの 健康大学、市民病 院の糖尿病教室へ つなげるなど)や、 説明拒否の方への 対策、医師会(か かりつけ医)との 連携</p>
健康相談	健康 推進課	<p>保健師・管理栄養士・歯科衛生士 による相談。 対象：一般市民(健診事後、重症 化予防対象者への個人面談を含 む)</p>	<p>課題：健康相談数が 現象しているの で、PRと、健診事 後指導の場として 拡充する。保健指 導の結果を個人の 健康状態の改善ま で確認し、主治医 との連携が必要</p>

	健康大学糖尿病学部専門コース		糖尿病を悪化させない、合併症を予防する方法を学び血糖コントロールのコツをつかむ教室。 対象：市内在住・在勤の生活改善が必要だと思われる方 講師：外部講師・保健師・管理栄養士	課題：コース終了後の特定健診の結果の確認と重症化防止のための取り組みを継続させることが必要。
	禁煙サポート講座		禁煙の意思のある方・その家族、家族の禁煙を希望している方対象 禁煙のきっかけの場、禁煙する自信を持ち実践できるようにサポートする	課題：禁煙成功者は出るが、参加者が少ない。
	宿泊型新保健指導	健康推進課	特定健診結果、メタボ該当、HbA1c5.6以上等を対象とし、地元旅館に宿泊して保健師、管理栄養士等の保健指導プログラムを実施、その後6ヶ月間継続支援を行う。 参加者 56人	評価：特定健診の結果・本人の目標の達成状況、アンケート、参加人数 課題：対象者の見直し。特定保健指導と連動した実施に結びつけ、効果的な保健指導を実施していく
介護予防	男性向け「体カアップ！！若返り講座」 (国保保健事業)	長寿課	60～70代の男性を対象 運動実践と健診結果に基づく保健指導により健康管理意識を高め体力維持向上を図る。 計10回 参加者30名	課題：特定健診の受診の動機付けや体力に合わせたクラス分けが必要
	高齢者ボランティアフォローアップ研修(国保保健事業)		介護予防サポーター等を対象に高齢者の支援のための知識を普及。 計6回 参加者40名	課題：地域活動につなげるため、他部署との連携が必要
	シニアエアロビクス		60歳以上の市民を対象 運動の体験と運動習慣づくり 計8回2クラス 参加者30名	課題：男性のクラスを検討
	シニア体力測定		60歳以上の市民を対象 6種目の体力測定から自己の体力を知り実践につなげる 計1回 参加者50名	課題：包括支援センターへ委託を検討
	介護予防講演会		60歳以上の市民を対象 年1～2回 参加者1100名	他のイベントと合同開催
認知症支援	認知症家族の交流会		認知症介護家族を対象 介護の悩みを話しあう交流の場 年4回 参加者10～15名程度	課題：自主グループ化へ
	認知症サポーター養成講座		認知症支援者の養成講座 随時開催	課題：40～50代の方への講座の開催
	認知症家族支援プログラム		認知症(初期・中期)の家族対象 認知症の知識を身につけ、介護負担を減らすためのプログラム 計6回1コース 参加者12名	課題：参加しやすい日時を検討

課題の整理とその他の評価指標

(1) 特定健康診査・がん検診受診等における課題

<現状のまとめ>

40 歳代、50 歳代の特定健診の受診率の低さが目立ち、医療及び特定健診未受診者(4,084 人)の健康状態の把握ができていない状況にある。また 3 年以上の連続未受診者が多く、特に働き盛りの年代の未受診率が高い。

新生物の一人当たり医療費は県平均より高く、死因の 50%以上を占めている。特に胃がんにおける医療費は高い傾向にあるが、胃がん検診受診率は県平均を下回っている。

<課題>

- 特定健診における継続受診者を増やすと共に、医療及び特定健診未受診者(4,084 人)への特定健康診査受診勧奨を行い、健康状態の把握及び健康管理を推奨していく必要がある。
- 40 歳代・50 歳代が特定健康診査・人間ドックを受診しやすい体制づくりが必要である。
- 職域と連携して職場健診結果を把握し、特定健康診査未受診者の健康状況の把握に努める必要がある。
- 40 歳未満を対象としたヤングエイジ健診の周知を充実させ、若い頃から経年的に健康診査を受けることを定着させて必要がある。
- 胃がん検診を中心にがん検診の受診率の向上を図り、精度管理を把握して早期発見の向上に努める。
- 健康診査及びがん検診、骨粗しょう健診等、各種健診の受診による健康管理の普及に努める必要がある。

(2) 健康づくり普及における課題(ポピュレーションアプローチの課題)

<現状のまとめ>

平成 25 年度の特定健康診査の問診表では、「20 歳時の体重から 10 kg 以上増加した人は 33.6%であり、県平均の 32.6%を上回り、若い頃からの体重管理ができていない状況にある。

平成 25 年度の特定健康診査の結果では、腹囲有所見の該当率は 35.9%で県平均の 31.8%を上回り、内臓脂肪型肥満が多い傾向にあることがわかる。また 50 歳代男性の腹囲 85cm 以上の人 54.5%であり、有所見率も血糖は 11.5%、HbA1C は 52.5%、尿酸は 25.0%と他の年代に比べ高い傾向にある。50 歳代女性も 40 歳代に比べ急激に有所見率が高くなっている。

平成 25 年度の医療費分析における高血圧症の受診率は 10.6%であり、県平均の 8.8%を上回り、高血圧症患者が多い。

特定健康診断の問診表による生活習慣は県平均と比べて目立った問題となる項目はないが、特定保健指導及び各種健康教育の参加者の様子では、男性は野菜不足、女

性は間食や果物の食べ過ぎがあり、男女ともに早食いや食後に横になることが多く、運動不足も多い。

平成 25 年度の特定健康診断の問診表による喫煙率は 13.6%であるが、乳幼児健診の問診表による父親の喫煙率は 38%であり、周産期医療費も県平均を上回る。

特定保健指導利用者の男性は、退職後に体重が増加した人が多く、また体重測定をしていなかった人が多い。

介護保険認定者の有病率では、骨・筋疾患が県平均より高い状況にある。

<課題>

- 20 歳～50 歳代への体重管理、内臓脂肪増加対策への意識向上を図る必要がある。
- 退職後の健康管理、健康づくりの普及に努め、メタボリックシンドロームの予防を図る。
- 適切な野菜の摂取量と食べ方を普及し、バランスの良い食事と減塩の推進活動が必要である。
- 子育て世代の家族への食育をはじめとする健康管理の普及と喫煙防止対策が必要である。
- 運動習慣の推進し、生活習慣病及び介護予防を図ることが重要である。

(3) 介護予防における課題

<現状のまとめ>

第 1 号被保険者数は、毎年 2～3%ずつ増加しており、65 歳以上の高齢化率は 25.0%。今後も増加していくと予想される。

要介護認定者数も、近年 2～4%ずつ増加しており 3,211 人となった。第 1 号被保険者のうち要介護認定者の占める割合は、14.6%で、要介護認定者の中では後期高齢者の割合が高く 87.3% (2,706 人) を占めている。

軽度認定者（要支援 1～要介護 2）の割合は増加傾向である一方、重度認定者（要介護 3 以上）の割合は減少傾向にある。

第 2 号被保険者の要介護認定者数は、平成 19 年の 90 人から毎年徐々に増加し、112 人となった。

介護給付費も、要介護認定者の増加に伴い近年では、毎年 1 億 9 千万円強ずつ上昇している。

※施設介護サービス給付費の上昇に比べ、居宅介護サービス給付費の上昇が目覚ましい。特に訪問介護・通所介護・福祉用具貸与の利用者が増加している。

<課題>

- 第 2 号保険者の要介護認定の増加抑制のために、40 歳代、50 歳代の健診結果に基づく健康管理の普及及び 60 歳代からの介護予防における健康管理への意識向上への対策が必要である。
- 退職後等 60 歳代からの地域参加等による生きがい対策を図り、要介護抑制及び地域力の活性に繋げていく必要がある。

- 要介護者の有病率から、糖尿病、心疾患等の循環器疾患の予防及び治療コントロールを図り、また筋・骨疾患においてはロコモティブ・シンドロームの予防等の普及活動が重要である。

(4) 健康診査後の健康管理への普及への課題

<現状のまとめ>

平成 25 年度の特定健康診査では、男女共に BMI 25 以上及び腹囲が大きい人が多く、メタボリックシンドローム該当率は、男性の県平均が 27.3% に対し本市は 29.3%、女性の県平均が 10.3% に対し本市は 13.5% と男女共に高い。また心電図の有所見率は、県平均が 15.5% に対し本市は 26.5% である。また有所見率も複数該当者が多く血糖及び血圧の有所見率は 2.8% (県平均 2.5%)、血糖及び脂質の有所見率は 1.6%、(県平均 1.0%)、血糖及び血圧及び脂質の有所見率は 7.1% (県平均 5.6%) と高い。

特定健康診査受診者の 91.5% が、保健指導、受診勧奨、治療中の方である。

<課題>

- 各自の健康状態、年代に合わせて、特定健康診査の結果の見方や生活習慣改善方法を伝える機会を設け、メタボリックシンドローム及び生活習慣病の予防を図る必要がある。
- 健診結果を経年的に見て生活習慣の改善を図ることの必要性や、異常のない人には継続受診を推奨し、受診の必要な方には受診勧奨を実施していく必要がある。
- 糖尿病及び心疾患等、循環器疾患予防を中心とした対策が必要である。

(5) 特定保健指導における課題

<現状のまとめ>

特定保健指導利用率は向上しているものの、県平均を下回り、動機付け支援は 17.4%、積極的支援は 3.0% であった。また、40 歳代、50 歳代の働く世代の利用率は低く、保健指導の利用勧奨電話も仕事等による不在が多い状況にある。

保健指導期間に、仕事を始めて国保から脱会する方や、40 歳代、50 歳代の積極的支援では、仕事が忙しい等の理由で指導を中断する方が時々いる。

積極的支援においては、定期的な面接により体重の減量及び生活習慣の改善の効果がみられるが、初回のみ指導となる動機付け支援者の改善は、初回から 2 か月は行動目標を達成しているが、その後の継続に至らない人がいる。

保健指導によるメタボリックシンドローム該当及び予備群の減少率は 26.9% であり、市町村国保の平均 26.6% とほぼ同等である。

<課題>

- 40 歳代、50 歳代が特定保健指導を受けられるよう、受診医療機関等の連携や特定保健指導の開催方法を工夫する必要がある。
- 動機付け支援方法を検討し、目標行動の継続及び修正による取り組み可能な行動変容にむけた支援が必要である。
- 保健指導利用者の生活習慣改善への意欲継続のため、地域の健康づくりの場を紹介するなど、保健指導以外の場へのつなぎ方を検討する。

(6) 特定保健指導対象外の疾病危険リスク者における課題

<現状のまとめ>

特定健康診査受診者の特定保健指導対象外の54%(574人)が、受診が必要と判定されている。心電図の有所見率は、県平均が15.5%に対し本市は26.5%である。また有所見率も複数該当者が多く、血糖及び血圧の有所見率は2.8%(県平均2.5%)、血糖及び脂質の有所見率は1.6%(県平均1.0%)、血糖及び血圧及び脂質の有所見率は7.1%(県平均5.6%)と高い。クレアチニンの有所見率は、1.9%で県平均の1.7%を上回り、尿酸の有所見率も21.3%と県平均の9.6%を大きく上回っている。また透析患者の割合は、平成25年度は県内3位である。

<課題>

- 受診が必要と判定された方が、医療機関受診につながるよう、医療機関と連携して受診勧奨していく必要がある。
- 特定保健指導対象外の有所見者に対し、健康教育及び健康相談への利用を推奨し、重症化の予防のための生活習慣改善への支援を行なう必要がある。
- 尿酸及びクレアチニンの検査結果をもとに医療機関と連携し、CKDの予防に努める必要がある。

(7) 生活習慣病の重症化予防における課題

<現状のまとめ>

KDB厚生労働省様式「糖尿病等生活習慣病予防のための健診・保健指導」では平成25年度の特定健康診査受診者のうち、生活習慣病の治療をしている人は、4,571人(78.0%)であり、その中で「生活習慣病コントロール不良」と判定された人は、2,618人(58.0%)であるが、現在、治療中の人への重症化予防の取り組みはしていない状況にある。

<課題>

- 生活習慣病の治療中の方でも、生活習慣改善がされず、コントロール不良となっている可能性がある。医療機関と連携し、必要に応じて主治医の指示のもと生活習慣改善に向けた保健指導が実施できる体制づくりが必要である。

(8) 生活習慣病予防における課題

<現状のまとめ>

平成25年度の医療費の割合は、悪性新生物が25.6%であり、一人当たり医療費用も他の疾患に比べ一番高額であり、県平均を大きく上回っている、悪性新生物の中でも胃がんの医療費が高額となっている。また高血圧医療費は10.8%であり、県平均の8.8%より高い状況にある。循環器系疾患の一人当たり医療費は県と比べ低額だが、くも膜下出血や動脈硬化、内分泌系疾患の糖尿病などは、県平均を上回っている。糖尿病対策においては、健康推進課により平成25年度から3年計画で健康大学糖尿病学部として開催し取り組んでいる。

<課題>

- がん予防のための生活習慣の周知及び早期発見のためのがん検診の受け方などの周知を図る必要がある。胃がんについては、がん検診受診向上に合わせ、ピロリ菌除去などの予防策への取り組みについても検討していく必要がある。
- 特定健康診査の結果及び医療費分析から、循環器系疾患の予防及び糖尿病予防対策が必要である。健診受診者及び医療受診者、一般市民と各対象者に合わせて医療機関と連携し取り組む必要がある。

(9) 慢性腎不全予防における課題

<現状分析>

平成 25 年末の人口 1 万人あたりの透析患者の割合は県内 3 位と高率であり、216 人に及ぶ。KDB 医療費割合では、慢性腎不全(透析)は、6.9%と県の 6.7%と大差はないものの、特定健康診査結果では、腎機能の有所見率が高い状況にある。本市では腎不全対策における取り組みは実施していない状況にある。

<課題>

- 特定健康診査の結果からハイリスク者を把握し、保健事業への取り組み及び医療機関との連携を図り、予防及び早期治療につなげていく必要がある。
- 透析患者の原因疾患及び透析開始年齢等を把握し、原因疾患への予防策を図る必要がある。

蒲郡市国保保健事業実施計画（データヘルス計画）
第1期（平成27年度～29年度）

発行：平成27年12月

企画・編集：蒲郡市市民福祉部保険年金課

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町17-1

電話 0533-66-1103

Fax 0533-66-1181